

第1章 2017年度 法政大学ボランティアセンター活動報告

巻頭言

法政大学ボランティアセンター長 内山政春

法政大学は、市ヶ谷、多摩、小金井の3キャンパスにボランティアセンターを置いています。本学のボランティアセンターは、ボランティアの名にふさわしく、その活動を学生が中心となって行なっています。多くの活動はキャンパスの特性に合わせて各キャンパスで行なわれているので、ここでは市ヶ谷キャンパスの状況について簡単に申し上げることにいたします。

市ヶ谷での活動にはふたつのグループからなる学生スタッフが大きな役割を果たしています。ひとつがVSP（ボランティア支援プロジェクト）で、法政大学ボランティアセンターの開設以前から活動を継続している、いうならばボランティアセンターの母体となったグループです。もうひとつが「チーム・オレンジ」で、東日本大震災を契機に「東北被災地のために私たちにできることを」という理念で発足しました。

ボランティアセンターにとって活動の大きな柱となるのがいわゆる地域貢献です。そのひとつとして本年度あらたに東京メトロと提携し、法政大学の最寄り駅のひとつである飯田橋駅を舞台に、本学学生によるボランティア活動が始まりました。介助を必要とする駅利用者への声かけや道案内を行なうものです。活動に先立ち6月には東京メトロの施設と飯田橋駅で研修会が実施され、マスコミにも広く報道されました。私自身もこの研修会に同行しましたが、非常に教えられるところの多い有意義なものでした。その後このボランティア活動は継続的に行なわれ、2月には参加した学生たちによって報告会が開催されました。学外からは東京メトロ、日本ケアフィット共育機構、日本盲人会連合の関係者の方々が出席してくださり、それぞれの立場からの貴重なご意見をうかがうことができました。この活動は東京メトロのご厚意により、2018年度も継続して実施される計画です。

大学周辺ではほかに富士見わんぱくひろば（児童館）で行なわれる「わんぱくこどもまつり」にボランティアとして参加しています。ここではピアノ解体ショー、楽器演奏、合唱などからなる音楽会（上記「VSP」の呼びかけに本学サークルのアカデミー合唱団とピアノの会が協力）や、ラーメン、餃子作りとカルタで学ぶ防災知識（一風堂とのコラボ）など、学生スタッフの発案による企画も開催しています。なお一風堂とのつながりは、7月に発生した九州北部豪雨による被災者の支援のため上記「チーム・オレンジ」が近隣の一風堂飯田橋サクラテラス店に協力を依頼し、法政フェア（法政大学が主催する卒業生とその家族を対象としたイベント）で一風堂の商品を販売して利益を義援金として寄付したことがきっかけで始まったものです。

それ以外にも、飯田橋グラン・ブルーム管理組合が主催する「まちのわ」イベントに参加させていただいたり、もっとも身近なところでは千代田区、九段環境整備協議会と協力して定期的に大学周辺の清掃活動を行なうなど、本学学生にとってボランティア活動は地域住民との交流を広げるのにも役立っています。

2020年に予定されている東京オリンピック・パラリンピックを控えたボランティア活動も活発になってきました。東京都と協力して「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を2016年度に引き続いて開催したほか、車椅子フェンシングを考える講座やボッチャ（いずれもパラリンピック正式種目）体験教室などを実施しました。障害者スポーツへの関心を高めるといった目的があるのはもちろんですが、スポーツだけに留まるのではなく、障害者がどのような助けを必要としているか、健常者が障害者にどう向き合えばよいのかを考えるきっかけのひとつになってほしいと思います。冒頭で述べた東京メトロと協力しての活動はまさにこれを目的としたものですし、同様の目的から本年度も手話講座を開講しました。これらはオリンピック・パラリンピックだから、というのではなく、つねに必要とされる、継続的な活動が望まれるものだと思います。

もうひとつの活動の柱は被災地支援です。東日本大地震で被災した各地を訪ねる「スタディーツアー」を学生スタッフ「チーム・オレンジ」の企画のもと、春、夏、秋に実施しています。震災から7年がたち、当時子供だった今の大学生たちにとって、マスコミの報道などでしか知らなかった現実を見て実情を知ることが非常に重要なことです。彼ら自身もそう思うのか、毎回キャンセル待ちが出るほど人気がある企画です。春は学生が抵抗感なく入っていけるよう見学を主としており、一方夏は地元の人たちの畑仕事を手伝ったり、仮設住宅の住民たちとの交流会を持ったりと、よりボランティア的要素の強い活動をしています。秋は福島を訪問するのですが、このツアーの実施以降、学生スタッフは地元の人たちとの交流を深め、ホームステイに招かれたりするまでになりました。若い学生たちの行動力と適応力に感嘆することしきりです。また地域交流と被災地支援というふたつの柱がある部分では重なっていることにも気づきいただけるかと思います。

その他の活動、また多摩キャンパスや小金井キャンパスでの活動についてはこの報告書の当該ページをご覧ください。またボランティアセンターのインターネットサイトにも随時活動報告を載せますので、こちらも合わせてご覧ください。ありがとうございます。

ボランティアセンターの活動は周囲の人々のご厚意に支えられていることを、2年間センター長をつとめてあらためて実感しました。大学周辺の地域の方々、私たちを快く迎え入れてくださっている被災地の方々から感謝いたします。

大学における財政的な状況は厳しいものがあり、ボランティアセンターもその影響を少なからず受けています。そうした状況の中で、ボランティアセンターの活動にご理解をいただき財政的な援助を惜しまれない電通育英会と日本財団の関係者の方々にも、末筆となり大変失礼ながら、この場を借りてお礼申し上げます。

繰り返しになりますが、法政大学のボランティア活動の中心になるのは、学生スタッフをはじめとする学生たちで、職員のみなさんが裏で実務を支えてくださっています。私はこの3月に任期を終え、法学部の伊藤マモル先生にバトンタッチいたしますが、学生や職員のみなさんに学ぶことのたいへん多い2年間でした。これまでのご協力に感謝申し上げますとともに、関係各位におかれましては法政大学ボランティアセンターへ今後ともご理解とご支援を賜りますよう改めてお願い申し上げます。

2017年度 市ヶ谷ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数(人)	学生(人)	その他(人)	相談数(件)※	開室日数(日)
4月	374	337	37	44	20
5月	425	373	56	34	21
6月	257	240	27	44	21
7月	225	189	36	32	21
8月	51	38	13	10	16
9月	261	224	35	24	20
10月	420	406	16	95	22
11月	347	310	17	73	20
12月	232	221	9	55	17
1月	149	140	9	45	17
2月	127	115	12	24	19
3月	134	119	15	38	21
合計	3,002	2,712	282	518	235

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

2017年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数(人)	学生(人)	その他(人)	相談数(件)※	開室日数(日)
4月	130	115	15	114	20
5月	89	81	8	72	21
6月	79	61	18	60	22
7月	46	35	11	37	21
8月	13	8	5	11	17
9月	41	38	3	27	21
10月	67	62	5	52	22
11月	83	79	4	75	21
12月	36	33	3	34	33
1月	26	23	3	23	17
2月	7	6	1	7	19
3月	13	8	5	8	21
合計	630	549	81	520	255

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

※来室者総数には、学生スタッフの人数は含まれていません。

2017年度 法政大学ボランティアセンター全学運営委員会

回数	日程	議 題
第1回	1月25日	各地区からの活動計画（報告）、全学ボランティアセンターの課題（「学生の力」活かした学生支援体制の構築予算についてなど）

2017年度 市ヶ谷ボランティアセンター運営委員会

回数	日程	議 題
第1回	4月27日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（春ボラ・エコキャップDEキャンパスツアー、献血企画、富士山外来種駆除ボランティア、検討中の企画について）、チーム・オレンジ（環境省連携プログラム、物産展、東北被災地ボランティア、検討中の企画）、東京メトロ共催「飯田橋で行う地域サポートボランティア、インクルーシブデザインワークショップ体験会、東京2020参画プログラムについて、今後の予定。
第2回	5月25日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（富士山外来種駆除ボランティアの実施報告、ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング、現在検討中の企画について）、チーム・オレンジ（檜葉町田植え実施報告、物産展、東北被災地ボランティア、避難所体験、現在検討中の企画）、聴導犬の「ふれあい」から学ぶ聴導犬の一生について実施報告、東京2020参画プログラムアクション申請プログラム、今後の予定。
第3回	6月29日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（実施報告 献血×謎～謎解きは献血の間に、ポッチャ体験教室、多言語音声翻訳アプリから学ぶ、検討中の企画進捗 ユニバーサルシアターで学ぶバリアフリー映画入門講座他）、チーム・オレンジ（檜葉町クリーンアップ活動実施報告、物産展について、避難所体験実施方位億、檜葉町「春の花」写真展実施報告、検討中の企画の進捗）、東京メトロ共催「飯田橋で行う地域サポートボランティア、外国人おもてなし語学ボランティア育成講座、六大学連絡協議会、今後の予定。
第4回	7月27日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（大学祭について、現在検討中の企画の進捗状況、KYOPRO合同企画～滝行体験&森林保全スタディツアー実施報告、学食企画、他）、チーム・オレンジ（物産展実施報告、大学祭、一風堂とのコラボについて（法政フェア、わんぱくひろばでの活動）、現在検討中の企画、まちのわ防災フェスタ、他）、サクラテラス調査隊、東京メトロボランティア定例会、東北被災地ボランティア、今後の予定。
第5回	9月28日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（大学祭について、学食企画（M4R）、現在検討中の企画の進捗状況、保健体育部主催東京2020シンポジウムの参加、他）、チーム・オレンジ（一風堂コラボ物産展実施報告、東北被災地ボランティアツアー実施報告、まちのわ防災フェスタ、福島スタディツアー、檜葉町稲刈り、その他）、東京メトロボランティア定例報告、学生ボランティア助成希望団体の審査について、今後の予定。
第6回	10月19日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（一緒にあそぼうこども食堂ボランティア、学食企画、保護ネコカフェ実施報告、ユニバーサルシアターで学ぶバリアフリー映画入門講座、富士見わんぱくひろば子供ボランティア、現在検討中の企画の進捗状況、他）、東京メトロボランティア定例報告、正面広場ポッチャ体験教室進捗状況、今後の予定。
第7回	11月16日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（代表の交代、学食企画実施報告、学生たちとオリンピック実施報告、こども食堂の進捗状況、現在検討中の企画の進捗、他、チーム・オレンジ（代表の交代、学食企画の進捗、岩手・宮城被災地スタディツアー、福島スタディツアー、一風堂とのコラボ企画、他）、サクラテラス調査隊実施報告、正面広場ポッチャ体験教室実施報告、全学ボランティアセンター運営委員会の実施について。
第8回	12月14日	ボランティア情報審査、センター運営報告、進捗状況・結果報告：VSP（代表の交代、ポートで行く水の街東京清掃ボランティア実施報告、富士山清掃ボランティアツアー実施報告、銀座のみつばちから知る大都会東京の自然実施報告、フードバンク実施報告、こども食堂進捗状況、現在検討中の企画の進捗、春のボランティアWEEK、他、チーム・オレンジ（学食企画の実施報告、福島被災地スタディツアー、3.11募金の中止、一風堂とのコラボ企画、岩手・宮城スタディツアー、ワカモノ防災学校への登壇、他）、全学ボランティアセンター運営委員会、外国人おもてなし語学育成ボランティア講座実施報告、東京メトロ駅ボランティア活動報告会、ピアニネット活動報告会実施報告。

【付記】

- 運営委員会は市ヶ谷ボランティアセンター内にて開催。
- ボランティア依頼審査は、審査基準（2011年4月作成）に照らし合わせて判断。

第2章 市ヶ谷ボランティアセンター活動の概要

1. 活動目的と活動目標

■活動目的：本学学部生のボランティア活動の促進

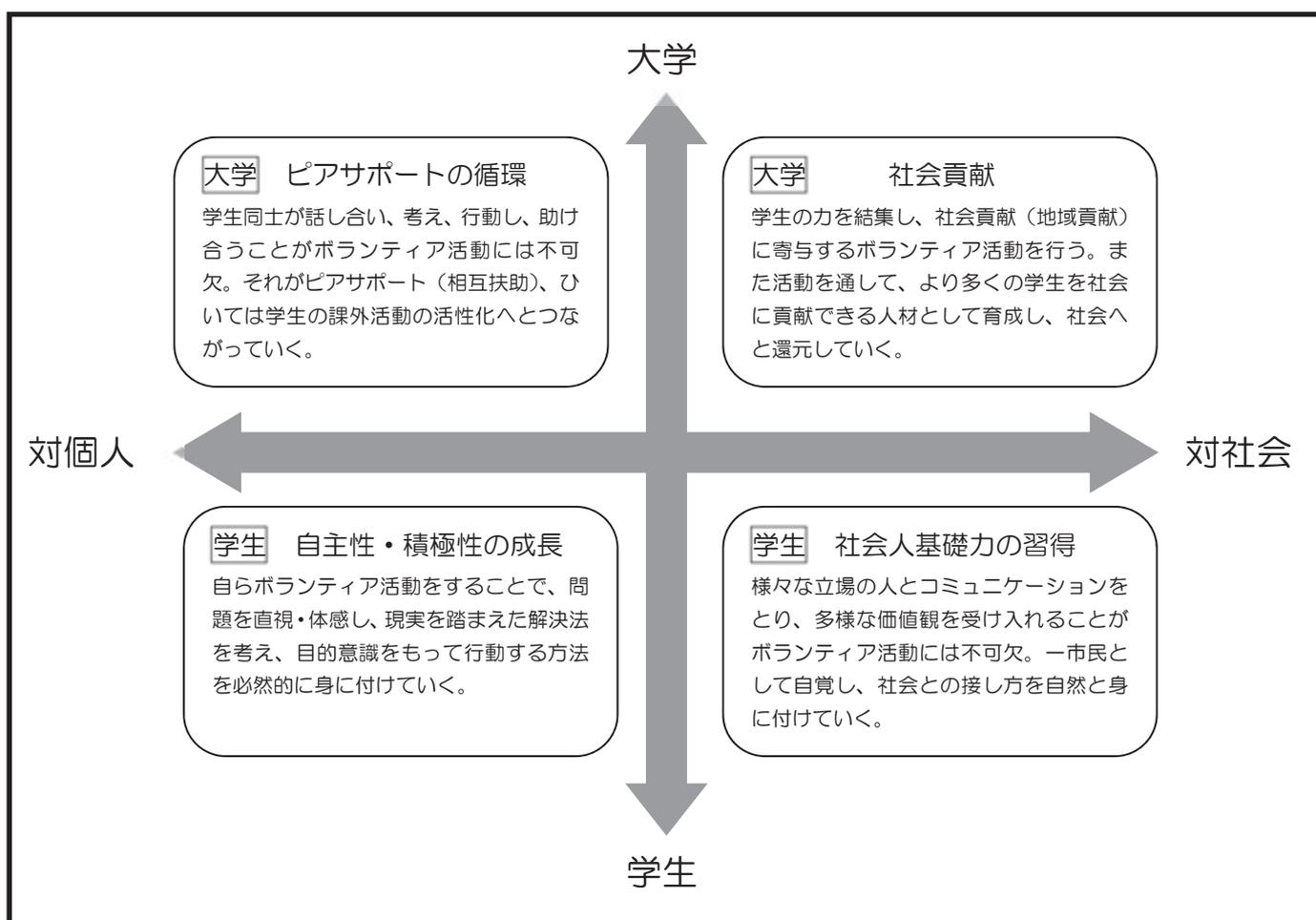
■活動目標（2017年度）：

【市ヶ谷ボランティアセンター】

- ①東日本大震災に伴う学生ボランティア活動の支援
- ②地域貢献ボランティアの開発、発展
- ③ボランティアセンター学生スタッフ企画の支援
- ④東京 2020 に関する取り組みの実施

【学生スタッフ】

- 学生スタッフが主催するイベント・活動を通し、ピアサポートを念頭に置きながら、ボランティア活動の「きっかけ」や学生生活の「充実」を広く一般学生に対して提供する。
- 自ら進んでボランティア活動を行い、地域貢献をすることで、経験を積み、視野を広げることを目指す。



2. 2017 年度活動の特徴

市ヶ谷ボランティアセンターでは、前出の「活動目標」を達成するために日々活動を行った。

①東日本大震災に伴う学生ボランティア活動の支援

●若者と進める景観植物を活用した休耕田の活用化事業

環境省、檜葉町と連携して「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活用化事業」を実施した。2016年11月に環境省と檜葉町とボランティアセンター学生スタッフが連携して、休耕田を整備し、クリムゾクローバーの種をまくボランティアを実施した。その後2017年4月に播種した花々の撮影会を実施し、2017年5月と7月に写真展を実施し檜葉町の美しさを広報することができた。また、昨年に引き続き、六本木ヒルズで行われた福島フェスでは、檜葉米の掴みどり体験などのイベントを町民と協力して実施した。

●学生スタッフの運営による被災地ボランティアツアー・スタディーツアーの継続的な実施
ボランティアセンター学生スタッフが主体となり、福島スタディーツアー、岩手・宮城被災地スタディーツアー、東北ボランティアツアーを継続的に実施し、一般学生の被災地に対する理解を深めることが出来た。また本取り組みは電通育英会助成事業として採択され100万の助成金をいただいた。

●大学でできる被災地支援の実施

学食（生協）とボランティアセンター学生スタッフのコラボ企画として、「お昼ご飯、東北へ出掛けませんか？」と銘打ち、週替わりで東北にちなんだメニューを提供した。物産展を学内で2回開催し、利益を岩手、宮城、福島、熊本、北九州の義援金口座に寄付した。

②地域貢献ボランティアの開発、発展

●東京メトロ飯田橋駅ボランティアの実施

2017年6月から東京メトロと連携し、大学周辺にある飯田橋駅の安全性の向上と「見守る目」の強化のため、本学学生が介助を必要とする駅利用者へのお声かけ、道案内などのボランティアを新規実施した。東京メトロ研修センターで研修を実施後、学生たちの都合のよい時間に各々が飯田橋駅を訪ね、ボランティア活動を実施した。また、毎月一回の定例会、本活動を広報するための東京メトロボランティア新聞の作成、駅構内でティッシュ配りなども行った。さらに学生主体で参加者にアンケートを実施し、今年度の問題点を確認するとともに、次年度に向けての改善を東京メトロに提案した。2月27日に法政大学で東京メトロの社員を招き活動報告会を行うとともに作成した新聞を配布した。

●近隣児童館における学生の力を活用したボランティアの実施

一風堂とコラボして近隣の児童館である富士見わんぱく広場でボランティアを新規実施した。ボランティアセンター学生スタッフが、北九州豪雨をうけ被災地支援のため一風堂とコラボして法政フェアで一風堂商品を販売し、利益を義援金口座に寄付をした。この活動を通して一風堂と良好な関係を構築し、「楽しくまなぶラーメン・餃子づくりと防災」を2月17日実施した。一風堂は餃子の皮から作り方を子供たちに教えラーメンを振る舞い、ボランティアセンター学生スタッフは、防災クイズや体験や防災カルタなどを実施した。ま

た、富士見わんぱく広場が主催するイベントの運営ボランティアに参加するだけでなく、イベント内で、児童文化研究会、アカデミー合唱団、マジシャンズクラブなどのサークルの特技を活かしたボランティアをコーディネートすることが出来た。また、富士見わんぱく広場から、こどもたちがみんなで合唱できるようなイベント行って欲しいと要請をうけ学生スタッフがイベントを主催し、ピアノ解体ショーと合唱するボランティア活動を行った。

●近隣の商業施設でのボランティアの新規実施

障がい者や高齢者、ベビーカー利用者、外国人などの多様なユーザーが外出時に必要とする商業施設のバリアフリー情報を共有できるスマホ向けアプリが東京 2020 を見据え活発に開発されている。今回は、近隣の商業施設であるサクラテラスと、東京 2020 に向けスマホ向けバリアフリー情報アプリ「Bmaps」を開発した株式会社ミライロと連携し、サクラテラスの店舗のバリアフリー情報を収集するイベントを学生協力のもと実施した。

また、年 2 回、飯田橋サクラテラスで実施している「まちのわ」イベントにも例年どおり協力した。

③ボランティアセンター学生スタッフ企画の支援

●多種多様な学生スタッフ企画の実施

学生スタッフの発案により、学食とコラボして難民支援を行う Meal for Refugee、高円寺子供食堂ボランティア、ユニバーサルシアターで学ぶバリアフリー映画入門講座、滝行体験、森林保全スタディーツアーなどの数々の新規のプログラムを実施することが出来た。さらに保護ねこカフェで学ぶ動物愛護ツアーやボートで行く水の街東京清掃ボランティアなどの人気企画についても継続して実施することが出来た。

④東京 2020 に関する取り組みの実施

●東京 2020 応援プログラムの実施

東京 2020 組織委員会の要請をうけ、ボランティアセンターでは「多言語翻訳から学ぶデジタルおもてなし」などの東京 2020 応援プログラムを 18 プログラム実施した。また、学内で発足した東京 2020 連携プロジェクトチーム、学友会（CSK・体育会本部・二体本部・応援団・学友会主催行事実行委員会）、学生センタースタッフ（教プロスタッフ、ボランティアセンタースタッフ）、スポーツ法政新聞、新聞学会に所属する学生と協力し正門前広場で、ポッチャ体験教室を実施し、学内の東京 2020 の機運の醸成に貢献した。

また、東京 2020 応援プログラムでの実績が認められ、連携大学担当連絡会で法政大学の事例発表の依頼を受け、本学の東京 2020 に関する取り組みを発表することが出来た。

2017年度 市ヶ谷ボランティアセンター イベントカレンダー

実施日	イベント・講座・訪問先	講師、協力先
4月10日(月)～14日(金)	春のボランティアWEEK	学内6ボランティアサークル、VSP、チームオレンジ
4月15日(土)・16日(日)	～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」春の花の撮影会	チームオレンジ、環境省、電通
4月18日(火)	エコキャップDEキャンパスツアー	VSP
4月20日(木)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
4月20日(木)	九段・靖国周辺地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協議会
4月～7月	えこびよん扇子プロジェクト(後援会父母懇談会贈呈品)	法政大学後援会、HU、チームオレンジ
4月～7月	えこびよん×くまもろグッズプロジェクト	HU、VSP
5月13日(土)・14日(日)	～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」ならは米田植え(檜葉町)	環境省、電通、檜葉町、チームオレンジ
5月14日(日)	富士山外来植物駆除ボランティアツアー	富士山クラブ、VSP
5月16日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
5月17日(水)	聴導犬との「ふれあい」から学ぶ聴導犬の一生について	日本補助犬協会
5月19日(金)	九段・靖国周辺地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協議会
5月22日(月)	[東京2020応援プログラム] ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング	日本ブラインドサッカー協会、VSP
5月23日(火)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
5月26日(金)～31日(水)	～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」檜葉町の休耕田を活用した花畑の写真展	環境省、電通、檜葉町、チームオレンジ
5月29日(月)	[東京2020応援プログラム] インクルーシブデザインワークショップ体験会	インクルーシブデザイン・ソリューションズ
6月3日(土)・4日(日)	～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」花壇整備・田植え(檜葉町)	環境省、電通、檜葉町、チームオレンジ
6月3日(土)	(東京メトロ) 飯田橋駅で行う地域サポートボランティア研修会@東京メトロ研修センター①	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構
6月5日(月)	[東京2020応援プログラム] ユニバーサルスポーツ ボッチャ体験教室	日本ボッチャ協会
6月6日(火)	KYOPRO 合同企画 献血×謎～謎解きは献血の間に～	日本赤十字血液センター、KYOPRO、VSP
6月10日(土)	(東京メトロ) 飯田橋駅で行う地域サポートボランティア研修会@東京メトロ研修センター②	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構
6月10日(土)	「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座(東京都)	東京都
6月13日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
6月17日(土)	災害救援ボランティア講座 第1回	災害救援ボランティア推進委員会
6月17日(土)	第19回日本ボッチャ選手権大会運営ボランティア①	日本ボッチャ協会、VSP
6月18日(日)	第19回日本ボッチャ選手権大会運営ボランティア②	日本ボッチャ協会、VSP
6月20日(火)	[東京2020応援プログラム] 「新しい防災」と「地域コミュニティの力を活かした復興まちづくり」	遠野・山・里暮らしネットワーク、防災ガール、チームオレンジ
6月20日(火)	九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協議会
6月20日(火)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
6月21日(水)	(東京メトロ) 飯田橋駅で行う地域サポートボランティア(第1回定例会)	東京メトロ
6月24日(土)	災害救援ボランティア講座 第2回	災害救援ボランティア推進委員会
6月25日(日)	[東京2020応援プログラム] 避難所体験	(災害救援ボランティア推進委員会) チームオレンジ
6月26日(月)	[東京2020応援プログラム] 多言語音声アプリから学ぶ「デジタル」おもてなし	情報通信研究機構、VSP
7月1日(土)	災害救援ボランティア講座 第3回	災害救援ボランティア推進委員会
7月2日(日)	KYOPRO 合同企画 東京の自然を感じよう! 滝体験&森林保全スタディツアー	高尾山観光案内所、高尾山薬王院、KYOPRO、VSP
7月4日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
7月5日(水)	東北・熊本物産展～美味しく被災地を支援しよう～東北・熊本物産展プレ販売	HU、チームオレンジ、VSP
7月6日(木)・7月7日(金)	東北・熊本物産展～美味しく被災地を支援しよう～東北・熊本物産展	HU、チームオレンジ、VSP
7月6日(木)～7月14日(金)	～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」福島県檜葉町の休耕田を活用した花畑の写真展	環境省、電通、オリバス、チームオレンジ
7月11日(火)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
7月19日(水)	(東京メトロ) 飯田橋で行う地域サポートボランティア(第2回定例会)	東京メトロ
7月20日(木)	九段靖国神社周辺清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協議会
8月3日(木)・4日(金)	[東京2020応援プログラム] ～電通育英会助成事業～東北被災地ボランティアツアー ボランティア下見	チームオレンジ
8月10日(木)	[東京2020応援プログラム] ～電通育英会助成事業～東北被災地ボランティアツアー 事前説明会	遠野・山・里ネットワーク、チームオレンジ
8月17日(木)	アカデミー合唱団による地域貢献ボランティア～新宿区の老人福祉施設での合唱ボランティア	アカデミー合唱団
8月22日(火)～8月26日(土)	[東京2020応援プログラム] ～電通育英会助成事業～東北被災地ボランティアツアー(31次隊)	遠野・山・里ネットワーク、チームオレンジ
8月24日(木)～8月28日(月)	[東京2020応援プログラム] ～電通育英会助成事業～東北被災地ボランティアツアー(32次隊)	遠野・山・里ネットワーク、チームオレンジ
8月31日(木)～9月4日(月)	[東京2020応援プログラム] ～電通育英会助成事業～東北被災地ボランティアツアー(33次隊)	遠野・山・里ネットワーク、チームオレンジ
9月2日(土)	まちのわ防災フェスタ@飯田橋サクラテラス	飯田橋グラブルーム、千代田区、麹町消防署、IVUSA、荒川ゼミ、IVUSA、チームオレンジ、知能ロボット研究室
9月5日(火)	檜葉スタディツアー	ならはみらい・チームオレンジ
9月15日(金)	[東京2020応援プログラム] ～電通育英会助成事業～東北被災地ボランティアツアー 報告会	チームオレンジ
9月17日(日)	[一風堂×法政大学チーム・オレンジコラボ企画] 東北熊本物産展@法政フェア	HU、チームオレンジ
9月19日(火)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
9月20日(水)	九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協議会
9月20日(水)	(東京メトロ) 飯田橋駅で行う地域サポートボランティア(第3回定例会)	東京メトロ
9月26日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
9月29日(金)	[東京2020応援プログラム] 日本初のユニバーサルシアターで学ぶ(バリアフリー)映画入門講座	シネマチューブキタバタ(北区田端)、VSP

概要	参加者数	(内)留学生数
学内ボランティアサークルの新入生勧誘（活動紹介展示&説明会）	55	0
福島県双葉郡楳葉町での学生が創生した花畑での交流会&花畑での撮影会。	22	0
新入生とVSPメンバーでエコキャップを回収しながら、新入生に大学構内案内をする。	6	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	9	0
地域（千代田区）の方と共に地域バトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	6	0
後援会父母懇談会贈呈品としてのオリジナルグッズ（扇子）の企画	—	—
物産展での販売を基本にしたオリジナルグッズの企画	—	—
福島県双葉郡楳葉町での田植えボランティア	2	0
外来植物駆除作業と、富士山麓の樹海のトレッキング活動	40	5
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	18	0
聴導犬、また補助犬についての法律や、一生について学ぶ	34	3
地域（千代田区）の方と共に地域バトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	5	0
ゲームを通しチームビルディングを学ぶ	22	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	13	0
福島県双葉郡楳葉町で撮影した写真の写真展	—	—
インクルーシブデザインについて学ぶ	27	0
楳葉町での花壇整備とならば米の田植え作業のボランティア	2	0
東京メトロでの学生駅ボランティア活動の事前研修	20	1
ユニバーサルスポーツ「ポッチャ」を体験する	15	0
献血について謎解きをしながら学ぶ	6	0
東京メトロでの学生駅ボランティア活動の事前研修	19	0
東京2020をふまえた外国人へのおもてなし語学ボランティア基礎講座	53	2
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動		雨天中止
受講者は上級救命技能認定証、セーフティリーダー認定証が取得可能	24	4
日本ポッチャ選手権大会でのボランティア	4	0
日本ポッチャ選手権大会でのボランティア	2	0
被災地支援ボランティア活動の現状、今後の復興などについて学ぶ	23	0
地域（千代田区）の方と共に地域バトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	6	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	11	0
東京メトロでの学生駅ボランティア活動と定例ミーティング	11	0
災害模擬体験と実技、被災地での安全衛生など	24	4
チームオレンジ企画の防災企画	34	0
NICTの音声アプリVoiceTraを使い国際コミュニケーションについて学ぶ	16	3
応急手当活動（上級救命技能講習）、認定書授与	23	4
高尾山での滝行体験と森林散策をする	11	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動		雨天中止
学生が選んだ東北被災地の名産品を物産展で販売（プレ販売）	98	—
学生が選んだ東北被災地の名産品を物産展で販売	354	—
環境省、電通の連携事業、オリンパスがカメラをレンタル、学生が撮影した作品	520	—
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	12	0
東京メトロでの学生駅ボランティア活動と定例ミーティング	7	0
地域（千代田区）の方と共に地域バトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）		高温のため中止
岩手県遠野市をベースにした東北被災地ボランティアツアーの下見	3	0
岩手県遠野市をベースにした東北被災地ボランティアツアーの事前説明会	36	0
高齢者福祉センター「聖母ホーム めくもりサロン」での合唱演奏ボランティア	10	—
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア	13	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア	13	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティア	13	0
サクラテラスでの防災をテーマにした「見て・感じて・楽しく」触れ合える地域貢献イベント	36	0
ならはみらい主催の楳葉町の現状を知る被災地スタディツアー	5	0
岩手県遠野市をベースにした陸前高田市、大槌町での被災地ボランティアの報告会	23	0
被災地支援のために被災地の名産品などを販売。	30	—
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	14	0
地域（千代田区）の方と共に地域バトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	4	0
東京メトロでの学生駅ボランティア活動と定例ミーティング	5	0
VSPの定例活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	8	0
バリアフリー映画鑑賞についてのサポートをしている映画館で学ぶ	19	2

9月30日(土)	(東京メトロ) 飯田橋駅で行う地域サポートボランティア(準定例会)	東京メトロ
9月30日(土)・10月1日(日)	～環境省・株式会社電通連携事業～ 「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業 檜葉町での稲刈り」	環境省、電通、檜葉町、チームオレンジ
10月4日(水)	富士見わんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア	富士見わんぱくひろば、VSP
10月11日(水)	島野教授&チーオレ活動報告会	島野教授、チームオレンジ
10月13日(金)	猫たちに会いに行こう!～保護ネコカフェで学ぶ動物愛護ツアー～	ネコリパブリック東京 池袋店、VSP
10月14日(土)・10月15日(日)	～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」 福島フェス2017	環境省、電通、ならはみらい、チームオレンジ
10月16日・23日・30日・11月13日・ 20日・27日・12月4日・11日 (毎月曜)	手話講座(入門編)	NHK 手話ニュースキャスター中野世子氏
10月16日(月)	(東京メトロ) 飯田橋駅で行う地域サポートボランティア(第4回定例会)	東京メトロ
10月17日(火)・18日(水)	猫たちに会いに行こう!～保護ねこカフェで学ぶ動物愛護ツアー～(清掃ボランティア)	ネコリパブリック東京 池袋店、VSP
10月18日(水)	(東京メトロ) 飯田橋駅で行う地域サポートボランティア(広報活動)	東京メトロ
10月20日(金)	九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協議会
10月22日(日)	富士山清掃ボランティアツアー	富士山クラブ、VSP
10月23日(月)	[東京2020応援プログラム]車いすフェンシングから考えるパラスポーツの世界	日本車いすフェンシング協会 牛込公一氏、中野世子氏(手話講座)
10月25日(水)、26日(木)、27日(金)	[東京2020応援プログラム]ポッチャ体験教室@正面広場	東京オリンピック・パラリンピック(東京2020)連携プロジェクトチーム、CSK、体育会本部、第二体育会、応援団、学友会主催行事実行委員会、スポーツ法政新聞会、法政大学新聞学会、KYOPRO、VSP
10月28日(土)	富士見わんぱくひろば「わんぱく子どもまつり2017」	富士見わんぱくひろば、児童文化研究会、アカデミー合唱団、マジシャンズクラブ、VSP
10月28日(土)	(東京メトロ) 飯田橋駅で行う地域サポートボランティア(準定例会)	東京メトロ
10月31日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
11月6日(月)～11(土)	Meal for Refugees(M4R) 学食企画～おいしい国際協力はじめませんか～	東京ケータリング、VSP
11月10日(金)	<M4Rについて学ぼう> Meal for Refugees(M4R) 講義	難民支援協会(JAR) 野津 美由紀氏、VSP
11月11日(土)	<法政大学公開企画>保健体育部主催 競技活動やボランティア活動で成長する学生たち	東京オリンピック・パラリンピック(東京2020)連携プロジェクトチーム
11月13日(月)	(東京メトロ) 飯田橋駅で行う地域サポートボランティア(第5回定例会)	東京メトロ
11月14日(木)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
11月15日(水)	[東京2020応援プログラム]サクラテラス調査隊 ～パリアフリーアプリで地域貢献ボランティア～	ミライロ、三井不動産ビルマネジメント、VSP
11月18日(土)	「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座(東京都)	東京都
11月18日(土)	[東京2020応援プログラム]みんなで遊ぼう子ども食堂ボランティア ポッチャ編	高円寺子ども食堂、VSP
11月20日(月)	九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協議会
11月20日(月)～11月24日(金)	お昼ごはん東北へ出かけてませんか?～東北復興支援メニュー～(チーオレ学食企画)	法政大学生生活協同組合、チームオレンジ
11月21日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
11月25日(土)	福島ワーク×フードC A F E 千秋ヶ谷	チームオレンジ
11月26日(日)	富士山清掃ボランティアツアー	富士山クラブ、VSP
11月26日(日)	ポッチャ東京カップ2018大学選手権	日本ポッチャ協会、VSP
12月3日(日)	[東京2020応援プログラム]日本橋発!ポートで行く水の街 東京清掃ボランティア	遊んで学ぶ自然倶楽部、VSP
12月9日(土)	[東京2020応援プログラム]食べ物の銀行「フードバンク」 ～家庭にある缶詰、貯金しませんか?～	セカンドハーベスト・ジャパン、VSP
12月10日(日)	銀座の蜜蜂から知る大都会東京の自然	銀座ミツバチプロジェクト、VSP
12月10日(日)	[東京2020応援プログラム]《電通育英会助成事業》チームオレンジ企画・福島スタディツアー	浪江町役場、アクアマリン福島、ら・らみゅう、チームオレンジ
12月13日(水)	(東京メトロ) 飯田橋駅で行う地域サポートボランティア(第6回定例会)	東京メトロ
12月14日(木)	エコキャップ回収ボランティア	VSP
12月16日(土)	[東京2020応援プログラム]子どもたちに素敵なクリスマスを～子ども食堂ボランティア クリスマス編	高円寺子ども食堂、VSP
12月17日(日)	ワカモノ防災学校	コドモ・ワカモノ・まちing、災害救援ボランティア推進委員会、チームオレンジ
12月17日(日)	富士見2丁目会町会クリスマスボランティア	富士見2丁目町会(飯田橋サクラテラス)、児童文化研究会
12月19日(火)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
12月20日(水)	九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協議会
1月10日(水)	(東京メトロ) 飯田橋駅で行う地域サポートボランティア(第7回定例会)	東京メトロ
1月11日(木)	キャンパス周辺清掃ボランティア	VSP
1月19日(金)	九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協議会
2月17日(土)	[一風堂×法政大学チーム・オレンジコラボ企画] 楽しくまなぶ餃子づくりと防災	富士見わんぱくひろば、一風堂、チームオレンジ
2月20日(火)	九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協議会
2月27日(火)	(東京メトロ) 飯田橋駅で行う地域サポートボランティア活動報告会	東京メトロ、日本ケアフィット共育機構、日本盲人会連合、(参加、取材:千代田区社会福祉協議会、NHK)
2月27日(火)	檜葉スタディツアー	ならはみらい、チームオレンジ
3月1日(木)～4日(日)	《電通育英会助成事業》チーム・オレンジ企画『若手・宮城被災地スタディツアー』	遠野・山・里ネットワーク、チームオレンジ
3月20日(火)	九段靖国通り周辺地区清掃ボランティア	千代田区環境安全部、九段環境整備協議会
3月24日(火)	飯田橋グランブルーム まちの桜まつり	飯田橋グランブルーム、㈱KADOKAWA、児童文化研究会、IVUSA

110 プログラムに 3,401 名参加 (学生のみカウント)

東京メトロでの学生駅ボランティア活動の準定期例（学生ミーティング）	9	0
5月に田植えをした檜葉町での稲刈りボランティア	3	0
千代田区の児童施設で音楽演奏などのボランティア活動。（地域貢献ボランティア）	58	0
被災地支援活動をしているチームオレンジと島野教授のミーティング	10	0
保護ネコカフェで動物の保護活動について学ぶ	24	3
復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施される学生のボランティア事業のイベント。学生はスタッフとして参加	15	0
手話ゲームブック「だれかいたらごんには」を使用しての手話講座入門	47	2
東京メトロでの学生駅ボランティア活動と定期ミーティング	5	0
保護ネコカフェでの清掃ボランティア活動	4	0
東京メトロでの学生駅ボランティア活動での広報活動	7	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）		雨天中止
富士山麓に不法投棄されたごみを清掃する活動		天候不順延期
バラスポーツ車いすフェンシングについて疑似体験しながら学ぶ	25	2
東京 2020 大会への学内の気運を高めるためバラスポーツ「ボッチャ」の体験を正面広場で行う	25日(48人)、26日(67人)、 27日(82人)	—
千代田区の児童施設のハロウィンのイベントでの受付や演奏、マジック、紙芝居など	24	0
東京メトロでの学生駅ボランティア活動（土曜日）	4	0
VSPの定期活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	8	0
難民の方たちの郷土料理を学食メニューに採用し、学生に難民について学びきっかけをつくる	336食	—
難民の疑似体験をするワークショップや、難民の人たちが置かれている状況の深刻さなどを学ぶ	22	0
東京 2020 への気運を高める、VSPのメンバーが参加	2	—
東京メトロでの学生駅ボランティア活動と定期ミーティング	5	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア	10	0
Bmaps（バリアフリー情報アプリ）を使用したバリアフリー情報収集プログラム	9	0
東京 2020 をふまえた外国人へのおもてなし語学ボランティア基礎講座	54	0
こども食堂でユニバーサルスポーツ「ボッチャ」を紹介し、こども達といっしょに遊ぶ	6	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	5	0
東北被災地にちなんだメニューを富士見坂校舎食堂（市ヶ谷）、東館食堂（小金井）、6号館食堂（多摩）の3キャンパスにて提供。	461食	—
VSPの定期活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動	6	0
首都圏の大学生と福島県の企業の若手社員が、座談会や食事などで交流できるイベント。	6	0
富士山麓で不法投棄されたゴミを廃棄するボランティア、環境保護について考える。	39	3
ボッチャ選手権に出場し、実際の試合を体験し学ぶ。	4	0
東京湾護岸の清掃ボランティア、日本橋から出発し木場までボートで移動しながら清掃していく。	20	1
余っている食品を集め、それを使い料理を作り、フードバンクについて考える。	10	0
銀座でミツバチを飼育し地域創生につなげていくプロジェクトを学ぶボランティア	7	0
福島県の被災状況や復興に向けた取り組みを学ぶことが目的。浪江町などの復興の現状も見学できる。	40	3
東京メトロでのボランティアの定期ミーティング。日ごろの活動報告、改善点などを話し合う。	7	0
外濠校舎、富士見坂校舎でのエコキャップ回収ボランティア。	13	0
高円寺こども食堂で、楽器演奏や子供たちの相手をしてあそぶボランティア。	9	0
そなエリア東京（江東区有明）での防災啓発イベント。シンポジウム・トークセッション、交流会。	2	0
富士見2丁目町会の依頼で、クリスマス会に子供たちと遊ぶボランティア。	30	0
VSPの定期活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動。	10	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	5	0
東京メトロでのボランティアの定期ミーティング。日ごろの活動報告、改善点などを話し合う。	7	0
VSPの定期活動の1つ、一般学生、ボランティアセンター職員と行う外濠周辺の清掃活動。	6	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	12	0
富士見わんぱくひろばで一風堂に餃子づくりを覚えてもらえるイベントを企画。こども向けの防災啓発活動も。	6	0
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）	12	0
学生企画の東京メトロ飯田橋でのボランティア活動の報告会。	32	1
福島県双葉郡檜葉町でのスタディツアー	7	0
岩手県遠野市、釜石市・宮城県気仙沼市でのスタディツアー	25	1
地域（千代田区）の方と共に地域パトロールを兼ねた清掃活動（雨天時は中止）		雨天中止
地域貢献ボランティア、飯田橋グラブルームでのさくらまつりへの参加	23	0

1. 電通育英会～学生対象の人材育成活動への資金助成事業 「学生の力を活用した東日本大震災復興支援プロジェクト」

日時 2017年4月1日（土）～2018年3月31日（土）1ヶ年

場所 住友商事株式会社

概要

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジの2017年度に実施する「学生の力を活用した東日本大震災復興支援プロジェクト」が電通育英会「学生対象の人材育成活動への資金助成事業」に採択され、100万円を助成していただくことが決定しました。

チーム・オレンジが実施する「学生の力を活用した東日本大震災復興支援プロジェクト」は「東北被災地ボランティアツアー」と「被災地スタディーツアー」を実施することを特徴とし、「東北被災地ボランティアツアー」では、現地NPO法人にボランティアの発掘・選定を一任するのではなく、チーム・オレンジの学生が主体的に考えた内容を盛り込み、現地NPO法人と協業しボランティア内容を提案していきます。

「東北被災地ボランティアツアー」では、様々な理由から今まで被災地に足を踏み入れたことがなかった学生を主なターゲットにし、被災地に関心を持つ本学学生の裾野を引き続き広げていくことを目指します。

名称：公益財団法人電通育英会「学生対象の人材育成活動への助成事業」

助成金額：100万円

チーム名：法政大学市ヶ谷ボランティアセンター「チーム・オレンジ」

活動先：陸前高田市、大槌町

助成期間：2017年4月1日～2018年3月31日



助成金決定通知書をもつチーム・オレンジ



2016年実施の東北被災地ボランティアでの引っ越しの手伝い

2. 春のボランティアWEEK

日時 【展示・冊子配布】2017年4月10日（月）～14日（金） 終日

場所 【説明会】2017年4月12日（水）12:45～13:20

【展示・冊子配布・説明会】外濠校舎1階 メディアラウンジ

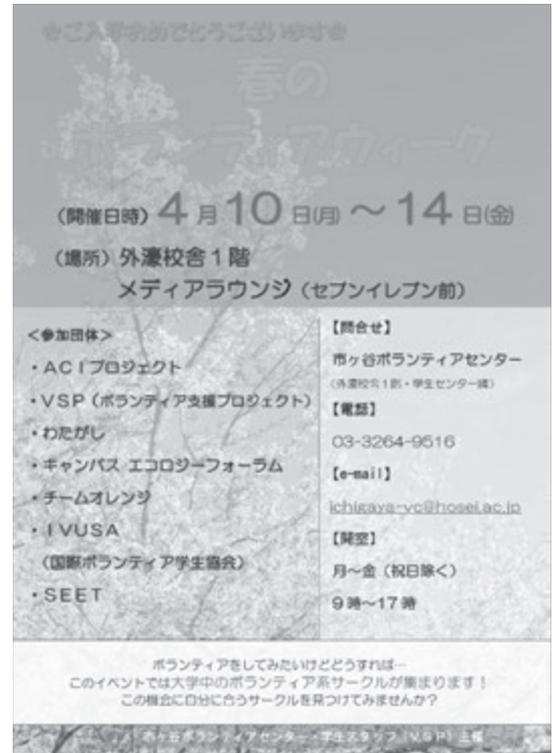
概要

ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）による企画。
ボランティアに興味を持つ学部生に向けて、学内のサークルや、ボラセン所属学生団体を紹介することで、新メンバーを求める各サークル、ボランティアをしてみたい学生双方に対して支援しました。ボラセンの認知度アップとVSPの新メンバーを獲得することも目的とし、最終的には学内全体のボランティア促進につなげていきます。

例年同様、メディアラウンジでは、展示による活動報告を行うと同時にサークルごとの相談ブースを設置。昼休みを中心に、主に新入生への相談に応える姿が見られました。

学生主体によるSNSでの宣伝や説明会前のピラ配りを行い、イベントの認知度が高まり、説明会会場を外濠校舎1階メディアラウンジにしたことで集客の効果がありました。

また、今回はえこびよんのパネルを用意し、ペットボトルキャップを一般学生に貼り付けてもらいエコキャップに関しての関心を高めてもらえました。説明会では、各団体の活動や特徴を知ってもらうだけでなく、学生スタッフ自身も他団体について理解を深めることができました。



【開催日時】4月10日（月）～14日（金）
【場所】外濠校舎1階
メディアラウンジ（セブンイレブン前）

＜参加団体＞	【問合せ】
・AC（プロジェクト）	市ヶ谷ボランティアセンター （外濠校舎1階・学生センター隣）
・VSP（ボランティア支援プロジェクト）	【電話】
・わたがし	03-3264-9516
・キャンパス エコロジーフォーラム	【e-mail】
・チームオレンジ	ichikaya-vc@hosei.ac.jp
・I VUSA （国際ボランティア学生協会）	【開室】
・SEET	月～金（祝日除く） 9時～17時

ボランティアをしてみたいけどどうすれば—
このイベントでは大学中のボランティア系サークルが集まります！
この機会に自分に向合うサークルを見つけてみませんか？

参加者数

説明会：45名



3. キャンパス周辺清掃ボランティア

日時 【展示・冊子配布】2017年4月10日（月）～14日（金） 終日

場所 【説明会】2017年4月12日（水）12:45～13:20

【展示・冊子配布・説明会】外濠校舎1階 メディアラウンジ

概要

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催。

基本的に月1回、VSPのメンバーが日程を決めています。毎回30分間ほど、大学周辺の清掃ボランティアを行っています。詳細な活動日と参加者数は、下表参照。学生スタッフ（VSP）の活動の柱の1つであり、一般学生を募集し、一緒に活動しながらボランティア活動の促進につなげていきます。

参加者数

のべ70名 ※8月、2月、3月は休み

日程	参加者数（申込者数）
4月20日（木）	9名（6名）
5月16日（火）	18名（14名）
6月13日（火）	雨天中止（4名）
7月4日（火）	4名（4名）
9月26日（火）	8名（3名）
10月31日（火）	8名（8名）
11月21日（火）	6名（6名）
12月19日（火）	10名（12名）
1月11日（木）	7名（7名）

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ（VSP）主催
地域清掃ボランティア
 市ヶ谷キャンパスでは、毎月2回清掃ボランティア活動を行っています。
 「まずは、身近なところでボランティアがしたい!」「気軽にできるボランティアがしたい!」という方にぴったりのボランティアです。

★・・・・・・・・★

「**キャンパス周辺清掃**」
 法政大学の学生・教職員で、市ヶ谷キャンパス周辺を清掃します。参加者にはもちろんペットボトル99をプレゼント!

「**×九段・靖国地区清掃×**」
 法政大学の学生会のみ、千代田区の自治会の力等と一緒に、地域パトロールを兼ねた清掃活動を行います。（毎月20日開催）

7月4日（火）
 12:50～13:20

7月20日（木）
 15:30～17:00

※参加ご希望の方は、市ヶ谷ボランティアセンターでお申込みください。

お申込・お問合せ ☎
市ヶ谷ボランティアセンター（外濠校舎1階・学生センター隣）
 【電話】03-3264-9516 【e-mail】ichigaya-vo@hosei.ac.jp
 【開催】月～金（祝日除く） 9:00～17:00



4. 九段・靖国通り地区清掃ボランティア

日時 2017年4月～2018年3月

場所 九段さくら館→ 靖国通り周辺→ 市ヶ谷駅周辺→ 九段商店街→ 九段さくら館

概要

毎月20日前後に、千代田区環境安全部および九段環境整備協議会（九段地区の町内会連合）、麹町署の方々、九段商店街、九段地域の小学校PTAの方々と共に、九段・靖国通り地区の清掃ボランティア・巡回パトロール活動に参加しています。大学周辺の地域貢献ボランティアの活動の1つになっています。

2. 参加者数

のべ43名

日時	参加者数(申込者数)
4月20日(木)	4名(3名)
5月19日(金)	5名(10名)
6月20日(火)	4名(2名)
9月20日(水)	4名(4名)
10月20日(金)	雨天中止(2名)
11月20日(月)	5名(4名)
12月20日(水)	5名(2名)
1月19日(金)	4名(4名)
2月20日(火)	12名(15名)

※7、8、3月はお休み。雨天等の場合は中止。

市ヶ谷ボランティアセンター・学生スタッフ (VSP) 主催
地域清掃ボランティア
 市ヶ谷キャンパスでは、毎月2回清掃ボランティア活動を行っています。
 「まずは、身近なところでボランティアがしたい!」「気軽にできるボランティアがしたい!」という方にぴったりのボランティアです。

✦キャンパス周辺清掃✦
 法政大学の学生・教職員で、市ヶ谷キャンパス周辺を清掃します。参加者にはもちろんペットボトルキャップをプレゼント!

✕九段・靖国地区清掃✕
 近隣の町内会の方、千代田区の職員の方と一緒に、お散歩・トロールを兼ねた清掃活動を行います。(毎月20日前後)

6月13日 (火)
12:50~13:20

6月20日 (火)
15:30~17:00

※参加ご希望の方は、市ヶ谷ボランティアセンターでお申込みください。

お申込・お問合せ
市ヶ谷ボランティアセンター (外堀校舎1階・学生センター隣)
 【電話】03-3264-9516 【e-mail】ichizawa-vo@hosei.ac.jp
 【開室】月~金(祝日除く) 9:00~17:00



5. エコキャップ DE キャンパスツアー

日時

2017年4月18日(火)

場所

外濠校舎、富士見坂校舎の施設、
キャップ回収ポイント

概要

4月18日(火)、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(以下VSP)が「エコキャップDEキャンパスツアー」を実施し、6名の学生が参加しました。

VSPは学内に設置されているペットボトルキャップの回収容器から、定期的にペットボトルキャップを回収しており、集めたペットボトルキャップは、NPO法人に送付し、世界の子供たちにワクチンを贈る活動を行っています。2016年度は、231.4kgのペットボトルキャップを回収しましたが、本活動の認知度は高くありません。そこで、この回収活動を新入生に関心を持ってもらうため、ペットボトルキャップの回収ポイントをまわりながら、「学内の知られていない施設を学生目線で案内する」というボランティアイベントを昨年同様実施いたしました。

外濠・富士見坂でまよわない! 新入生必見!
先輩のめざましいスポットを教えよう!
ボランティアセンター学生スタッフ VSP
エコキャップ DE キャンパスツアー
4月18日(火)
12:50~13:20 お昼休み
12:45 学生センター左横
ボランティアセンターに集合!
学内の不案内、ステキな
スポットがわかります。
エコキャップ回収しながら
私たちがいっしょに
歩いてみませんか。
ボランティアセンター
VSPスタッフ
キャップ約500個=ワクチン1本分
エコキャップは
リサイクルされ
再生資源やワクチ
ン代になります。
ワクチン
ベレット など
●お申込は... 市ヶ谷ボランティアセンター → 窓口にて申込書記入
●お問合せは... 市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階)
TEL: 03-3264-9516 メール: ichigaya-vc@hosei.ac.jp

本企画を実施するにあたりVSPのメンバーが、ツアーの経路図を作成したり、下見を重ねたりした結果、当日は参加者とエコキャップを回収しながら、外濠校舎と富士見坂校舎を効率よく案内することができました。

参加者で集めたペットボトルキャップは約15.5kgとなり、参加者からは「意外と集まった」、「ボランティアしながらキャンパスのことが知れてよかった」などという意見がありました。

・主なコース(経路)

ボランティアセンター～外濠校舎4階～富士見坂校舎3階～富士見坂校舎2階～外廊下(ラーニングcommons前)～図書館前～ピロティ(掲示板)～ゲート棟前正面階段～外濠校舎1階～外濠校舎地下1階～外濠校舎1階～ボランティアセンター

○企画学生の感想

昼休みのあわただしい時間を利用しての本ツアーは、凝縮した内容にしなければならず、何回か下見などを行い、実施にいたるまで企画を練りました。

普段無意識に通り過ぎてしまう学内施設のガイドと、一般学生には認識が希薄なボランティア活動を結びつけた企画は、学生ならではの発想だったと思います。富士見坂校舎の歴史や、新入生への「お得な」スペースなども案内することができました。

今回は、企画スタッフ内で説明の役割分担をし工夫しましたが、日程などの兼ね合いのせいか、新入生の参加が少なかったので残念でした。時間配分はよかったと思います。

法学部法律学科3年 阿由葉 史弥

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフは、今後もこのような学生が自ら発案、企画、実施するボランティア活動を実施していきます。

参加者数

6名



富士見ゲートから外濠校舎へ



図書館横階段から富士見ゲート棟へ



富士見坂校舎での回収



ラーニングコモンズなどを案内

6. ～環境省・株式会社電通連携事業～

「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」 春の花の撮影会

日時 2017年4月15日（土）・16日（日）

場所 福島県双葉郡柵葉町

概要

法政大学ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジは、4月15日（土）・16日（日）福島県柵葉町の魅力を県外に発信することを目的に、柵葉町、環境省と連携し、春の花の写真撮影会、一般家庭に民泊する等の町民と交流するプログラムを実施し、22名の本学学生が参加しました。

学生たちは、2016年11月に一面に広がる花畑を思い浮かべながら、町内の休耕田の一角に花の種をまきました。そしてこの度、柵葉町の魅力を発信するために春の花の写真を撮影しに再び柵葉町を訪れました。また、この休耕田は、町内の名所として知られる桜並木の前に位置しているため、満開の桜が学生たちを出迎えてくれました。柵葉町到着後、オリンパス株式会社より学生一人一人にカメラが貸し出され、撮影方法の指導をしていただきました。

その後、学生たちは思い思いの構図で、桜や花畑を撮影しました。

撮影した学生たちは、「自分たちが関わった花畑が町に観光客を呼びこむきっかけになったら嬉しい」「柵葉町の美しさを多くの人に伝えたい」などと話していました。

撮影した写真は学生たちがセレクトして、フォトアルバムを作成し、今回も民泊でお世話になった町民にプレゼントしました。

最後に、桜のもとで学生と町民が花見をしながら、民泊での出来事や、写真撮影会について談笑し、両者の交流が更に深まったようです。

参加学生が撮影した写真は、5月26日～5月31日の期間、新宿のオリンパスプラザ東京クリエイティブウォールで展示されました。今後も法政大学ボランティアセンターは柵葉町を応援していきます。

参加者数

6名



7. 富士山外来種駆除ボランティアツアー

日時

2017年5月14日(日)

場所

富士山麓

概要

5月14日(日)、ボランティアセンターでは「NPO法人・富士山クラブ」のご指導のもと、『富士山外来植物駆除ボランティアツアー』を実施しました。この「外来植物駆除」の活動は今年で5度目の実施となり、40名の学生が参加しました。

バスの中では、一人で参加の学生も楽しく活動できるようにと、ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が企画したレクを行い、大変盛り上がりました。

富士の自然の美しさを参加学生に知ってもらうため、約2時間、「NPO法人・富士山クラブ」指導のもと樹海トレッキングを実施し、樹海に生息している動植物の生態系を学ぶことが出来ました。

また道中では、総延長350m以上と富士山麓で最大級の溶岩洞窟である西湖コウモリ穴にも入洞し、自然の壮大さを感じることもできました。

トレッキングの後に昼食をとり、清掃活動の作業現場に移動しました。

作業現場ではまず、雄大な富士山の姿を間近に望むことのできる、NPO法人・富士山クラブの本部「もりの学校」にて、富士山クラブスタッフによるオリエンテーションを受け、富士山をとりまく環境問題や、外来特定生物の種類・駆除活動の意義などについて学びました。その後、バスで西湖のほとりへ移動し、「オオキンケイギク」などの外来種駆除活動を行いました。石や他の植物も目立つ現場で駆除活動にも苦労しましたが、慣れ始めると皆楽しくなってきたようで、「もっとやりたかった」との声も聞かれました。心地よい気候の中での約2時間の活動し、約140kgの外来種を駆除することができました。

活動後は再び「もりの学校」に戻り、各班にわかれ、ボランティアセンター学生スタッフを中心に、情報共有、振り返りを行い、外来種駆除を広めるアイデアを発表するなど、充実した活動となりました。

今後も法政大学ボランティアセンターでは富士山の外来種駆除・清掃活動を継続的に行っていきます。

参加者数

40名





富士の樹海に生息している植物について説明を受けている様子



西湖コウモリ穴に入洞し険しい道を歩く学生



外来種植物をメンバーで協力して駆除



外来種植物であるオオキンケイギクを根こそぎ駆除



振り返りの様子



集合写真

8. 聴導犬とのふれあいから学ぶ 聴導犬の一生について

日 時 2017年5月17日(水)

場 所 外濠校舎5階526会議室

概 要

市ヶ谷ボランティアセンター主催で5月17日(水)に「聴導犬とのふれあいから学ぶ聴導犬の一生について」を実施し、34名の学生が参加しました。

障がい者の社会進出と自立を促進するために、毎年多くの聴導犬が育成されていますが、その頭数が年々増加をしていく一方で、聴導犬を受け入れる社会自体の理解は十分とは言えません。お店や交通機関で利用を断られてしまうケースも多々見うけられます。聴導犬をはじめとする補助犬についての法律や、一生を学び、聴導犬に対する理解を深めることを目的とし、本講座を開催しました。

当日は、日本補助犬協会の職員の方を講師に招き、聴導犬をはじめとする、盲導犬、介助犬の三匹の補助犬が来校しました。

まず初めに補助犬の種類や、聴導犬、盲導犬、介助犬がそれぞれどのように人々をサポートしているのか、それぞれの補助犬の適正や育つまでの過程、補助犬を取り巻く法律について、聴導犬を中心に話しいただき、その後、各補助犬にデモンストレーションをしていただきました。

盲導犬は行き止まりを飼い主に知らせるデモンストレーションを実施し、介助犬は落とした携帯電話を拾うデモンストレーションを実施し、聴導犬は、目覚ましのアラームが鳴ったら飼い主に知らせたり、サイレンが鳴ったら危険を知らせたりするデモンストレーションを行いました。

聴導犬をはじめとする補助犬が生まれてから、リタイヤするまでの一生について、デモンストレーションを交えて話ししていただき、理解を深めることができ、大変有意義な講義となりました。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、今後もこのようなプログラムを企画していきます。

以下は参加した学生からの感想です。

- 補助犬とは、聴導犬と介助犬と盲導犬の総称であるということを知りませんでした。

日本は欧米諸国と比較すると、補助犬に関する整備が遅れていることがわかった。私は今まで、目が見ない人について考えたことがあったが、耳が聞こえない人について深く考えたことがなかったので、この講座の受講をきっかけにして、配慮するように努めたい。

また、人間の都合で飼育を放棄された犬が、人間のために補助犬として活躍しているケースもあると聞き、動物愛護の必要性を改めて実感した。

ボランティア総合講座第1回
聴導犬との
「ふれあい」から学ぶ
聴導犬の一生について

聴導犬・盲導犬・
介助犬の3匹が
市ヶ谷キャンパス
に来ます!

5月17日(水) 16:50~18:20

市ヶ谷キャンパス 外濠校舎5階526会議室 定員:30名(参加費無料)
講師:公益財団法人 日本補助犬協会職員

聴導犬についてみなさんご存知ですか? タッチをするなど色々な動作を使って目の不自由な方に音を知らせるサポートします。
詳しくは聴導犬(聴導犬・盲導犬・介助犬)になる方たちについて、ちょっと考えてみませんか。補助犬についての法律や一生についても学び、理解を深めていきます。

聴導犬・盲導犬・介助犬のつらさによるデメリットもあります。

【申込方法】市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入
【問い合わせ】市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階)
Tel: 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp



聴導犬について講義を受ける



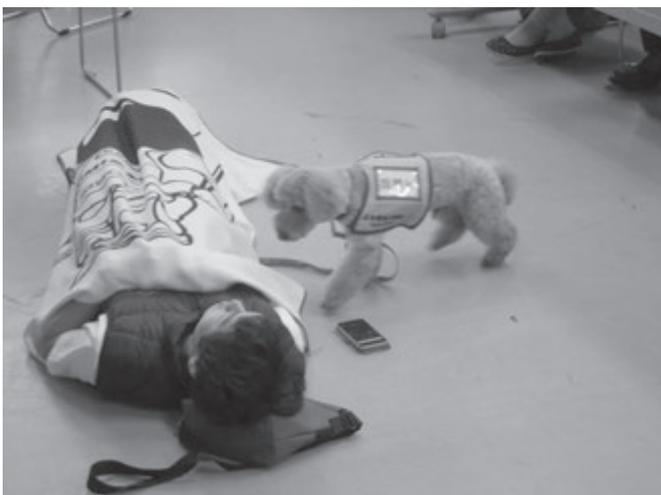
盲導犬が飼い主に行き止まりを知らせる



介助犬が学生の指示で、物を拾いに行く



聴導犬が携帯の目覚まし音が鳴るのを待っている



聴導犬が携帯の目覚ましの音に反応し飼い主をおこしに行く



学生と補助犬のふれあい

9. ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング

日時 2017年5月22日(月)

場所 富士見坂体育館

概要

東京2020応援プログラム「ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング」を5月22日に市ヶ谷ボランティアセンターで実施し22名の学生が参加しました。

本プログラムは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に「東京2020応援プログラム」として認定されました。

ブラインドサッカーとは、アイマスクをつけ、音のなる特殊なボールを使うフットサルです。アイマスクをつけて視界を遮ることで、全員が公平な状態でプレーすることができます。今回の企画では、ブラインドサッカーを通じて、チームビルディングに必要なコミュニケーション法を体験すると同時に、「見えない」ことがどういうことかを体で感じることを主な目的としました。

プログラム中に様々なワークを行いました。特に、「見える人」と「見えない人」が混ざって試行錯誤するワークは、チームビルディングを学ぶには最適な内容でした。このワークは、まず「見える人」4人が四角形の四隅に立ちます。その四角形の真ん中に「見えない人」が立ち、四隅の「見える人」が持っているボールにタッチしに行きます。ボールは4人のうち1人が持っていて、「見える人」は「見えない人」に掛け声や合図でボールの位置を伝えます。これを四角の中でパス回しをし、制限時間内に何回タッチできるかを競うものです。参加者はこのワークの中で、どうすれば多くタッチできるかを、見える立場と見えない立場の両方の視点から考え、チーム内で議論を重ねました。最初は制限時間内に5回程程度しかボールにタッチすることはできませんでしたが、最終的に15回程ボールにタッチすることができました。

また、音だけを頼りにコーンにボールをあてるなどのワークも実施しました。

このプログラムを通して、それぞれのあだ名で呼び合うことで、自ずとチームメイトとの距離が近くなり、意見を出し易い雰囲気になりました。参加者には、名前を呼びあうという些細なことが、チームビルディングには非常に効果的であるということがわかっていただけたかと思います。

本プログラムを通して、障害者と健常者の間の「見えない壁」を取り払い、視覚障害者との共生に関心をもってもらうこと、仲間が主体的に自分らしさ、多様性を発揮しつつ、相互に関わりながら一丸となって共通のゴールを達成しようとするチームビルディングを学ぶことができたかと思います。

参加者数 40名

ブラインドサッカーを体験できます！

ブラインドサッカーから学ぶ
チームビルディング

5月22日(月)
16:50~18:20(5限) 富士見坂体育館

見えない人との関わり方、見えない中でどう伝えるかを考え、仲間と共通のゴールを達成しようとするチームビルディングを学びます。

○定員 30名
○講師 特定非営利活動法人 日本ブラインドサッカー協会

申し込み方法：市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入
問い合わせ：市ヶ谷ボランティアセンター(外環校舎1階)
Tel: 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp



ブラインドサッカー協会からブラインドサッカーの概要について説明を受ける



目隠しの人が制限時間内にボールにタッチする回数を競う



音だけを頼りにコーンの場所を確認する



目隠しした状態で音を頼りにコーンにボールをあてる

10. ～環境省・株式会社電通連携事業～ 檜葉町の休耕田を活用した花畑の写真展

日時 2017年5月26日（金）～31日（水）

場所 オリジナルプラザ東京（新宿）

概要

福島県檜葉町の休耕田を活用した花畑の写真展が、5月26日～5月31日、オリジナルプラザ東京で開催され、法政大学ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ22名が一点ずつ写真を出品しました。

チーム・オレンジの学生は、2016年11月に一面に広がる花畑を思い浮かべながら、檜葉町町内の休耕田の一角に花の種をまきました。2017年4月15日（土）・16日（日）に再び訪れ、福島県檜葉町の魅力を県外に発信することを目的に、檜葉町、環境省と連携し、春の花の写真撮影会を実施しました。今回出展した写真はこの写真撮影会で撮影したものです。

写真には、桜の下で住民と花見を楽しんでいる姿や自分たちが種をまいた花が写されています。また学生一人一人が、写真のタイトルと100文字程度のPR分をつけて展示しました。

今後も法政大学ボランティアセンターは檜葉町を応援していきます。



花咲きほこる檜葉町（勝野 楓未）



希望（菅原 杏美）



おかえり、ようこそ檜葉町へ（川邊 世里奈）

11. インクルーシブデザインワークショップ体験会

日時 2017年5月29日(月)

場所 富士見坂校舎5階F506

概要

東京2020応援プログラム「インクルーシブデザインワークショップ体験会」を5月29日に市ヶ谷ボランティアセンターで実施し、25名の学生が参加しました。

本プログラムは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に「東京2020応援プログラム」として認定されました。

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、大会組織委員会は、障がいの有無に関わらず、すべての人々にとってアクセシブルでインクルーシブな大会となるような様々な取組みを推進しています。

本学学生においても、その取り組みを理解し、相互の人格と個性を尊重し合う共生社会の実現に貢献できるよう「インクルーシブデザインワークショップ体験会」を、開催しました。



体験会では、冒頭に講師である株式会社インクルーシブデザイン・ソリューションズ 高山 希氏から、インクルーシブデザインは、高齢者、障がい者、外国人など、従来、デザインプロセスから除外されてきた多様な人々を、デザインプロセスの上流から巻き込むデザイン手法であることが説明されました。

次に日頃私たちが何気なく使用しているストローや、リンスとシャンプーを見分けるためのボトルについている凹凸や、iphoneなどは、インクルーシブデザインの思想から開発されたことが説明され、参加した学生たちは興味深く聞いていました。

その後、「お菓子を楽しく食べるには？」をテーマに2人1組になりワークショップを行いました。2名の内1人は、目が見えない、片方の手が使えないなどのハンデを設定し、袋に入ったスナック菓子(今回はうまい棒)を袋から取り出し食べきります。もう一方の学生は、袋をあけ、スナック菓子を食べ終わるまでの一連の動作観察し、1つ1つの動作を附箋に書き出していきます。その後、何が「お菓子を楽しく食べるには？」を阻害していたかを洗い出し、課題を解決するスナック菓子の袋の形状を提案しました。

参加した学生からは、袋の切れ目が縦に入っているため、食べるときに邪魔になったり、お菓子のカスが落ちやすくなっていたりするので、袋の切れ目が横に入っている方がよりよくなるのではないかという提案もありました。最後に、同様にインクルーシブデザインの思想を用いて新しい財布のデザインを参加した学生が考案するなど大変有意義なワークショップになりました。

今後も市ヶ谷ボランティアセンターではこのような障がいの有無に関わらず、共生社会の実現に貢献できるようワークショップを実施していきます。

参加者数 25名



講師の高山氏よりインクルーシブデザインの定義について説明を受ける



片手が使えない状態でお菓子を食べて様子を観察し問題点を洗い出す



お菓子の袋の改善点について議論する



自分が使用している財布の問題点について考える

12. 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座

日時 2017年6月10日(土)

場所 富士見坂校舎 F309

概要

「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を実施しました。

市ヶ谷ボランティアセンターと東京都が共同で、6月10日に「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を実施し、55名の学生が参加しました。

東京都と法政大学は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、外国人観光客等が安心して東京に滞在できる環境を整えるため、本講座を実施しており今回は本年度3回目の実施となります。

東京都が単独で実施している本講座の受講者は、40代、50代、60代の方が多く、大学と東京都が共同で実施することによって、10代、20代の参加も促せるのではないかと思います。また、東京都が単独で実施している本講座の抽選倍率は20倍～30倍であるため、共同で実施することによって本学学生が優先的に受講する場を提供することができました。

当日は、台東区谷中にある「澤の屋」という旅館を紹介した動画を見た後に、おもてなしに関する基礎知識としてコミュニケーション力と問題解決、ボランティアスピリッツについて学びました。講師の話を一方向的に聴講する講座ではなく、グループワークやペアワークを通して、参加者が発表する形式であったため、全員が積極的に参加することができ、非常に満足度の高い講座となりました。最後に、この講座の参加者全員で「おもてなし5箇条」を作成し、ボランティアスピリッツを共有しました。

講座終了後に登録証とバッジが配布され、法政大学から55名の「外国人おもてなし語学ボランティア」を輩出することができました。

ボランティアセンターでは今後もこのような講座を実施していきます。



カードに書かれた情報を相手にジェスチャーだけで伝えるゲーム



外国人観光客にレストランまでの道のりを案内するロールプレイ

●東京都・法政大学共同実施

2020年に向けた地域をあげてのおもてなし

外国人おもてなし
語学ボランティア育成講座

東京都の
外国人おもてなし
語学ボランティア
として登録されます。

2017年6月10日(土) 14:00~17:30
富士見坂校舎 F309
定員 60名

詳しくは、<http://www.bosei.ac.jp/volunteer/>

問い合わせ・申し込み
法政大学市ヶ谷ボランティアセンター
e-mail: ichigaya-vc@bosei.ac.jp
TEL: 03-3264-9516

13. 後援会父母懇談会父母会の扇子をボランティアセンター学生スタッフがデザインしました

日時

2017年4月～6月

概要

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが、後援会父母懇談会に参加されるご父母に配付する扇子（5,000本）をデザインしました。大きいドットと小さいドットを配置し、たくさんあるドット内の一つがえこぴよんになっているかわいらしいデザインになっています。

チーム・オレンジは、後援会から助成していただき、ボランティアツアーやスタディーツアーを実施出来ること、扇子1本につき20円が宮城、岩手、福島、熊本の義援金口座に寄付されることから、少しでもお役に立てればと思い今回の取り組みに協力いたしました。



扇子をデザインしたチーム・オレンジの学生



大きいドットと小さいドットを配置し、たくさんあるドット内の一つがえこぴよんが！

14. 飯田橋で行う地域サポートボランティア（東京メトロ）

日時 2017年6月3日（月）
場所 東京メトロ総合研修センター（新木場）・
飯田橋駅

概要

飯田橋駅で行う地域サポートボランティアの研修会を実施しました。

市ヶ谷ボランティアセンターと東京メトロは、大学近隣の飯田橋駅で、駅構内の「見守る目」を強化するため、学生による駅構内ボランティア活動を6月21日から開始します。

大学と東京メトロがこのような取り組みを実施するのは初の試みとなります。

実施に先立ち、ボランティア活動に参加する学生を集め、6月3日（土）に東京メトロの総合研修訓練センター（新木場）と飯田橋駅で事前研修会を行い20名の学生が参加しました。また、定員（20名）を超える多くの応募があったことから、6月10日（土）にも同様の研修会を実施し、19名の学生が参加しました。公益財団法人日本ケアフィット共育機構喜山氏を講師に招き、座学と実技を交え、活動にあつたての基礎知識や注意点、心構えを学びました。

まず座学では、障がい者差別解消法の説明からはじまり、障がいのレベルや内容は個人差があることから、人によってはサポートを不要としている人もいるので、必ず声かけをして確認して欲しいとお話がありました。またこの他に簡単な手話などの障がい者との接し方について教えていただきました。

このあと、東京メトロの総合研修訓練センター内の訓練用の駅に移動し、車椅子利用者や視覚障がい者との接し方についての実技を行いました。車椅子の折り畳み方などの基本的な車椅子の取り扱い方法からはじまり、段差を乗り越える方法や、改札を通過してみるなどを体験しました。

また視覚障がい者の気持ちを理解するために、視界が悪くなるゴーグルを装着し、券売機の表示や路線図がどのように見えるかを確認してもらった後、2人1組になり、片方が目を閉じて、もう片方が肘を掴んでもらい介添え歩行し、駅のホームを歩いたり、電車を乗り降りしてみたりしました。

この研修会の最後にペーパーテストを実施し、参加者全員がサービス介助基礎検定の資格を取得することができました。

その後、東京メトロの総合研修訓練センター（新木場）から飯田橋駅に移動し、ホームに設置されているインターホンや、出口の場所などやトイレの場所を確認し研修を終了しました。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、6月21日から開始する本ボランティアを通して、地域貢献ボランティアを実施していきます。

参加者数

39名 (6月3日 20名、10日 19名)



講師より挨拶の手話を教えてもらう



視界が悪くなるゴーグルを装着して券売機の表示を確認



介添え歩行で、研修施設内の電車に乗車



研修施設内の非常停止ボタンを押す



改札を車椅子で通過する



21日から開始するボランティアに備え、飯田橋駅の施設説明

15. えこびょん×くまモンコラボグッズプロジェクト

日時 2017年7月5日(水)～7日(金)

概要

ボランティアセンター学生スタッフ VSP が、7月5日～7月7日に実施する「東北・熊本物産展」
http://www.hosei.ac.jp/volunteer/NEWS/zaigaku/170612_01.html

(ボランティアセンターホームページ URL)

で販売する商品として、「えこびょん・くまモンコラボトートバック」と「えこびょん・くまモンコラボハンドタオル」の2点を制作しました。

トートバックは昨年度の物産展でも作製し販売しましたが、えこびょんとくまモンが同じ面に配置されておらず、マチがなく収納力が不十分でした。この反省点を踏まえ、収納力を向上させ、表面がくまモンとえこびょんが同じ方向を向いて歩いているデザインで、裏面がくまモンとえこびょんが寄り添って寝ているデザインになっています。

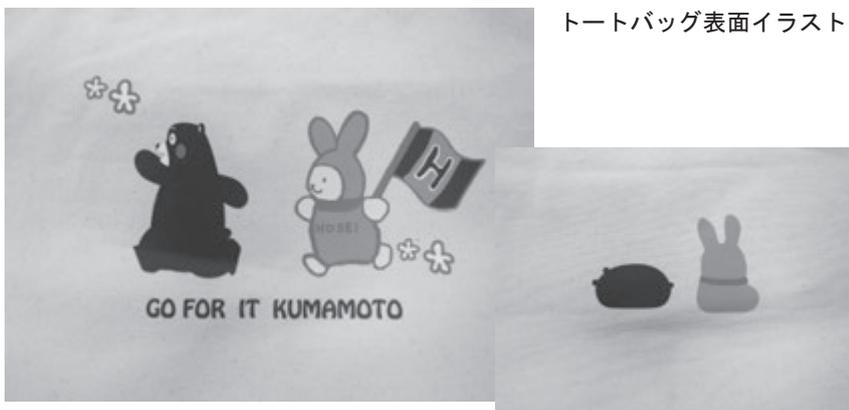
また、今年度はハンドタオルを初めて制作し、くまモンとえこびょんがお湯につかっているほのぼのとしたデザインになっています。これらの商品の利益は、全額被災地に寄付いたしますので、是非とも「東北・熊本物産展」におこしく下さい。



「えこびょん・くまモンコラボグッズ」をデザインしたボランティアセンター学生スタッフ



えこびょん・くまモンコラボハンドタオル



トートバッグ表面イラスト

トートバッグのサイズ (36×37×11 cm)



トートバッグ裏面

16. ボッチャ体験教室

日時 2017年6月5日(月)

場所 富士見坂体育館

概要

東京2020 応援プログラム「ボッチャ体験教室」を6月5日に市ヶ谷ボランティアセンターで実施し15名の学生が参加しました。

本プログラムは、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に「東京2020 応援プログラム」として認定されました。

ボッチャというスポーツをごく簡単に言い表すと、目標球（ジャックボール）に向かってボールを投げ、どれだけ近づけることができるかを競う競技であり、このスポーツは重度の脳性麻痺者のためにヨーロッパで考案されたパラリンピック正式種目です。



ルールはシンプルで非常にわかりやすいものになっているが、そこには様々な戦略を取り入れる必要があり、この点がボッチャを奥深く、面白いものになっています。具体的にはまず目標球をどこにめがけて投げるか、また誰が投げるのか、そしてどの種類のボールを使うかという事を、相手の戦略を予測しながら考えてプレーする必要があります。

最初、参加者は皆ボールをいかにして目標球に近づけるかのみ集中していましたが、徐々に投球が上達してくると、前に述べたような戦略を取り入れながらプレーをするようになりました。今回は7人対8人のチーム戦を行いました。皆チーム内で次はどこに投げるのか、また誰が投げるのか等、コミュニケーションをとりながら真剣に、そして純粋にスポーツとしてボッチャを楽しんでいました。これはボッチャというスポーツを理解する上で、なによりも意義のある点であったと思います。

また、この体験会とは別に、6月17日、18日に行われた、日本選手権東日本ブロック予選の大会運営ボランティアも合わせて実施しました。6月5日に参加した15名の内6名が参加し、受付や会場内誘導、スコア表記入、会場アナウンスなどを担当しました。

実際の試合の雰囲気を感じることができ、ボランティアを通して、大会運営に係る様々な方と交流することで、ボッチャの素晴らしさを改めて学ぶことができました。

ボランティアセンター学生スタッフ 法学部政治学科3年 成田大輝

参加学生の感想

○今回参加したのは健常者の学生のみでしたが、もし、障がい者の方と一緒にプレーしたとしても、同じようにコミュニケーションをとることはできるのではないかと感じました。特に自分のできること、できないことを伝え合うことは、障がい者の方と生活していく中で何よりも重要なのではないかと思います。

障がい者や健常者が立場の関係なく楽しむことができるボッチャというスポーツを体験することができたのは障がい者の方と共に生きていくということを考える上でとても良い経験となりました。

○体験教室の約2週間後に開かれた、ボッチャの大会のボランティアにも携わりました。

初対面の人と協力しながら大会の運営を手助けできたことは、新鮮で良い経験になったと思います。また、選手の試合も観戦することができ、白熱したゲームや、プレーを見ている他の選手達が熱心に語り合う姿が印象的でした。

これらの経験がボランティアへの関心をより深め、自分の視野を広げていくきっかけとなれば良いと思います。

参加者数

15名



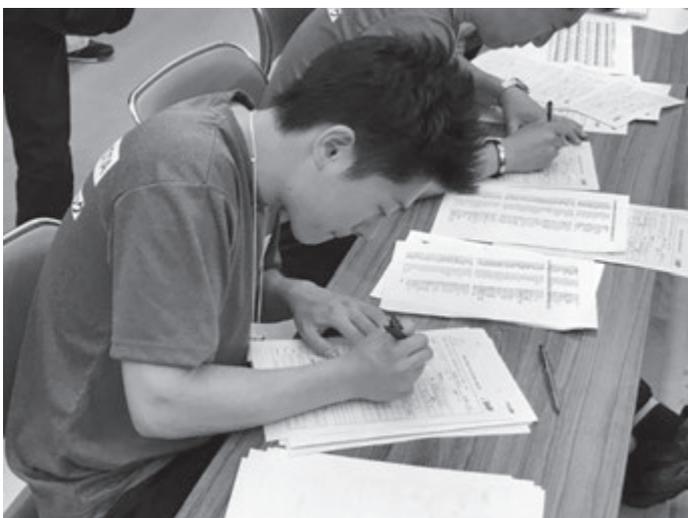
ボッチャの得点方法について説明をうける



目標球を狙いボールを投げる様子



相手チームのボール（赤）よりも目標に近づけるようにボールを投げる



大会運営ボランティアでスコアシートを記入している様子

17. 新しい防災と地域コミュニティの力を活かした復興まちづくり

日時 2017年6月20日(火)

場所 外濠校舎 S404

概要

市ヶ谷ボランティアセンター主催で6月20日に「新しい防災と地域コミュニティの力を活かした復興まちづくり」を実施し、24名の学生が参加しました。

震災から6年経過し、避難生活の長期化や、災害公営住宅等への移転など、被災者を取り巻く生活環境が変化する中で、被災者が安定的な日常生活を営むことができるように、地域コミュニティ形成の促進を行っている遠野 山・里・暮らしネットワークの田村氏を講師としてお招きし、「心の復興」についてお話いただきました。

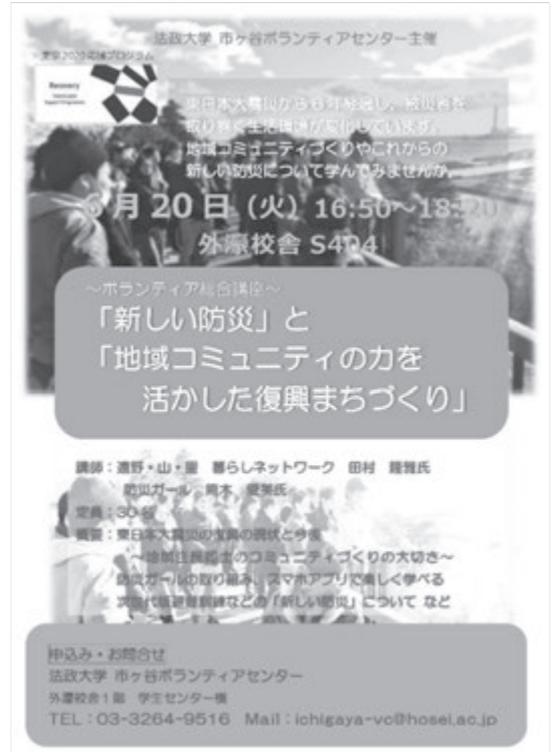
また、スマホのアプリで楽しみながら防災について学べる次世代版避難訓練などの様々な「新しい防災」に取り組む防災ガールの筒木氏を講師に迎え、次世代の防災についてもお話いただき、改めて防災を考えるきっかけになったようです。

今後もボランティアセンターではこのような被災地の今を知り考える講座を今後も行っていきます。

参加者の感想

「復興」と聞くと建物や道路をイメージしがちだが、人と人の関係性や仕事の復興のほうが今は重要であることに気づくことができた。ボランティアの学生数が年々減少しているようなので、震災のことを忘れないようにしていかなければならないと思った。防災グッズをオシャレにするという考えで防災を身近にしているという防災ガールの取り組みは、すごく良い活動で、多くの人に知ってもらいたいと思った。

参加者数 40名



講師の田村氏の話に聞き入る学生たち



防災ガールの筒木氏による新しい防災

18. 避難所体験 ～Save Yourself～

日時 2017年6月25日(日)

場所 富士見坂体育館

概要

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが、6月25日(日)に避難所体験を市ヶ谷キャンパスで実施し、34名の学生が参加しました。

首都直下地震は高確率で発生すると言われていて、いつ起きてもおかしくない状態です。ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジでは東北ボランティアツアーや東北スタディツアーなどの被災地に赴く企画を実施していますが、防災に関する知識も本学学生に学んで欲しいと思い本企画を実施しました。

この企画では、防災クイズ・クロスロード、非常食試食、避難所運営ゲームを行いました。防災クイズ・クロスロードでは、個人で考えるのではなく班で意見を共有しながら答えを考えてもらい、楽しみながら防災知識を身につけました。

防災企画
避難所体験
～Save Yourself～
ボランティアセンター学生スタッフ チーム・オレンジ企画

【募集内容】
実施日：6月25日(日)
時 間：11:00～17:00
場 所：外濠校舎5階 526会議室
定 員：本学学部生 50名
参加費：無料
※先着順：定員に達し次第締め切ります

非常食を試食して、興味を持ち、備蓄の意識につなげよう！

【スケジュール】
11:00～ アイスブレイク
11:15～ 防災クイズ・クロスロード
12:30～ 非常食試食
13:30～ 避難所運営ゲーム
16:45～ 振り返り・まとめ

(お申込み・お問合せ)
市ヶ谷ボランティアセンター (外濠校舎1階学生センター隣)
TEL : 03-3264-9516 E-mail : ichigaya-vc@hosei.ac.jp

災害時に役立つ知識を得よう！

非常食試食では、水を入れるだけで作ることができるアルファ米や缶入りパンを実際に試食することで、備蓄を促す目的で行いました。

避難所運営ゲームでは、避難所の運営側の立場になり、様々な被災者をどこに配置するかなどを班で話し合い、運営の難しさを感じてもらいました。最後には各班でどのように配置したのかを共有しました。

全ての企画において、座学形式ではなく体験型のプログラムであったため、積極的に学ぶことができ、避難所運営の難しさや、避難所運営のノウハウを身に着けることができたようです。

企画学生の感想

参加学生からの感想には、グループで行ったことで、普段話さないような人と意見を交換することにより、楽しみながら様々なことを吸収できたという意見が多くでました。そして、これを機会に非常食の備蓄をしようと思ったという意見もあり、楽しみながら防災知識や意識の向上ができたと思います。

昨年の企画と比べ実施する内容を少し絞ったので不安ではありましたが、避難所運営ゲームを最後までやり遂げることができたので良かったと思います。「考察が短い」といった意見や「クイズの解説をもっと詳しくしてほしい」という意見もあり、そこは改善しなければいけないと感じたので、今後はそういった事も踏まえ、より良い防災企画を行えるようにしていきたいです。

チーム・オレンジ学生スタッフ 法学部政治学科2年 岩城 優大



アルファ米や缶入りパンなどの非常食を試食する



避難所運営ゲームで避難者の配置を検討している様子



避難所運営ゲームでテレビを置く場所をどこに設置するか検討している様子



防災クイズで回答する学生たち

19. 多言語翻訳アプリから学ぶデジタル“おもてなし”

日時 2017年6月26日(月)

場所 外濠校舎5階526会議室

概要

6月26日(月)、「多言語音声翻訳アプリから学ぶデジタル“おもてなし”」を実施し、18名の学生が参加しました。本プログラムはNICT(国立研究開発法人情報通信研究機構)が開発した、多言語音声翻訳アプリ VoiceTra(ボイストラ)を用いて新しい国際コミュニケーションについて考える講座でした。

また、本プログラムは「東京2020応援プログラム」として、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に認定されています。

本プログラムの前半は、NICT 藤田氏より、アプリ開発の経緯や2020年の東京オリンピックへの課題についてお話しいただき、その後、VoiceTra の使用方法やコツなどを教えていただきました。現在31言語に対応していることや、翻訳された言語の正誤の確認ができる仕組みに、参加者も感心した様子でした。



後半は、ボランティアセンターの学生スタッフが企画した VoiceTra を用いたゲームを行いました。1つ目は、机の上は無作為に並べられたタイ語もしくはミャンマー語の文章が書かれている20枚の例文カードの中から早いもの勝ちで、前方のスクリーンに表示された単語を含む例文カードを選択するゲームです。

日ごろ見慣れない言語の文章に学生たちは該当の例文カードを探すのに戸惑っていましたが、日本語との違いを楽しんでいるようでした。また、そのスクリーン表示された単語を VoiceTra で翻訳し実際に発音してみました。

ミャンマー語などで「ありがとう」とスマホに向かって発音すると正しく表示される人もいれば、「きれいですか?」「あいです」などの全く異なる文章が表示される人もいて、大変盛り上がりました。

また、二人一組になり VoiceTra を用いて「今年の夏は何をする予定ですか?」、「朝ごはんは何食べましたか?」などの日本語の質問を英語に変換して、パートナーと英語でコミュニケーションをとりました。主語や助詞の有無で違った意味に翻訳されるので、参加者は慣れるまで苦労していましたが、英語が苦手な学生でも VoiceTra で英語を確認してから話すことが出来るので、英語に対する苦手意識が軽減されたのではないのでしょうか。

私は、アメリカで生まれ、約14年間暮らしてきました。2011年に初めて日本に引っ越してきた時は、言語や文化を理解することは想像以上に大変でした。

積極的にコミュニケーションとり、日本文化を受け入れ、理解を深め、日本に早く馴染もうと努めましたが、文化や言語の違いからなかなか受け入れてもらえず苦労しました。

参加していただいた学生には、困っている外国人の方を見つけたら、今回学んだ VoiceTra のような多言語翻訳アプリを用いて積極的に話しかけて欲しいと思います。

グローバル教養学部 グローバル教養学科 2年 安田 彩夏
文学部 英文学科 3年 植原 里佳

参加者数

18名



ミャンマー語を翻訳アプリに発語している様子



多言語のカードを使ったゲーム



正しく翻訳できているか、確認し合う



日本語の質問を英語に変換して会話する

20. 災害救援ボランティア講座

日時

2017年6月17日、24日、
7月1日（毎回土曜日）

場所

55年館574教室、本所防災館、
総合体育館

概要

市ヶ谷ボランティアセンターでは、6月17日、24日、
7月1日の全3日間、災害救援ボランティア推進委員会、東京防
災救急協会、千代田区・千代田区社会福祉協議会のご協力のもと
「災害救援ボランティア講座」を実施し24名の学生が参加いた
しました。

第1日目は、市ヶ谷キャンパス55年館574会議室にて災害と
防災対策の基本、出火防止と初期消火、被災地でのコミュニケー
ションなどを学びました。

第2日目は、本所防災館で災害模擬体験と実技などを行い、大学
に戻り被災地での安全衛生、「災害時のチームビルディングとリー
ダーシップ」などのグループワークを行いました。

第3日目は、上級救命技術講習として応急手当活動について実技を交え学びました。

人工呼吸、AEDの使用法、災害時などでのけがの応急処置を含めた実践的な講習内容でした。

災害救援ボランティア講座は、毎年行われており全講座受講により、上級救命技能認定証、セーフティリーダー認
定書が交付されます。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、災害時などにリーダーとして、ボランティア活動ができる学生の育成を目標
にしています。今後も学内の講座などの告知にも注目ください！

[学生からの感想]

災害救援ボランティア講座の受講を終えて、防災や応急処置に関しての意識が高まりました。外出の際には水を持参するなど、地震が起こる等いざという時に、身を守るための知識を教わることが出来て大変興味深かったです。また、怪我をした際に三角巾一つで包帯にすることや、また代用品で応急処置が出来ることを知り、今後もしもの際に生かしていきたいと思いました。

いざという時に動けるように行動していきたいです。ありがとうございました。

現代福祉学部 1年

災害救援やセーフティリーダーの意義や内容などは、今回の講習で初めて知ることも多く、とてもためになるものだと感じました。防災館での体験や救急救命も実習をすることで、今後、緊急時に適切で迅速な行動を取ることもできるようになったと思います。

法政大学 市ヶ谷ボランティアセンター 千代田区社会福祉協議会
万が一、災害にあった時、「自分が生き残る方法」と
「他人を助ける方法」を学びませんか？

災害救援 ボランティア講座

★受講生全員、資格が得られます！
※全日種の出席が条件

① 上級救命技能認定証（東京消防庁より交付）
② セーフティリーダー認定証
（災害ボランティア推進委員会より交付）

全3日課・定員30名（参加費無料）★開催：6月12日（月）

6月17日（土）9：00～17：00
6月24日（土）8：50～16：50
7月1日（土）9：00～17：00

◆講座内容◆
◆第1日目（市ヶ谷キャンパス55年館574会議室）
災害と防災対策の基本、出火防止と初期消火、被災地でのコミュニケーションなど
◆第2日目（本所防災館・市ヶ谷キャンパス55年館574会議室）
災害模擬体験と実技、被災地での安全衛生など、災害時のチーム・ビルディングとリーダーシップ
◆第3日目（市ヶ谷キャンパス総合体育館3階会議室）
応急手当実習（上級救命技能講習）、応急処置

申込み・問い合わせ
市ヶ谷ボランティアセンター（西館1階）
03-3264-9516 9：00～17：00 受付（月～金）ichigaya-vc@hosei.ac.jp

また、今回の講習で初めて会った学生の皆さんとも図上訓練や実習を通して仲良くなることができました。3日間という短い間でしたが、とても有意義な時間でした。

法学部 3年

参加者数 24名



1日目：防災対策の基本などについて



2日目：本所防災館での消火器訓練



3日目：上級救命技能講習、三角巾を使用して



3日目：上級救命技能講習、救命措置

21. <KYOPRO 合同企画> 東京の自然を感じよう！ 滝行体験 & 森林保全スタディツアー

日時 2017年7月2日(日)

場所 高尾山琵琶滝、高尾山薬王院

概要

7月2日(日)、課外教養プログラムプロジェクト(KYOPRO)スタッフとボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が協力し、「滝行体験&森林保全スタディツアー」を企画、実施しました。

この企画は東京の自然の美しさを知り、環境保全に対する意識の向上を目的とし、八王子観光案内協会に高尾山に登りながら生息する植物のガイドをしていただきました。また、日常生活から離れ、自然の中に身を置き自分と向き合うことで気持ちをリフレッシュしてもらうため、高尾山薬王院のご指導のもと滝行体験を行いました。

当日は、このプログラムに申し込んだ学生12名と、京王高尾山口駅に集合し、滝行体験が行われる琵琶滝までの道のりを八王子観光案内協会のガイドさん2名に、高尾山に生息する植物や、植物が山に関する影響などを中心に説明していただきました。普段は意識する機会がなかった山々の植物を詳しく説明していただき、参加者は環境保全に対する意識が向上したようです。

滝行体験を行う琵琶滝に到着後、高尾山薬王院のご指導のもと滝行体験の準備を開始しました。初めに諸注意、心構え、作法、滝行中の印の結びかたなどを指導していただき、行衣と呼ばれる白衣に着替え、口を塩で清め滝場に向いました。まず滝場近くのお堂に入り、これから始まる修行が無事に終わるように勤行をし、滝場を帚できれいに清掃しました。清掃を終えると体を塩で清め、いよいよ滝行です。滝場に入り、一礼をし、滝の真下の岩場に腰をかけます。滝に打たれる時間は1人1分間。作法に従い姿勢を整え、琵琶瀧の本尊「南無大聖不動明王」の名を大きな声で繰り返し叫びます。水の冷たさを全身で感じながら、気がつけば雑念は消え、修行に集中していました。寒さで震えながらも、達成感を存分に味わいながら滝行を終えることができました。また、達成感からか気持ちが解放的になり、お互い初対面でしたが自然と会話も弾みました。

高尾山の環境保全に興味があって参加した人、集中力を高めたくて参加した人、就職活動の前に気合いを入れる人、参加者の動機は様々でしたが、みなさんから「参加してよかった」との声をいただきました。日常にはない世界を体験できたことから満足度の高いプログラムになったのではないかと思います。

ボランティアセンター学生スタッフ 経営学部3年 高畑 桃香

参加者数 12名





高尾山観光協会による高尾山に生息する植物のガイド



登山を楽しむ学生たち



滝行中にむすぶ印の練習をする



滝場に行く前に口を塩で清める



滝場の前のお堂でお祈り



集合写真

22. 東北・熊本物産展 ～美味しく楽しく被災地を支援しよう～

日時 2017年7月6日(木)・7日(金)
(7月5日(水) プレ販売)

場所 フォレストガーデン・一口坂校舎

概要

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが、7月6日(木)・7日(金)に一口坂校舎 1 階情報発信スペースで「東北・熊本物産展～美味しく楽しく被災地を支援しよう～」を開催しました。

東日本大震災の復興支援に取り組んでいるチーム・オレンジは、被災地に行けなくても東京で被災地支援をするため、東北・熊本物産展を実施しました。

この企画は、学生ができるボランティアとして震災の風化を防ぐために、2年前から行われてきました。2016年4月の熊本地震を受け、去年に引き続き東北の商品のみならず熊本の商品もそろえて、岩手県の有名な銘菓「かもめの玉子」や熊本県のピリリと辛いユニークな味わいの「からし蓮根サブレ」など学生が選んだ東京ではなかなか買えない商品を販売しました。



また昨年度の物産展でも販売し好評だった、本学の公式キャラクター「えこぴよん」と熊本県のPRキャラクター「くまモン」とのコラボグッズを今年も販売しました。

<http://www.hosei.ac.jp/koho/photo/2017/170703.html> (関連ホームページ URL)

7月5日には、ボアソナードタワーのフォレストガーデンで物産展の開催をPRするため、プレ販売を行いました。多くの学生がその場で商品を手に取って購入、興味を持ってくれました。また、物産展当日は、願い事を書いた短冊を笹に結び付けると、えこぴよんバッジがもらえる企画の実施と、えこぴよんと協力しながら一口坂校舎の前ではっぴを着て、積極的な呼び込みを行いました。

更に、5月26日～5月31日にオリンパスプラザ東京で開催した福島県楡葉町の休耕田を活用した花畑の写真展を再び今回の物産展と同じ場所で行い、多くの人が学生の撮影した写真を見て、被災地の今を感じてくれたようです。

<http://www.hosei.ac.jp/koho/photo/2017/170616.html> (関連ホームページ URL)

物産展は、354名の方に来場していただき、売上額は、311,320円に達し、利益の36,427円はすべて、熊本、岩手、宮城、福島義援金口座に寄付させていただきました。

東京でできる被災地支援や、震災の風化防止に関する取り組みを、市ヶ谷ボランティアセンターは今後も続けていく予定です。

来客者数 : 354名 売上額 : 311,320円

利益 : 36,427円 (熊本、岩手、宮城、福島義援金口座に全額寄付)

協力 : 株式会社エイチ・ユー

・企画学生の感想

今年度の物産展は、東北の商品の種類を増やすことを意識しながら企画を進めていきました。どのような商品を新しく販売するか物産展の会議で、スタッフ全員が提案し話し合っ決定しました。そのおかげで去年から引き続き販売しているものも含め、多くの商品の売れ行きが好調でした。コラボグッズの方も、ボランティアセンター学生スタッフVSPの方々による企画・デザインや販売時の協力で、7月5日のプレ販売の時から人気が大変高かったです。

チーム・オレンジは主に東北支援を行っているため、熊本の支援を行う機会はあまりないのですが、この企画を通じて熊本の復興に少しでも役立てたらと思います。たくさんのスタッフの努力もあり、売り上げが過去最高になり義援金を昨年よりも増やすことができたことは非常に嬉しいです。商品発注や販売場所の提供で今年もお世話になった株式会社エイチ・ユーの方々には大変感謝しております。被災地支援として現地のみならず東京でもできるような活動をこれからも続けていきたいです。

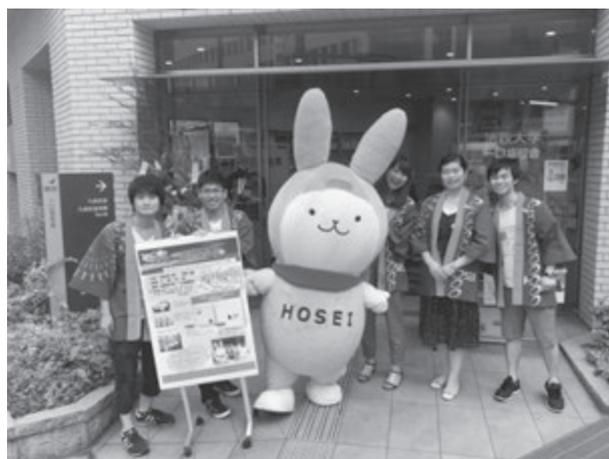
チーム・オレンジ学生スタッフ 法学部法律学科 3年生 渡辺康太

参加者数

40名



天下の中店頭で冷えたさるなしジュースを販売



えこぴよんも物産展のお手伝いをしにきてくれました



物産展の一角に設置した檜葉町の写真展コーナー



願い事を書いた短冊を結びつけるれるよう筐を設置しました

23. 新宿区社会福祉協議会ぬくもりサロンでの 合唱ボランティア（アカデミー合唱団）

日時 2017年5月22日（月）

場所 高齢者福祉センター聖母ホーム

概要

8月17日（木）アカデミー合唱団が、新宿区社会福祉協議会からのボランティアイベントとして、高齢者福祉センター聖母ホームでの「ぬくもりサロン」で演奏しました。

アカデミー合唱団は、1962年に発足された100名ほどが所属している混声合唱団です。ぬくもりサロンの活動は施設の1階地域交流スペースで行われ、夏休み期間中ではありましたが、10名の学生が参加しました。

「法政大学校歌」をはじめ、「きみ歌えよ」「ふるさと」といった、誰もが知っている曲をアカペラで合唱しました。20名ほどの観客の中には、演奏に合わせ知っている曲と一緒に口ずさんだり、体をリズムに合わせて動かしたりしている方、学生のMCに楽しそうにされている方もいらっしゃいました。

また、2階の窓から興味深そうに眺めている方などもいて、交流スペースがコンサート会場のように和やかなムードで盛り上がりました。

最後に思いがけないアンコールにも即興で応えることができ、演奏していた学生も充実感を味わえたようでした。

アカデミー合唱団の学生からは、「初めての場所で演奏するのは不安もありましたが、お客さんと一体になり楽しめ、またスケジュールが合えばまた演奏したいです。」などという感想もありました。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、このような学生の活動の発表の場としてのボランティア活動なども行っていく予定です。

参加者数 10名（観客数 約20名）



アカデミー合唱団の演奏風景



MCを織り交ぜ会場を盛り上げていく

24. 電通育英会助成事業～東京 2020 応援プログラム～ 東北被災地ボランティアツアー

日時

2017年8月22日(火)
～9月4日(月)3分隊で出発

場所

岩手県遠野市・陸前高田市、大槌町

概要

8月22日(火)～9月4日(月)、ボランティアセンターでは、岩手県遠野市を拠点にし、陸前高田市、大槌町で通算31～33次隊となる「東北被災地ボランティアツアー」を実施し、総勢36名の学生が参加しました。

現地では、「遠野山・里・暮らしネット」のコーディネートの下、たこやき交流会、岩手弁かるた大会、薪割り、幼稚園やビニールハウスの草むしりなどの様々なボランティア活動を実施しました。また、震災遺構の見学会を実施しました。



現地に向かう前にはボランティアの心得や注意事項、現地の現状等についての事前研修を実施し、帰着後には報告会を開催し、隊ごとに活動発表を行い、情報を共有しました。

また、ボランティアセンター学生スタッフであるチーム・オレンジが、本プログラムを実施する前に、法政大学の被災地支援の取り組みを知ってもらうため、「チーオレ新聞」を作成し、ボランティアの受け入れ先に配布しました。新聞を渡す際にどのようなボランティアを実施するかを取材し、事前説明会時に、参加学生にボランティア内容を伝えることにより、学生が想像しているボランティアと実際に行うボランティアとのギャップを埋めることができました。さらに、今年度より、交流会の内容をチーム・オレンジの学生スタッフが考案し、現地のNPO法人と試行錯誤した結果、岩手弁かるた大会、たこやき交流会を実施し、交流会は大変盛り上がりました。今後もボランティアセンターでは学生の力を活用した被災地支援を実施していきます。

[参加者の感想]

被災地でボランティアが出来ればと思い参加しましたが、現地の人々に色々貴重な話を聞かせてもらったり、食べ物をいただいたりして、私たちが、お世話してもらうことが多く申し訳ない気持ちになった。訪問しただけでも喜んでくれたのが嬉しかったし、本当に参加してよかったと思う。

継続して活動するからこそ得られるものはより大きくなることを実感しました。今回は自分を覚えてくださっている方々にたくさんお会いしました。それはとても嬉しいことで、ここにまた戻ってきたいと思える最大の理由です。ぜひ、また戻っていきたく思います。

参加者数

36名



仮設住宅で岩田弁かるた大会



公営住宅でチーム・オレンジ新聞を用いて活動紹介



薪割りのお手伝い



公営住宅でたこ焼き交流会



ビニールハウスで雑草とり



仮設住宅で集合写真

25. まちのわ防災 Festa (飯田橋グランブルーム)

日時 2017年9月2日(土)

場所 飯田橋グランブルーム

概要

9月2日(土)に「まちのわ 防災 Festa」が飯田橋グラン・ブルーム管理組合主催のもと開催されました。

本イベントは飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に交流できる場づくりを目的に例年開催されており、今回は防災をテーマにした「見て・感じて・楽しくふれあえる」イベントとなりました。

市ヶ谷ボランティアセンターは、キャリアデザイン学部荒川ゼミ、理工学部知能ロボット研究室(理工学部伊藤研究室)、IVUSA、ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジと連携、本イベントを盛り上げ、総計916名の方々に参加していただきました。

各団体が実施した内容は以下の通り

1. 理工学部知能ロボット研究室(理工学部伊藤研究室)

○最新レスキューロボット実演

災害時に、人命救助活動を支援するレスキューロボットの実演を行いました。

2. キャリアデザイン学部荒川ゼミ

○ART EGGS PROJECT

簡単なクイズで防災を学びながら、親子で楽しく、アート防災グッズ「LED ランタンづくり」、「防災まくら作り」を行いました。

3. チームオレンジ、

○緊急に役立つ身近なものの活用法

腕に怪我を負ったときに役立つレジ袋の利用法、三角巾の使い方、キッチンペーパーを使ったマスク作りを来場者に教えました。

4. IVUSA

○防災カルタ&バルーンアート

手作りの防災カルタで楽しみながら防災について学び、バルーンアートを子どもたちにプレゼント。

本イベントを通して、法政大学学生の取り組みについての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することができました。ボランティアセンターでこのような取り組みを今後も積極的に行っていきます。

参加者数 学生 36 名 (総参加者約 960 名)





キャリアデザイン学部荒川ゼミ：
LED ランタンと防災まぐらのワークショップ



知能ロボット研究室：
レスキューロボットの操作方法を教える



チームオレンジ：キッチンペーパーマスクの作り方



キャリアデザイン学部荒川ゼミ：LED ランタンの作り方



IVUSA：防災かるた



IVUSA：バルーンアートを披露

26. 一風堂コラボ物産展(法政フェア)

日時 2017年9月17日(日)

場所 外濠校舎

概要

ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが、9月17日(日)に法政フェア内で「一風堂」とコラボして九州北部豪雨支援の物産展を開催しました。

東日本大震災の復興支援に取り組んでいるチーム・オレンジは、2017年7月に発生した九州北部豪雨の支援をすることを考え、法政フェア内で毎年実施している被災地の名産品をとりそろえた被災地支援物産展で九州に関連する商品を販売することを企画しました。その際に、法政大学の近隣に九州ラーメンの一風堂があることから、協力をお願いし、一風堂の商品を販売することになりました。

一風堂のご担当者様と学生が打ち合わせを実施し、この物産展ではおうちでIPPUDOシリーズの人気商品である「赤丸1食箱」と「白丸1食箱」と一風堂でお冷の代わりにお出ししている「ルイボスティー」(500mlペットボトル)を販売することにしました。

ご厚意によりルイボスティーについては通常の仕入価格より安価な値段で購入させていただき、さらに、この3つの商品のいずれかを購入して頂いた方には、一風堂の「替玉無料券」を来場者にプレゼントできるように、替玉無料券を手配していただきました。

当日の物産展では、従来から物産展で販売している東北や熊本の物産と合わせて一風堂商品を販売しました。販売促進のためにポップを作成したり、法政大学のはっぴを着て積極的な呼びこみなどとした結果、3時間の短い間でしたが、69,856円を売り上げ、利益の5,725円はすべて、各被災地に全額寄付することができました。

東京でできる被災地支援や、震災の風化防止に関する取り組みを、市ヶ谷ボランティアセンターは今後も続けていきます。

売上額 : 69,856円

寄付額 : 5,725円

協力 : 株式会社エイチ・ユー

参加者数 12名(学生スタッフ)



一風堂の赤丸、白丸、ルイボスティーを販売



えこびよん・くまモンコラボグッズを来場者に説明



いかせんべいのサンプルを来場者に配布



集合写真

27. 日本初のユニバーサルシアターで学ぶ バリアフリー映画入門講座

日時 2017年9月29日(金)

場所 シネマチュプキタバタ(北区 田端)

概要

2017年9月29日に「日本初のユニバーサルシアターで学ぶバリアフリー映画入門講座」を市ヶ谷ボランティアセンターで実施し、19人の学生が参加しました。

ユニバーサルシアターとは、目の不自由な人たちだけではなく、耳の不自由な人や車いすの人たちと共に映画鑑賞を楽しむために、車いすスペースやイヤホン音声ガイド、字幕付き上映を常時行うことで、バリアフリーな映画鑑賞をサポートしている映画館です。

今回は日本初のユニバーサルシアターであるシネマチュプキタバタにおいてバリアフリー映画の製作を描いた河瀬直美監督作品「光」を鑑賞しました。この映画の鑑賞を通じて音声ガイドのみで映像を伝えることの難しさ、視覚障がい者との向き合い方、バリアフリー映画製作者の苦悩、徐々に視覚を失っていく視覚障がい者の葛藤などを学ぶ事ができ、参加した学生たちも集中して映画に魅入っているようでした。

そして、「光」終了後に短編映画「あの砂の行方」を鑑賞した際には、実際に目をつぶりながら鑑賞することによって、実際に視覚が奪われた音声ガイドのみの状態でユニバーサル映画を鑑賞してもらう体験もしてもらいました。多くの学生が音声ガイドのみで映画を想像する難しさと、奥深さを体感していました。

また、これらの映画を鑑賞した後は「光」で音声ガイド制作の監修をされ、シネマチュプキタバタの運営を行っているバリアフリー映画推進団体「シティーライツ」の方から、映画製作の裏側について、実際に音声ガイドを作るときに工夫している点、そして、バリアフリー映画の現状や課題についてお話を伺うことができました。どのお話も普段知る事のできないような貴重なお話で、質疑応答の際には、質問の絶えない非常に充実した時間となりました。今回のプログラムは学生にとって視覚障害の方との向き合い方やバリアフリー社会について考える良い機会となりました。

本企画はボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が企画したもので、企画の内容などについて「シティーライツ」の方と話し合いの場を持たせていただきました。企画した学生もこのような経験を通じて、ユニバーサルシアターやバリアフリー映画のついて多くのことを学ぶ事ができたと思います。



ボランティアセンター学生スタッフ (VSP)

法学部 3年 阿由葉 史弥

法学部 2年 小川 栞南

法学部 2年 上档 莉乃

参加者数

19名



バリアフリー映画推進団体シティーライツより説明



今回の企画に参加した学生たち



ボランティアセンター学生スタッフ司会の質疑応答



ユニバーサルシアターの様子

28. 富士見わんぱくひろばでおこなう 子供・音楽ボランティア

日時 2017年10月4日(水)

場所 富士見わんぱくひろば

概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が、10月4日(水)に富士見わんぱくひろば(大学から徒歩8分程度の児童館)で子供・音楽ボランティアを実施し23名の大学生と35名のこどもたちが参加しました。

このボランティアは楽器演奏や合唱を通じ、子供とふれあうボランティアです。ボランティアセンターの学生スタッフ(VSP)の呼びかけにより、法政大学公認サークルアカデミー合唱団とピアノの会が協力してくれました。

当日は、ピアノを分解して、子供にピアノの構造を知ってもらうピアノの解体ショーを実施しました。ピアノの解体ショーの間には、ピアノが初めて作られた国はどこか？

ピアノの鍵盤の数はいくつ？などのクイズがあり、正解者にはシールをプレゼントするなどの工夫をすることによって、大変盛りあがりました。

その後、ユーフォニアム、フルート、ギター、ベースなどの楽器を用いて3曲程度演奏した後、学生たちの演奏にあわせ、子供たちが好きな曲を参加者全員で合唱しました。

今回は、複数団体との合同企画だったこともあり、各々の特技を活かした楽器演奏を発表できる良い機会となりました。また、楽器の構造や音の出る仕組みを説明する際、子供たちに分かりやすく伝えていく難しさに気づかされるとともに、子供たちと触れあうことの楽しさを知ることができ、自分の特技が地域貢献に繋がる手ごたえを感じられました。今後もこのようなボランティアを続けていきたいです。

ボランティアセンター学生スタッフ経営学部2年 川島 瑛里

参加者数 23名(大学生)35名(子供たち)

市ヶ谷ボランティアセンター・VSP 企画

富士見わんぱくひろばでおこなう 子供・音楽ボランティア

～ピアノの音の原理についても一緒に学べる～

子供、音楽好きの
学生におすすめです！

～プログラム～

①ピアノの解体ショー

- ・ピアノの内部のメカニズム
- ・ここで弾けるのはピアノの音！
- ・子供と一緒にクイズに挑戦！

②楽器の演奏・合唱

- ・ピアノの会による
ピアノ・フルートの演奏
- ・アカデミー合唱団による
子どもたちとの合唱

ボランティア実施
当日の楽器演奏や子どもたちとふれあ
う学生を募集します。
楽器を演奏してみたいも大歓迎！

10月4日(水)

15:30～16:30 ★市ヶ谷ボランティアセンター 15:10 集合
富士見わんぱくひろばスタジオ

大学から徒歩8分 児童館の隣です。〒100-8303 東京都千代田区千代田

【申込方法】市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入
【問い合わせ】市ヶ谷ボランティアセンター(外課校舎1階)
Tel: 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp



ピアノを解体して、音のなる原理を子供たちに説明



ピアノに関するクイズを出題



フルートとピアノによる演奏



ユーフォニアムとフルートによる演奏

29. 猫たちに会いに行こう！ ～保護猫カフェで学ぶ動物愛護ツアー～

日時 2017年10月13日(金)

概要 ネコリパブリック東京(豊島区 西池袋)

場所

市ヶ谷ボランティアセンター主催で「猫たちに会いに行こう！～保護猫カフェで学ぶ動物愛護ツアー～」を実施し、24名の学生が参加しました。

保護猫カフェは、猫の殺処分ゼロを目指し、来店するお客さんが保護猫と触れ合いながら里親を探ることができる猫カフェです。また、今回訪れた保護猫カフェを運営しているネコリパブリックでは保護猫カフェの運営の他に、猫グッズの販売、猫と触れ合えるネコヨガなどのイベントを開催するなどして、猫を保護するための費用を捻出しています。

今回は、そのような保護猫活動のお話や、猫との触れ合いを通じて学生に保護猫カフェの活動を知ってもらうことを目的に開催しました。更に、より保護猫活動を理解してもらうために、希望者に清掃などのお手伝いを別日にしてもらいました。

当日は、講師の上野さんにネコリパブリックの保護猫活動のお話をいただきました。

保護猫の里親探しは一般的に、譲渡会で行われますが、譲渡会では猫は緊張してしまい、その猫の本来の性格が分かりません。中には、暴れてしまう猫もいるそうです。

しかし、保護猫カフェでは、普通に暮らしている猫の生活を見ることができ、それぞれの猫のありのままの性格を知ることができます。何度か足を運んでくれ、ピンときた猫の里親になるお客さんもいるそうです。スムーズに里親が見つかるだけでなく、その猫の本来の性格を知った上で引き取ることによって、猫と里親がお互い良好な関係を築ける可能性が高いようです。

また、10月13日のプログラム参加したうちの6名が、10月17日、18日に保護猫のトイレ清掃や、体重を測るといったネコリパブリックさんのお手伝いをする企画も実施しました。

保護猫の体重を測る時、まだ人見知りをしている猫は、餌でおびき寄せても中々体重計に乗ってもらえず苦戦しましたが、猫を保護することの重要性と大変さを学ぶことができました。保護猫の中には撫でてでも逃げず、餌を目の前に出すと食らいつくように奪い取ろうとするほど元気な猫もいましたが、近づくだけで怯えてしまい逃げってしまう猫もいました。保護猫カフェでお客さんと触れ合い、少しずつ人に慣れてもらえたら嬉しいなと思いました。

ボランティアセンター学生スタッフ (VSP)

文学部英文学科3年 植原 里佳

経営学部市場経営学科3年 高畑 桃香

経営学部市場経営学科2年 宮原 桃

経営学部市場経営学科2年 小林 実花子

経営学部経営戦略学科2年 川島 瑛莉

法学部政治学科1年 藤山 雄多



参加者数

24名



猫じゃらしで猫と遊ぶ



講師により保護猫についてのお話を聞く



保護猫に餌をあたえる学生



学生の後ろを通る猫

30. 若者と進める景観植物を活用した 休耕田の活性化事業 福島フェス 2017

日時 2017年10月14日(土)・15日(日)

場所 六本木ヒルズアリーナ(港区六本木)

概要

法政大学ボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジ19名の学生が、10月14日(土)・15日(日)、東京・港区の六本木ヒルズアリーナで開催された「福島フェス2017」にブースを出展した檜葉町の協力をし、イベントを盛り上げました。

美味しい食材や文化など、福島県の魅力を東京から発信する同イベントは、ステージパフォーマンスや飲食、物産など盛りだくさんの内容で、福島に心を寄せる人々から毎年好評を得ています。

檜葉町のブースでは、出荷を再開した檜葉町のお米の美味しさを知っていただくため、ゲーム感覚でお米の重さを当てる「ならば米すくいどりチャレンジ!」と学生たちが4月に撮影した写真を展示した「学生が撮影した檜葉町の魅力」写真展を実施しました。

○ならば米すくいどりチャレンジ

枡などを使って300gのお米をすくい上げるこの催しは、小さな子どもからお年寄りまで大好評でした。成功した参加者には全員に記念品としてならば米300gが贈呈されました。このブースの運営をチーム・オレンジが担当しました。また、ラップに包んだ炊いたならば米を配布し、来場者にその場で味わってもらい、ならば米の感想を来場者にインタビューをしました。来場者からは、美味しい、甘くてもっちりしているなどのご意見をいただき、ならば米のおいしさを再確認するとともに、多くの人にはならば米の素晴らしさをアピールすることができました。

また、学生たちは、6月にお米の苗を植え、10月には稲刈りの手伝いをしてきたことから、達成感も感じていたようです。

<「学生が撮影した檜葉町の魅力」写真展>

チーム・オレンジが、4月に福島県檜葉町の魅力を県外に発信することを目的に、撮影し写真の展示も行い、来場者に檜葉町の素晴らしい風景を伝えることができました。

https://www.hosei.ac.jp/volunteer/NEWS/event/170428_01.html

(「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」「春の花の撮影会」報告ホームページURL)

今後も法政大学ボランティアセンターは檜葉町を応援していきます。

参加者数 19名



ならは米すくいどりチャレンジで参加者と交流



集合写真



ならは米の味を来場者にインタビュー



協力した檜葉町のブース



「学生が撮影した檜葉町の魅力」写真展



6月実施した田植えの様子

31. 手話講座(入門編)

日時 2018年10月16日、23日、30日、
11月13日、20日、27日、
12月4日、11日(毎月曜日)

場所 55・58年館 869教室

概要

市ヶ谷ボランティアセンター主催で、手話講座(入門編)を全8回にわたり実施し、定員を上回る多数の応募があり、初回は47名が参加しました。

10月16日、23日(番外編:車いすフェンシング)、30日、11月13日、20日、27日、12月4日、11日の月曜日に講座を行いました。

手話講座入門編では、NHK手話ニュースキャスター中野 佐世子氏を講師に招き、自己紹介を初め、基本的なあいさつから、聴覚障がい者について、また障がい者に関しての法規などにも触れながら理解を深めていきました。テキスト「遊んで学べる手話ゲームブック」を基本にしながら、楽しく学んでいくことができました。

番外編として、10月23日(月)に、「車いすフェンシングから考えるパラスポーツの世界」として手話講座とは異なる角度で「東京2020オリンピック・パラリンピック」を意識したプログラムも行い、手話通訳の立場から見たパラスポーツについてや、またパラスポーツに関連した手話についてなども学べました。

手話講座に関しては、全8回という事もあり、今回の入門編からもっとハイレベルな内容に関して学んでいきたいという意欲的な参加者や、より広義な福祉についてより知識を深めていきたいなどの感想もあり、充実したボランティア講座になりました。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、今後もボランティア活動に生かせる講義を行っていく予定です。



手話講座
入門編 Ⅰ

假文字の練習から始め、
あいさつや自己紹介など、
簡単な会話の練習までを学びます。
ぜひこの機会に手話にふれてみませんか?

※8月にまったくられたことのない
方も参加は歓迎いたします。
※定員はありますが、できる限り
希望者が参加できるようにします。

10月16日(月)～全8回
10月16日、23日、30日、11月13日、20日、27日
12月4日、11日 毎月 月曜日に開講します。

時 間 : 16:50~18:20 (5限)
場 所 : 55・58年館 869教室 参加費:無料 講師:中野 佐世子氏
募集対象 : 本学学部生、教職員・定員40名(定員に達し次第締め切り)
講 師 : NHK手話ニュースキャスター 中野 佐世子 氏
申込み方法 : 市ヶ谷ボランティアセンターにて申込書記入

【お問合せ】 市ヶ谷ボランティアセンター(外環校舎1階)
TEL:03-3264-9516 メール:ichijaya-vc@hosel.ac.jp

参加学生の感想

- 軽い気持ちで受けた講座でしたが、回を重ねるごとに世の中を見る態度が変わっていく実感がありました。手話が少しできるようになったことはもちろんですが、それ以上に問題意識をもつようになったり、声をかけようと心がけられるようになりました。これをきっかけにして勉強していきたいです。ありがとうございました。
- 手話だけでなく、耳の聞こえない方、目の見えない方とどのようにコミュニケーションをとると良いか知ることができて、本当に良かったです。視野が広がりました。機会があれば、いろいろな人とコミュニケーションを楽しみたいと思いました。
- 毎回の講座がとても楽しくて来るのを楽しみにしていました。来年卒業なので講座はもう受講できませんが、講座で学んだことを入社先でも活用していきます。

ありがとうございました。

- 私は、10年前から、保育ボランティアをしています。大学の休みには、保育園で保育士の臨時職員の仕事もしています。保育の現場にも、様々なハンディを持った子どもがいます。保育の現場から感じることは、「出来る人が出来ない人に手を貸す」ということだと思います。子ども同士もお互いに助け合っています。(健常児と発達障害児)老若男女を問わず、みんなが助け合って、幸せになれるといいな、と思います。



手話講座（入門編）講義を聴く



手話講座（入門編）熱心に手話を学ぶ

参加者数

47名（初回）

32.車いすフェンシングから考えるパラスポーツの世界

日時 2017年10月23日(月)

場所 外濠校舎523～526会議室

概要

10月23日に『[東京2020 応援プログラム]車いすフェンシングから考えるパラスポーツの世界』をボランティアセンターで実施し27名の学生が参加しました。

車いすフェンシングとは、その名の通り車いすに乗った状態で下半身を固定して行うフェンシングでパラリンピックの正式種目として2020年のパラリンピックでも実施されるパラスポーツです。

今回の企画では日本車いすフェンシング協会の牛込公一氏に講演をしていただきました。牛込氏は以前車いすフェンシングだけでなく、車いすバスケットボールでも日本代表のトレーナーをされていたこともあり、車いすフェンシングだけでなく、車いすスポーツ全般について貴重なお話を伺うことができ、参加した学生たちも普段接する機会の少ないパラスポーツに対して理解を深める事ができていたようでした。

また、実際に車いすフェンシングの道具を使った車いすフェンシング体験も行いました。簡単そうに見える剣を突く動作にも体験した学生たちは苦戦しており、パラスポーツに奥深さを体感することができていたと思います。

そして、講演の後半では、トレーナーとして多くのパラスポーツアスリートの方と触れ合った牛込氏が考える、障がいを持つ方との向き合い方についてお話をいただきました。そのお話を通して障がいを持っている方々を「障がい者」というカテゴリーに一括してカテゴライズしてしまっている現状と、障がいを持っている人、ひとりひとりとそれぞれに向き合う重要性を学ぶことができました。

また、今回はボランティアセンターで実施している「手話講座」との共催という形を取ったため、手話講座の講師をされている中野佐世子氏のお話を伺うこともでき、手話通訳の立場から見たパラスポーツについてや、パラスポーツに関連した手話についても学ぶことができ非常に充実したプログラムになりました。

今回のプログラムは、ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が企画しました。講師の方への連絡や、講演内容に関する打合せなどを行うことによって、プログラム企画の一連の流れを学びました。

市ヶ谷ボランティアセンターではこのようなボランティアのきっかけとなるような様々な企画を行う予定です。

東京パラリンピック正式種目「車いすフェンシング」について学べる

車いすフェンシングから考えるパラスポーツの世界

10月23日(月)

16:50～18:20 5限

場所：外濠校舎523～526会議室

定員：30名

講師：日本車いすフェンシング協会

申し込み方法：市ヶ谷ボランティアセンター窓口にて申込書記入
問い合わせ：市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階)
Tel: 03-3264-9516 Mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp

ボランティアセンター学生スタッフ 法学部3年 阿由葉 史弥

参加者数 27名



フェンシングの剣に触れてみる



フェンシングを疑似体験してみる



講義風景



マスクの着脱

33. [東京 2020 応援プログラム] ボッチャ体験教室

日時 2017年10月25日(水)～27日(金)

場所 市ヶ谷キャンパス正面前広場

概要

東京2020応援プログラム「ボッチャ体験教室」を市ヶ谷キャンパス正面前広場で10月25日～27日のお昼休みに実施し197名の学生が参加しました。

2017年5月に、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携事業実施に向け、学生支援本部担当理事のもとにスポーツ研究センター教職員、学生センター教職員、保健体育部教職員からなる東京オリンピック・パラリンピック（東京2020）連携プロジェクトチームが発足しました。

今回の正面前広場ボッチャ体験教室は東京オリンピック・パラリンピック（東京2020）連携プロジェクトチームの呼びかけに協力してくれた市ヶ谷サークル支援機構（CSK）・体育会本部・第二体育会・応援団・学友会主催行事実行委員会・スポーツ法政新聞会・法政大学新聞学会・課外教育プログラム学生スタッフ・ボランティアセンター学生スタッフなどの学生たちが中心となり企画運営をしてくれました。

より多くの学生に東京2020大会への関心を高めるために、市ヶ谷キャンパスで最も人通りが多い正面前広場で実施し、誰もが気軽に参加できるユニバーサルスポーツであり、パラリンピック正式種目でもあるボッチャをすることにしました。

企画学生たちは東京2020大会への学内の機運を高めるため、より多くの学生にこの活動を知ってもらえるようにミーティングを複数回重ね、活動趣旨などを記載したピラや模造紙の作成や当日の運営方法について検討を重ねていきました。

25日、26日はお昼休みに正面前広場を通過した学生に積極的に声かけ、より多くの人に体験してもらうために企画学生が考案した簡易ルールでボッチャ体験教室を実施しました。ボッチャはジャックボール（白ボール）をいかに自身のボールを近づけるかを競うスポーツです。単純なルールのように思えますが、実際にやってみると奥が深く、参加者の中には実施時間中ずっとやっている学生があらわれるほど、ボッチャに興味をもってくれる学生がたくさんいました。

最終日の27日は、大勢の見学者のいる中総勢約40名でトーナメント戦を行いました。25日、26日の体験会に参加した学生だけでなく27日に飛び込みで参加してくれた学生や今回のプログラムを企画した学生、東京2020連携プロジェクトの教職員などの様々な人たちが参加しました。特に決勝戦は接戦で大変盛り上がり、競技者がボールを一球一球投げる度に歓声が起きていました。

優勝者から4位までの人には東京オリンピック・パラリンピック（東京2020）連携プロジェクトチームの座長である齋藤学生センター長より、東京2020オリンピック・パラリンピック公式グッズのトートバックやタンブラーなどが贈呈されました。



実施した3日間で197名の学生が参加し、正門前広場を通過したたくさんの学生が今回の取り組みに興味を示してくれました。今後も東京オリンピック・パラリンピック（東京2020）連携プロジェクトチームは東京2020大会に向けたオリンピック・パラリンピックの機運を醸成する取り組みを行っていきます。

<企画学生の感想>

今回のボッチャ体験会は、東京2020オリンピック・パラリンピックに多くの学生が興味、関心を持ってもらうことを目的に様々な団体と協力して準備をしてきました。

そのため、大半の学生は初対面であるため、ミーティングでの議論も活発でなく不安な気持ちになりましたが多くの学生に東京2020を感じて欲しいという強い気持ちから積極的に他団体に働きかけ、自主的に複数回ミーティングをした結果トーナメント戦の開催や景品の用意さらにはピラ・模造紙作成などの様々な学生発案のアイデアが生まれ、各団体の長所を生かしたプログラムを作り上げることができました。

今回のプログラムの成功と同様に今まで関わりがなかった学生団体の皆様と交流することができました。

今後も様々な学生団体と協力して、東京2020に向けて頑張っていきたいです。

体育会本部3年 神谷亮磨（文学部）

参加者数

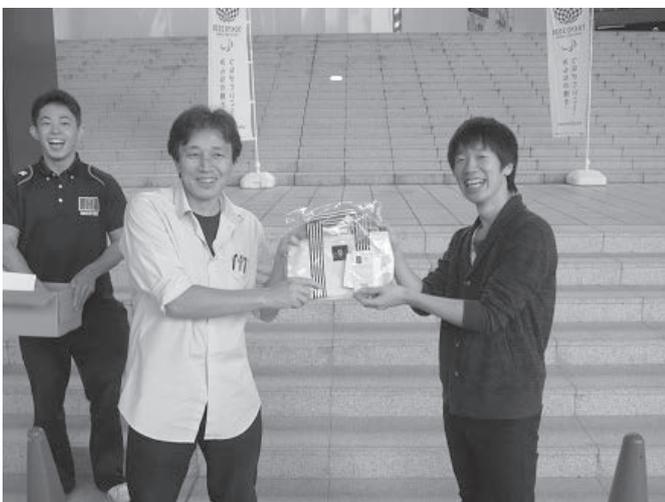
197名



たくさんの観客が見守るなか実施したトーナメント



ボッチャの点数計算について参加者に教える企画学生



齋藤学生センター長より入賞者にオリパラグッズの進呈



集合写真

34. 富士見わんぱくこどもまつり 2017

日時 2017年10月28日(月)

場所 富士見わんぱくひろば

概要

市ヶ谷ボランティアセンターでは、10月28日(土)、千代田区富士見わんぱくひろばで実施された「わんぱくこどもまつり2017」に協力しました。

このイベントは、約600名もの参加者がいる地域児童館最大のイベントです。法政大学では、アカデミー合唱団、児童文化研究会、マジシャンズクラブのメンバーと一般応募した学生を含む計24名の本学学生が参加しました。

アカデミー合唱団の学生は、定番の「きみうたえよ」「We are the world」、また「となりのトトロ」「さんぽ」「恋ダンス」などの親しみやすい曲を歌い、子供や親御さんからも大好評でした。

児童文化研究会の学生は「おおきなかぶ」の巨大紙芝居を披露し、マジシャンズクラブは、身近にあるグッズなどを使ったマジックで子どもたちの人気者になっていました。一般応募した学生たちは、パレードの交通案内、受付、工作教室の補助、また、暗幕を貼ったアリーナの中でのハロウィンをテーマにしたゲームの運営などを担当しました。

また、本プログラムに参加した学生からは、「今回のボランティアでは、多くの子供たちと関わることができて楽しかった。職員の方々に、親切に対応していただき感動した。」などと、運営側の立場の視点からのリアクションもありました。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、本学学生に活躍の場を提供するため、地域貢献活動の重要性に気づいてもらうために今後もこのような企画を行っていきます。

参加者数 24名 (児童、保護者含む総参加者数600名)



受付の様子



児童文化研究会巨大紙芝居「おおきなかぶ」



アリーナでのゲームコーナー



マジシャンズクラブ



アカデミー合唱団



活動前の真剣な打ち合わせ

35. Meal for Refugees

～おいしい国際協力ははじめませんか～

日時

2017年11月6日(月)～11月10日(金)
11月10日(金) M4R 講義 (526 会議室)

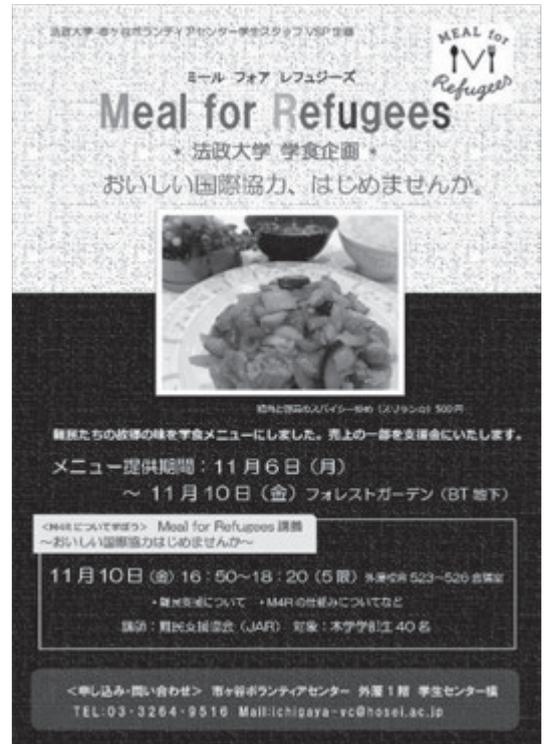
場所

BT 地下1階フォレストガーデン

概要

11/6(月)～11/10(金)の期間、市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー地下1階フォレストガーデンで、ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)と難民支援協会(JAR)と学食を運営している東京ケイタリングが協力して、「Meal for Refugees ～おいしい国際協力ははじめませんか～」を実施しました。

Meal for Refugees は難民の方たちの郷土料理を学食メニューに採用し、「食」を通じて多くの学生に難民について学びきっかけにしていく、売り上げの一部を寄付金にすることによりおいしく食べながら実質的な支援を行う企画です。



メニューは定食形式で、スリランカ料理の「鶏肉と野菜のスパイシー炒め」を500円で販売し、内50円を寄付金にしました。実施期間中の食券は手売りで行い、広報を積極的に行いました。学生にとってはやや高い500円という値段設定にもかかわらず、販売食数は当初の目標を大きく上回る「336食」となり、とても嬉しく思っています。

中には3回も購入してくださった方もおり、大盛況の内に終わることができました。寄付金は16,800円で、難民支援協会を通じ、日本に逃れてきた難民への支援活動に活用されます。

またメニュー提供最終日には難民の現状について、難民支援協会(JAR)の野津美由紀様にご講演頂き、22名の学生が参加しました。難民の疑似体験をするワークショップも行われ、難民の人たちが置かれている状況の深刻さを感じ、改めて、難民問題は多くの人に関心を持ち、解決すべき社会課題であると思えました。

メモを一生懸命とっている参加者が多く、講義後は講師の方への質問が絶えませんでした。参加者の関心の高さがうかがえ、本企画を実施する意義があったと感じられた瞬間でした。

<企画学生メンバー>

文学部英文学科3年 植原里佳

国際文化学部国際文化学科4年 村上奈緒

経営学部経営学科2年 小島日菜子

経営学部経営学科1年 菅結菜

法学部国際政治学科1年 中村ひなた

参加者数

336食 (Meal for Refugees フォレストガーデン)

22名 (Meal for Refugees 講義)



スリランカ料理の鶏肉と野菜のスパイシー炒め



ポスターとポップを作製してPR活動



食券を手売りで販売



難民の疑似体験をするワークショップを開催

36. サクラテラス調査隊

～バリアフリー情報アプリで地域貢献ボランティア～

日時 2017年11月15日(水)

場所 飯田橋サクラテラス

概要

2017年11月15日に「サクラテラス調査隊～バリアフリー情報アプリで地域貢献ボランティア～」を市ヶ谷ボランティアセンターで実施し、9人の学生が参加しました。

障がい者や高齢者、ベビーカー利用者、外国人などの多様なユーザーが外出時に必要とする商業施設のバリアフリー情報を共有できるスマホ向けアプリが東京2020を見据え活発に開発されています。

今回は、近隣の商業施設であるサクラテラスと、東京2020に向けたスマホ向けバリアフリー情報アプリ「Bmaps」を開発した株式会社ミライロと連携し、サクラテラスの店舗のバリアフリー情報を収集するイベントを開催いたしました。



当日は、株式会社ミライロより、バリアフリー情報を共有化することの重要性や東京2020に向けた取り組みについて30分ほど講義をしていただきました。

その後場所をサクラテラスに移動し、学生たちは各店舗を周り、フラットであるか、車いすが通れる広さが確保されているか、静かであるか、オストメイト対応トイレであるか、補助犬に対応しているかなどの19項目にわたるバリアフリー情報を収集し、スマホアプリを用いて登録していきました。

その後市ヶ谷キャンパスに戻り、振り返りを実施しました。

参加した学生からは、「バリアフリー対応しているかどうかの視点で施設を見ることができ、補助犬マークなどの普段気に留めない情報について意識することができ大変有意義だった。」「バリアフリー情報を収集する際に、各店舗の方が丁寧に店舗を案内してくれ、地域の方々交流することに喜びを感じた。」などの意見がありました。

今後も市ヶ谷ボランティアセンターでは、東京2020を見据えた学生たちの、バリアフリーに関する意識を高めるプログラムを実施していきます。

参加者数 9名



サクラテラスのトイレの設備を確認する



店舗のバリアフリー情報を調べアプリに入力する



サクラテラスにて店内のバリアフリー情報を聞き取り調査



振り返りで各班より感想を発表

37. みんなで遊ぼう！ 子ども食堂ボランティア(ボッチャ編)

日時 2017年11月18日(土)

場所 高円寺子ども食堂

概要

11月18日(土)、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)がみんなで遊ぼう！子ども食堂ボランティアを実施し、6名の学生が参加しました。

「子ども食堂」とは、何らかの家庭事情から、満足に食事を満足にとれなかったり、孤食になってしまったりする子ども達に、温かい食事と居場所を提供することを目的に始められたとりくみです。

ボランティアは高円寺子ども食堂にうかがい、この活動をお手伝いすること、子どもたちに楽しんでもらうこと、そして児童教育支援に興味のある学生たちに、将来の進路を考えるきっかけや、将来に役立つ経験を提供することを目的とし実施しました。

今回は子どもたちが誰もが楽しめるユニバーサルスポーツである「ボッチャ」をゲーム形式で行いました。未就学児から小学校低学年の子どもがほとんどで、計20名ほど参加していましたが、年齢、性別を問わず、またお互い初対面であっても自然とチームを作り、一緒に楽しんでおり、順番待ちの列ができるほど大変盛り上がりしました。

参加学生は、ゲームの説明をしたり、審判をしたりしての場を一層盛り上げました。

ボッチャだけでなく、折り紙やけん玉などの遊びでも子ども達を楽しませました。それぞれの学生が、笑顔で積極的に子ども達と接したため、会場は子ども達の元気な声であふれました。また、受付をしたり、子ども達が食事を食べた後の食器を洗ったりと、様々なお手伝いもしました。

今回のボランティアは、子ども食堂の活動支援という社会的に意味のある活動となったのと同時に、学生達にとっても非常に有意義な体験となりました。このようなボランティアを今後も企画していきます。



ボランティアセンター学生スタッフ
人間環境学部人間環境学科 1年岡部 琴美

参加者数 6名 (ボッチャ参加者数 約20名)



子どもたちに本の読みきかえやけん玉を教える



子どもたちにポッチャを教える



子どもたちが食事をした後食器をあらう



受付のお手伝い

38. 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座②

日時 2017年11月18日(土)

場所 55年館574会議室

概要

市ヶ谷ボランティアセンターと東京都が共同で、11月18日に「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座を実施し、54名の学生が参加しました。

東京都と法政大学は、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、外国人観光客等が安心して東京に滞在できる環境を整えるため、本講座を実施しており今回は本年度2回目の実施となります。

東京都が単独で実施している本講座の受講者は、40代、50代、60代の方が多く、大学と東京都が共同で実施することによって、10代、20代の参加も促せるのではないかと思います。東京都と協定を締結し本講座を実施いたしました。また、東京都が単独で実施している本講座の抽選倍率は20倍～30倍であるため、共同で実施することによって本学学生が優先的に受講する場を提供することができました。

当日は、台東区谷中にある「澤の屋」という旅館を紹介した動画を見た後に、おもてなしに関する基礎知識としてコミュニケーション力と問題解決、ボランティアスピリッツについて学びました。講師の話を一方的に聴講する講座ではなく、グループワークやペアワーク通して、参加者が発表する形式であったため、全員が積極的に参加することができ、非常に満足度の高い講座となりました。最後に、この講座の参加者全員で「おもてなし5箇条」を作成し、ボランティアスピリッツを共有しました。

講座終了後に登録証とバッジが配布され、法政大学から54名の「外国人おもてなし語学ボランティア」を輩出することができました。

ボランティアセンターでは今後もこのような講座を実施していきます。

参加者数 54名



カードに書かれた情報を相手にジェスチャーだけで伝える



外国人観光客に神社での手の清め方を説明する

●東京都・法政大学共同実施

2020年に向けた地域をあげてのおもてなし

外国人おもてなし
語学ボランティア育成講座

東京都の
外国人おもてなし
語学ボランティア
として登録されます。

2017年11月18日(土) 14:00~17:30
55年館574教室
定員60名

途中で退いている外国人もみかいたら戻して来てね、
教室内の準備はできるボランティア、
満員です(外国人おもてなし語学ボランティア)として登録されます。

お問い合わせ・申し込み
法政大学市ヶ谷ボランティアセンター
e-mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp
http://www.hosei.ac.jp/volunteer/
TEL: 03-3264-9516

39. お昼ごはん、東北へ出かけませんか？ ～東北復興支援メニュー～

日時 2017年11月20日(月)
～11月24日(金)

場所 富士見坂食堂(市ヶ谷)・
東館食堂(小金井)・6号館食堂(多摩)

概要
ボランティアセンターの学生スタッフであるチーム・オレンジが、法政大学生生活協同組合に協力を頂き11月20日(月)～11月24日(金)の期間、富士見坂校舎食堂(市ヶ谷)、東館食堂(小金井)、6号館食堂(多摩)の3キャンパス同時開催で東北復興支援メニューを提供しました。

身近な学食と連携し、東北にちなんだ料理を提供し、実際に味わってもらうことで、日常生活の中で震災についてもう一度考えるきっかけを作ること、被災地の復興支援に少しでも興味関心を持ってもらいたいという思いで企画をしました。



チーム・オレンジのメンバーは生協とミーティングや試食会を実施して「十和田バラ焼き丼(青森県)」410円、「芋煮うどん(山形)」432円の2種類のメニューを考案しました。どちらも好評で、市ヶ谷キャンパスではこれらのメニューを期間中に461名の方々に購入していただきました。

今後もボランティアセンターでは震災の風化防止の一助となるような取り組みを行っていきます。

参加者数 461食(市ヶ谷キャンパス)



試食会を実施しメニューの検討をおこなう



十和田バラ焼き丼



期間中にビラを配布し広報活動をおこなう



芋煮うどん

40. 富士山清掃ボランティアツアー

日時 2017年11月26日(日)

場所 富士山麓

概要

11月26日(日)、市ヶ谷ボランティアセンター主催で、「NPO法人・富士山クラブ」のご指導のもと、学生39名で『富士山清掃ボランティアツアー』を実施しました。

富士山まではバスで移動し、車内では参加者全員によるビンゴゲームやチーム戦でのクイズ大会など、ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)を中心としたレクリエーションをみんなで楽しみ、参加者同士の交流を深めました。

到着後、始めに「NPO法人・富士山クラブ」指導のもと富士の樹海にてトレッキングを行いました。参加者を3班に別け、それぞれのグループに各一人ずつ指導者がつき、富士の樹海について詳しく説明していただきました。風穴や磁石につく石、樹海に生息

している動植物の生態系など富士山固有の様々な知識を身に着けることができました。トレッキング後、道の駅近くにある広場で富士山をバックにみんなで美味しい昼食をいただきました。

午後は今回の一番の目的である清掃活動を行いました。清掃場所は一般道から少し離れた場所にあり、そこには電化製品の一部や大きな布、木材、ガラスなど、小さなごみから巨大な不法投棄品が山積みになっていました。ごみ集め、がれきの撤去を行い、大量のごみを廃棄することができました。参加者全員が黙々と作業をしており、数時間あった時間がわずかに感じられました。

活動後は5~6人程度で各班にわかれ、今回の清掃活動をしての感想や今後のごみ問題についてなど意見を出し合い、最後には参加者全員の前で自分達の考えたアイデアや想いを発表しました。富士山清掃活動日を増やす、SNSで情報を発信するなど数多くの意見を共有することができ充実した内容になりました。

帰りの車内では今日初めてあった参加者同士がお喋りで盛り上がっていたり、自分のお菓子をみんな振る舞ってあげたりなど、今回の活動を踏まえて新しい交流が増えました。

<参加学生の感想>

実施当日は天気に恵まれ、これまでの富士山清掃ボランティアのなかで一番キレイに富士山が見えていました。普段の学生生活には無い、富士の樹海の散策や富士山バックにお昼ご飯などは特別な時間になりました。清掃活動では、世界遺産である富士山のあまりのごみの量に、驚きを隠せませんでした。これからさらにキレイになってほしいです。また今回は参加学生内での交流が多く、初めて会った人同士でも仲良くお喋りしており、終わりに近づくにつれ仲が深まっていきました。活動終了後も学校内であいさつをし合う仲間もできて楽しかったです。今回参加して、「楽しかったー」では終わらせず、次につながるアクションを私達一人ひとりがしていく必要があるのではないかと思います。

法政大学ボランティアセンター学生スタッフ VSP 法学部政治学科1年 藤山 雄多

10月のプログラムの再募集!

日程	11月26日(日)	参加費	2,000円 (正統券売場で購入)
スケジュール	7:30 市ヶ谷キャンパス 7:45 市ヶ谷キャンパス 10:15 富士山クラブ・NPO法人の学校到着 10:40 大雪山山頂上トレッキング(富士山麓入り) 12:30 昼食 13:40 清掃活動 15:50 散り歩き 16:50 山頂 20:30 市ヶ谷キャンパス到着予定	活動場所	富士山麓
募集対象	本学学部生	募集人数	追加募集9名
申込締切	11月20日(月)	申込方法	下記窓口にて申込書記入

お申込・お問い合わせ先 ichigaya-vc@hosei.ac.jp

市ヶ谷ボランティアセンター 03-3264-9516 | 多摩ボランティアセンター 042-783-2073 | 小倉山自然保護隊 042-387-6041



到着後今日の活動について説明を受ける学生



富士の樹海の溶岩についてお話を聞く



不法投棄されたごみを協力して分別する



集めたごみを掲げる学生



集合写真



トレッキングと清掃活動を実施した感想を各班発表

41. 日本橋発！ ボートで行く水の街 東京清掃ボランティア

日時 2017年12月3日(日)

場所 東京湾護岸

概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフが『日本橋発！ボートで行く水の街東京清掃ボランティア』を実施しました。

12月3日(日)、市ヶ谷ボランティアセンターでは、ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)による企画で、『日本橋発！ボートで行く水の街東京清掃ボランティア』を実施し、20名の学生が参加しました。

東京は多くの水路や運河を所有する水の都です。今回はボートに乗り、東京の水路や運河の見学や清掃活動を通して大都市東京でみおとしがちな自然保護の重要性を感じてもらうため運河の護岸で清掃活動を行いました。



当日は、日本橋下の栈橋からボートに乗り込み、今回の活動に協力してくれたNPO法人遊んで学ぶ自然倶楽部の方に東京の水路についての解説をしていただきました。その後、清掃活動場所の護岸に到着すると、多くのごみが落ちており、ペットボトルや発泡スチロール、ビン類、衣服類、ボールなどの多種多様なたくさんのごみを2時間程度、参加者全員で回収しました。

参加した学生からは、大量のごみが流れ着いていることを目の当たりして、私たちが意識していないところにも改善すべき問題が存在していることを痛感しました。今回の経験を活かし、環境について考え、視野を広げていきたいなどの感想がありました。

東京臨海部の雄大な風景に注目がいき、ごみの存在に気が付かない人はたくさんいると思います。しかし、東京の護岸には今もなお確実にごみが蓄積しており、それがボランティアの力によって処理され東京の水辺の美しさが維持されているということを今回のボランティアを通して参加者に理解して頂くことができました。

参加者数

20名



ボートから大都市東京の水路を眺める



ボートの中で活動の注意事項について説明を受ける



護岸に漂着したごみを拾う



拾ったごみを集める



東京湾をボートで巡航する



集合写真

42. 食べ物の銀行「フードバンク」

日時 2017年12月9日(土)

場所 千代田区麹町区民館
一番町集会室

概要

市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が「食べ物の銀行・フードバンク」を実施しました。

12月9日(土)、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が特定非営利活動法人セカンドハーベスト・ジャパンの協力のもと、「食べ物の銀行・フードバンク」を実施しました。

現在日本は食料自給率が低く、年間5500トンと多くの食料を輸入に頼る一方で、1800万トンもの食料を廃棄しています。このような食品ロスを解決する手段として「フードバンク」という取り組みがあります。

フードバンクとは、包装の印字ミスや賞味期限が近いなどの品質には問題なくても通常の販売が困難な食品を、食品メーカーや農家、個人から引き取るなどして、福祉施設等へ無償提供する取り組みのことです。

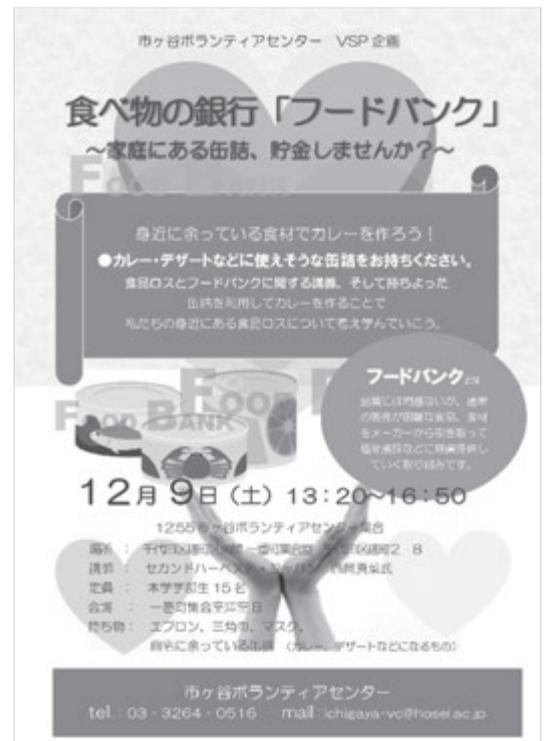
今回の企画はこのような食品ロスやフードバンクについて考え学ぶ機会にすることを目的とし実施しました。当日は初めにセカンドハーベスト・ジャパンより、食品ロスや貧困、フードバンクの取り組みの様子などを、映像を交えてお話いただきました。その間参加者は熱心にメモを取っており関心の高さが伺えました。その後参加者が自宅から持ち寄った持て余した缶詰を利用し、カレー作りを行い、余った食材でも活用の仕方次第で家庭でも食品ロスの対策が出来ることを和やかな雰囲気の中で学ぶことができました。

参加した学生からは「勉強になった。満足した内容だった」と好評で、フードバンクへの理解も深まり食品ロスに対する意識が向上したようです。

〈企画者感想〉

- 日本でも広がりつつあるフードバンク。日本では6人に1人が社会生活の中で十分に栄養のある食べ物が得られない状態にあり、それに対して日本では家庭内だけでも年間600万トン以上の食品が捨てられています。それは日本人全員が毎日お茶碗一杯分の食べ物を捨てていることとなります。今回私この現実を知ってもらいたくてこの企画を実施しました。講義のなかでは自分達が持ってきた缶詰の説明や日本で起こっている食品ロスや貧困問題など興味深い内容を説明してもらいました。海外ではボランティアと言ったら、フードバンク!という話をきいて日本でもこれから更に多くの人に認知してもらえると感じました。みんなで行ったカレー作りは、これまで食べたことのない美味しいカレーができ上がりました。家庭から持ってきた缶詰でもこうやって美味しく食べることができるのだと実感することができました。今後もさらにフードバンクを広める活動を続けていきます。

法学部政治学科1年 藤山雄多



・飲食店、スーパーなどで大量に廃棄される食品を見て、「もったいない」と感じる人は多いのではないのでしょうか。今回の企画がきっかけでフードバンクを知り、「もったいない」と感じながらも食品を廃棄している側と、食べ物が必要とし受け取る側の双方の困りごとを解決できる点に大きな魅力を感じました。

今回の講義の中で、国際的に日本はフードバンクの数が圧倒的に少ないこと、そして認知されていないとお聞きしました。誰もが生きるうえで必要不可欠な「食事」に困ることがないように、更に多くの人にフードバンクについて知って頂きたいです。

キャリアデザイン学部2年 赤羽七美

・私たちは、当イベントを学習の場という面と交流の場という面の2つの側面を持ったイベントとすることを目標としておりました。当イベント終了後に、参加者の皆様から「勉強になった。」、「楽しかった。」、「みんなと仲良くなれてよかった。」、「このイベントを企画してくれてありがとう。」等の感想を頂きました。それらの感想から、私たちの目標を達成することができたのだと実感し、当イベントを企画してよかったと心から思いました。

メンバーの皆、法政大学ボランティアセンターの職員の皆様、講師を引き受けてくださったセカンドハーベスト・ジャパンのスタッフの皆様、参加者の皆様と共に、当イベントを実施できたことを非常に嬉しく思います。

法学部法律学科3年 梅崎大樹

参加者数

10名



講師より日本の食品ロスの現状についてお話いただく



家にあった余った缶詰を使ってカレーづくり



作ったカレーをみんなで食べ食品ロスについて語る



美味しいカレーが出来きたので、2杯目を食べる

43. 銀座の蜜蜂から知る大都市東京の自然

日時	2017年12月10日(日)
場所	銀座パルプ会館 フェニックスプラザ (中央区)
概要	

12月10日(日)、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ(以下VSP)が「銀座の蜜蜂から知る大都市東京の自然」を実施し、7名の学生が参加しました。

NPO 法人銀座ミツバチプロジェクトは銀座の屋上で養蜂を行い、東京における自然環境との共生や地域活性、全国の農家の支援を目的にマルシェ(物販販売)のサポートを行う「ファームエイド銀座」を開催しています。

プログラムを企画したボランティア学生スタッフは、夏前から主催の銀座ミツバチプロジェクトに直接連絡をし、授業の合間をぬって活動の内容やスケジュールなどについて打ち合わせを重ねました。今回はその「ファームエイド銀座」のイベントボランティアとして活動させていただきました。

ミツバチ見学会では、実際にビルの屋上に行き、銀座ミツバチプロジェクト代表の田中さんから、蜜蜂が飛び交う中、ミツバチは環境指標の生物であることや、銀座からのビジネスの広がりなどの話を聞くことができました。参加者からは「銀座のビルの屋上に巣箱だけが置かれ、飼育されている様子は意外で驚いた」という意見もありました。田中さんへの質問も多く、参加者の高い関心がうかがえました。

当日は法政大学だけでなく立正大学や千葉商科大学の学生ボランティアが30名ほど参加し、他大学交流ができ、協力して活動ができ貴重な経験となりました。

<学生の感想>

このボランティアでは銀座の屋上でミツバチがなぜ飼育され、どのような役割を果たしているのかを詳しく調べ、都市と自然環境の共生を理解することができました。普段は意識しない観点から銀座を見たことで銀座への見る目が変わりました。都会の真ん中の銀座も「一地域」であるということを実感しました。

また、商品販売を通じ、その地域の特産物や地域性、伝統なども学ぶことができ、とても有意義な経験ができました。ただ、マルシェ(物販販売)でのボランティア時間が長く、銀座の自然環境とミツバチの生態などを学ぶ時間を十分に確保できなかったのは少し残念でした。

法学部 政治学科1年 土佐佳史

日本全国から多くの方が来ており、銀座ミツバチに関する事以外にも様々な食品などを売り出すためのマネジメント等について多くのことを知ることができ、私の専攻している植物医科学分野に関わることも多かったため自分の視野を大いに広げることができました。

生命科学部 応用植物3年 志賀 大地

銀座ボランティアセンター VSP主催

銀座のみつばちから知る 大都市東京の自然

～都会のビルの屋上でミツバチが飼育されているって知っていますか?～

都市の植物の多様性を維持し、豊かで安定した生態系を構築するために
都会のビルの上でミツバチを飼育する取り組みが行われています。
今回はこの取り組みを支援するためのイベントボランティアを募集します。

12月10日(日) 8:15~18:30

集合 8:15 フェニックスプラザロビー前
場所 銀座パルプ会館フェニックスプラザ
(中央区銀座3-9-11)
概要: マルシェでの活動サポート、会場設営、来場者の誘導など
※募集は定員までとなります。

ボランティア参加者の特典

- ・銀座のビルの上で飼育されているミツバチの見学会
- ・ミツバチに関するフォーラムへの参加 などがあります。

定員: 10名
イベント主催: ファームエイド銀座実行委員会

申し込み・問い合わせ
市ヶ谷ボランティアセンター
tel. 03-3264-9516 Mail. ichigaya_vc@hosel.ac.jp

市ヶ谷ボランティアセンター、VSP 学生スタッフは、今後もこのような学生が自ら発案、企画、実施するボランティア活動を継続していきます。

参加者数

7名



ファームエイドの準備



屋上でミツバチの説明を聞く



地域の物産の販売を手伝う 1



銀座のビルの屋上で飼育されているミツバチ



地域の物産の販売を手伝う 2



集合写真

44. 福島被災地スタディツアー

日時 2017年12月10日(日)

場所 福島県いわき市、浪江町

概要

市ヶ谷ボランティアセンター主催で、12月10日(日)、「福島スタディツアー」を実施し、40名の学生が参加しました。本企画は、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ「チーム・オレンジ」が企画し、各種手配、広報、当日の運営を行いました。被災地に初めて訪れる学生を主なターゲットとし、福島県の被災状況や復興に向けた取り組みを学ぶことを目的としたツアーを企画しました。

当日は、市ヶ谷キャンパスから貸切りバスでアクアマリン福島に向けて出発しました。

アクアマリン福島では、震災当時の様子や施設の被害状況について映像を通して学ばせていただくと共に、どのように復興・営業再開に向かっていったのかということについてもお話いただきました。

その後、営業を再開した水族館を見学し、東北の魅力の詰まった物産センターで各自昼食、買い物を楽しみました。

浪江町では、「浪江まち物語つたえ隊」の皆さんと町の職員の方にご協力を頂いて、未だ震災の爪痕が残る浪江町内の視察を行いました。その後震災当時の小学校を舞台にした紙芝居を視聴させていただき、最後に浪江町の魅力と復興への歩みについてお話をいただきました。

現地での視察、講話、食事を通して震災の記憶を共有し、風化防止、防災意識の向上に結びつけることができました。また、このプロジェクトを通じて「チーム・オレンジ」の学生スタッフは、企画書作成、準備、当日の運営などのプログラムの一連の流れを学ぶことができました。

今後も市ヶ谷ボランティアセンターでは、震災の風化防止・防災啓発につながるプログラムを実施していきます。

<ルート(日帰り)>

法政大学出発→アクアマリン福島(講話・見学)→ら・らミュウ(昼食・買い物)→浪江町(町内視察・講話)
→法政大学到着

<参加学生の感想>

実際に被災地を自分の目でみるのは今回で初めてでした。浪江町の様子が特に印象に残っています。4月に避難指示解除準備区域除染が解除され復興したかのように報道されていますが、人が全く戻ってこない現状を目の当たりにして愕然としました。

被災地の現状を私たちが伝えていければなと思いました。自分が被災地のためにやれることをやっていきたいです。

法政大学ボランティアセンター主催「チーム・オレンジ」企画

福島被災地スタディツアー

法政大学ボランティアセンター主催「チーム・オレンジ」企画

実施日: 2017年12月10日(日)

募集対象: 本学学生 40名
参加費用: 2,000円(申込月曜に追加参加費)
申込締切: 12月1日(金)

※定員に達し次第、締め切らせていただきます。
申込方法: (市ヶ谷型) 市ヶ谷ボランティアセンターにて申込書に記入
(いわき・多摩型) メールまたは電話にてお申し込み

～福島のことを体感しよう～

スケジュール	
07:30	法政大学市ヶ谷キャンパス新見附校舎前集合
07:45	法政大学発
11:00	アクアマリンふくしま着ら・らミュウ・ガイダンス
12:45	アクアマリンふくしま発
13:00	いわき・ら・ら・ミュウ着ー5分後昼食・お土産購入
14:00	いわき・ら・ら・ミュウ発
15:00	浪江町着ー視察・勉強会
18:00	浪江町発
22:00	法政大学着 解散

●お申し込み・お問合せ
市ヶ谷ボランティアセンター(外濠校舎1階 学生センター隣)
TEL: 03-3264-9516 E-mail: ichigaya-vc@hosel.ac.jp

参加者数

40名



アクアマリン福島のリオープンまでの流れを聞く



震災時の話を聞いたあとアクアマリン福島の施設見学



浪江町の慰霊碑の前で震災時の話をきく



地震の影響で中央分離帯のずれがまだに復旧されず(浪江町)



浪江まち物語つたえ隊より震災当時の小学校を舞台にした紙芝居



檜葉町役場の職員さんに復興の状況の説明を受ける

45. 子どもたちに素敵なクリスマスを 子ども食堂ボランティア（クリスマス編）

日時 2017年12月16日（土）

概要 高円寺子ども食堂

場所

12月16日（土）に、市ヶ谷ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）が「子どもたちに素敵なクリスマスを～子ども食堂ボランティア～」を行い、9名の学生が参加しました。

「子ども食堂」とは、何らかの家庭事情から満足に食事を満足に摂れなかったり、孤食になってしまったりする子どもたちに、温かい食事と居場所を提供することを目的に、始められたとりくみです。

今回のボランティアは高円寺子ども食堂におうかがいして、この活動をお手伝いすること、子どもたちに楽しんでもらうこと、そして児童教育支援に興味のある学生たちに、将来の進路を考えるきっかけや、将来に役立つ経験を提供することを目的とし実施しました。

11月18日にもボランティアを実施し、今年度2回目となる今回は、食事の準備・受付・子ども達との交流などの子ども食堂のお手伝いに加えて、参加者である本学の学生にピアノの演奏と歌唱をしていただきました。クリスマス会に合わせた、クリスマスソングから演歌まで様々なジャンルの曲を演奏し、幅広い年代の方に楽しんでいただきました。当日は、過去最多の70名を超える来場者が訪れにぎやかな会となりました。

参加者からは、「こどもの笑顔に癒された。また、参加したい。大学生にも協力できる場面が沢山あると気づかされた。」という声が聞かれました。学生にとって子ども食堂について考える良い機会になっただけでなく、年の近い大学生と交流できたことで、子ども達にも喜んでいただけたと思います。



ボランティアセンター学生スタッフ（VSP）

キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科 2年 中野実織

参加者数 9名



参加者で調理の手伝いをする



こどもたちのためにクリスマスソングを熱唱



本の読み聞かせをする



こどもたちのためにピアノでクリスマスソングを演奏

46. 「一風堂×チーム・オレンジコラボ企画」 たのしくまなぶ餃子づくりと防災

日時

2017年12月7日(土)

概要

富士見わんぱくひろば(千代田区)

場所

2月17日(日)、千代田区富士見わんぱくひろば(児童館)で大学近隣に住んでいるこどもたちのために、博多とんこつラーメン店の一風堂とボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが協力して「たのしくまなぶラーメン・餃子づくりと防災」を実施し、28名が参加しました。

東日本大震災の復興支援に取り組んでいるチーム・オレンジは、2017年7月に発生した九州北部豪雨の支援をするため、法政大学近隣の商業施設であるサクラテラスに店舗を構える博多とんこつラーメン店の一風堂に協力をお願いし、9月17日に開催された法政フェアで一風堂の商品を販売し、利益を義援金に寄付しました。

http://www.hosei.ac.jp/volunteer/NEWS/event/171016_03.html

一風堂×法政大学チーム・オレンジ コラボ企画

たのしくまなぶ
ラーメン・餃子
づくりと防災

2/17(土)
10:00~14:00
富士見小学校家庭科室&
ランチルーム

ラーメン屋の一風堂と、東北復興支援活動や
防災啓発をしている法政大学チーム・オレンジが
食育や防災啓発を行います。

餃子づくり体験(一風堂)
防災啓発(チーム・オレンジ)
-防災カルタ・クイズなど
・定員:子ども32名 先着順の申込み
※ 保護者は見学のみの参加となります
※ 3年生以下は保護者同伴必須です
・持ち物:エプロン、三角巾、ハンドタオル、
すいとう、はし、マスク

申込み・お問合せ
富士見わんぱくひろば 5階受付または電話でお申込み下さい
TEL: 03-3263-1185 (代通申込みはご遠慮下さい)

この取り組みを通して良好な関係が構築されたため、一風堂とチーム・オレンジで何か地域のためにできることを検討しました。

検討した結果、一風堂が、正しい食のあり方を見つめ、食を通じたコミュニケーションの重要性を地域のこどもたちに伝えるために「ラーメン・餃子づくりを」実施し、チーム・オレンジが楽しみながら防災の知識を学んでもらうために「防災カルタ、防災クイズ」を実施しました。

当日は、チーム・オレンジの学生もこどもたちに餃子づくりを教えるために、一風堂の方々から、餃子の皮の作り方などを教えていただきました。

まず、こどもたちと一緒に、ボウルに小麦を入れ練るところから始まり、皮を成形し、餡をいれました。一様にきれいな餃子を作ることができませんでしたが、みんなで協力しながら作る楽しさを感じてもらえたようです。その後でき上がった餃子を焼き、参加したメンバー全員で餃子を食べました。また、チーム・オレンジの学生がこどもたちのために、一風堂の方が作ってくれたラーメンに、子供たちから好みを聞き、具をのせたり、配膳を補助することによって、こどもたちにできたての博多とんこつラーメンを食べてもらうことができました。

参加者全員で片づけをした後、場所を移動しチーム・オレンジの学生が自作した防災カルタをやりました。自作したカルタは、あえて頭文字を載せず絵のみが記載されており、読み手が読み上げた内容を理解しないとカルタをとれないように工夫してあります。また、読み上げる内容は防災に関する豆知識であり、楽しみながら、防災の知識を学べるカルタです。

そのためこどもたちはカルタが終了したときには、読み上げていた内容をいくつか覚えてくれ、防災に関する知

識が向上したようです。さらにその後、防災クイズも実施し、大変盛り上がりました。

市ヶ谷ボランティアセンターでは、本学学生に活躍の場を提供するため、地域貢献の重要性に気づいてもらうため、今後もこのような企画を行っていきます。

<企画学生の感想>

こどもたちの防災について考えるきっかけに少しでもなれば良いなと思い、法政フェアでもお世話になった一風堂様の食育活動とコラボして、防災カルタとクイズを実施しました。

このような活動をこどもたちに向けて行うのは初めてで興味を持ってくれるか当初は不安でしたが、元気よく積極的に参加してくれたのでとても驚きましたし、学生に向けて行う時よりも反応が良かったので楽しく活動ができました。今回だけに限らず、今回の反省も活かしてこどもたちに向けてまたこのような活動をしていきたいと思えます。

法政大学 法学部 2年 岩城優大

参加者数

28名



こどもたちと餃子の皮をつくる学生



餃子に餡をつめる



一風堂の方が作ったラーメンを子供たちのために配膳する



こどもたちに好みを聞きラーメンに具を載せる

47. 東京メトロ飯田橋駅ボランティア活動報告会

日時 2017年2月27日(火)

場所 富士見坂校舎309

概要

2月27日法政大学市ヶ谷キャンパス富士見坂校舎309教室にて、東京メトロ飯田橋駅ボランティアの活動報告会が行われました。報告会には本学学生を始め東京メトロの社員、日本盲人会連合、日本ケアフィット共育機構や千代田区の職員等、32名が出席しました。

報告会は法政大学ボランティアセンター長の内山政春教授(国際文化学部)の挨拶に始まり、ボランティアに参加した学生による活動報告、ボランティア新聞発行の報告、参加回数の多い学生に対する表彰が行われ、最後に東京メトロより総評をいただきました。

最初の挨拶の中で内山教授は飯田橋駅学生ボランティア活動について「地域に密着した継続的な活動」と語り、報告会に参加した学生を激励しました。学生による活動報告では6月に行われた研修会や実際の活動、参加学生に対するアンケート結果についてプレゼンテーションを行い、報告の中で研修会と実際の活動とのギャップについての報告やアンケート調査をもとにしたボランティア活動の実情、今後の活動に関する改善案が提案されました。出席者からは学生に対してだけでなく、同じく出席していた東京メトロへの質問も行われ、法政大学だけでなく千代田区全体の社会福祉活動について考えさせられる内容でした。そのあとの表彰では最も参加した回数の多かった楠山氏(文学部哲学科3年)を始め6名が表彰され、東京メトロのから記念品が手渡されました。東京メトロからの総評では、「活動を始めた当初ではいい意味でこのような活動ができるとは思っていませんでした」と述べ、ただ単にボランティア活動としてではなく、学生たちの成長についても考えさせられたと総評を締めました。今後もこのボランティア活動は継続的に実施されるので、興味のある学生はボランティアセンターまでお越しください。

文学部地理学科1年 西森 知弘

[東京メトロボランティア感想]

今回東京メトロボランティアの報告会を行って、より自分自身のボランティアに関する関心が高まったと思います。企画を聞いた当初は本当にできるのか、うまくいくのかと不安な面は多々ありました。しかし現在3年生の先輩方が引っ張って下さり無事に成功することができました。また当日は様々な職種の方や学生、法政大学関係者が来てくださり、とても良い報告会になったと思います。今回の報告会によって、このボランティアの改善点や問題点などを様々な方に知って頂いたため、来年度は今回報告会で行った改善点を実際に実現していけるように活動していきたいと思います。また私たち学生が駅員さんたちとは違う目線を持ち何ができるのか、どのようなことが必要なのかということを中心に活動していきます。

法学部政治学科2年 浮池 杜弥



初めは鉄道に興味があるという名目で参加したが、結果的に感謝状を貰えるとは思っていませんでした。大学と鉄道会社の初の試みを学生主体で活動していくので、手探りの中で不安もたくさんありました。しかし、参加メンバー一人ひとりが強い意志を持って目の前の課題に率先して取り組み、実を結んだことは大きな自信に繋がりました。そして私自身もこの活動を通して人と接することの大切さを肌身で感じました。まだ始まったばかりの企画ですが、どんどん後輩たちに参加してもらい、ボランティア活動の楽しさを感じてほしいです。

経済学部経済学科3年 麻生玲央

飯田橋駅でのボランティア活動を始めたときはこのような報告会を開くとは夢にも思いませんでしたし、うまくいか不安でもありましたが、無事に報告会を終えることが出来ました。報告会を通して多くの方にこのボランティア活動について様々な角度から知っていただけたこと、また私たち自身も今後に向けての課題を共有できてよかったと思います。最近では駅構内の安全強化のためホームドアの設置をはじめとするハード面の強化が行われています。その一方で、ソフト面の強化として私たちの活動をより活発にしていかなければなりません。より安心して駅をご利用いただけるよう、今後も「自分たちは何ができるか」を念頭に活動していきます

理工学部 電気電子工学科2年 岩本哲弥

参加者数 32名



今後の活動に関する改善案を提案する学生



参加した回数が多かった学生に感謝状の授与



発表学生と関係者の集合写真



学生が作成したボランティア新聞

48. 岩手・宮城被災地スタディツアー

日時 2018年3月1日(木)～3月4日(日)

場所 岩手県 釜石市、大船渡市、宮古市、
陸前高田市、宮城県 気仙沼市

概要

市ヶ谷ボランティアセンター主催で、岩手・宮城被災地スタディツアーを3月1日(木)～4日(日)の期間で実施し、29名の学生が参加しました。

スタディツアーという形態で参加へのハードルを下げ、まだ被災地を訪れたことがない学生が足を運ぶことを目的に実施しました。

本企画はボランティアセンター学生スタッフチーム・オレンジが企画し、各種手配や当日の運営を行いました。

また、実施にあたり2月23日(金)に事前説明会を行いました。

岩手・宮城
被災地スタディツアー
～被災地の今を体感しよう～
実施日 2018年3月1日(木)～3月4日(日)
募集人数 30名
参加費用 15,000円(申込用紙に経路貼付米票等は自己負担になります。)
申込締切 2月22日(金) 17:00まで 非売品類です
申込方法 (市ヶ谷生)市ヶ谷ボランティアセンターにて申込書を記入
(多摩・小倉生)メールまたは電話にてお問合せ
事前説明会 2月23日(金) 12:40～ 外環校舎5階 523～526

1日目(3月1日)
釜石市に集合
釜石 釜石港または気仙沼ライナーで出発

2日目(3月2日)
釜石・大船渡
アイズフレイク
釜石市の風景
釜石市立中央
大船渡の風景

3日目(3月3日)
宮古市
遠くまで見渡す海
釜石市立中央

4日目(3月4日)
陸前高田・気仙沼
釜石市立中央
シャークミュージアム
リアスアーク美術館
一瞬の瞬間
釜石市立中央

お申込み・お問合せ
市ヶ谷ボランティアセンター(外環校舎1階 学生センター隣)
TEL: 03-3264-9516 E-mail: ichigaya-vc@hosei.ac.jp

1日目は、「釜石観光ボランティアガイドの会」さんの案内の下、市内の視察を行いました。ガイドの方の実体験をお話いただいたり、当時のまま残されている建物を実際に見学することで、参加学生は震災時の状況に思いを馳せ、自分の目で見ることでしか感じられない被災地の現実を学びました。

午後には、「三陸鉄道」の運行する震災学習列車に乗車しました。車窓から海や現在の町の景色を眺めながら、当時の緊迫した様子や防災意識の重要性についてお話をうかがいました。

その後、大船渡市魚市場において、施設の概要や問題点、震災の影響などについてお話を頂いた後、展示コーナーの見学を行いました。

2日目は、「休暇村陸中宮古」さんの案内の下、震災メモリアルパーク中の浜の見学を行いました。ガイドの方のお話を聞きながら実際に震災遺構に触れたり、高台から海を眺めることで、改めて自然災害の威力を感じると共に、現地の方々の故郷への愛や海との向き合い方を知ることができました。

午後には、「学ぶ防災ガイド」さんの案内の下、宮古市の視察を行いました。震災当時、津波が迫ってくる様子が撮影された田老ホテルの一室でビデオを視聴させていただくことで、津波の恐怖をより身近に感じ、記憶の風化を防ぐためには何が大切なのか、深く考えさせられました。

夜は宿舎研修室において感想共有会を行い、ツアーを通して学んだこと、感じたことについて参加者全員で振り返りを行いました。

3日目は「遠野山・里・暮らしネットワーク」さんのガイドの下、陸前高田市の視察を行いました。復興のシンボルとなっている奇跡の一本松や、市内の施設、かさ上げ工事中の街並み等を視察させていただくことで復興の進んでいる面、いない面の両面を感じることができました。

午後は気仙沼市に移動し、シャークミュージアムを見学しました。震災関連の展示や映像を通して、一瞬にして故郷を奪われた方々の苦しみ、そこから立ち上がろうと前を向く力強い姿を学ぶことができました。

最後に、「リアスアーク美術館」において、学芸員さんからお話を頂いた後、展示を見学しました。被災地を見て、

自然災害の恐怖を知るだけでなく、その場所の以前の姿を知ること、悲惨な歴史を繰り返さないために何をすべきなのか1人1人が真剣に考えることが大切だと学びました。

今後もチーム・オレンジでは、震災の風化防止につながるプログラムを実施していきます。

チーム・オレンジ学生スタッフ キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科2年 吉田智美

参加者数

29名



釜石観光ボランティアガイドの会による大槌町役場の案内



ツアーを通して学んだことを参加者間で共有



震災メモリアルパーク中の浜にて津波の恐ろしさを知る



学ぶ防災ガイドさんの案内のもと宮古市の視察



リアスアーク美術館にて被災の写真を鑑賞



集合写真

49. まちのわ「桜まつり」

日時 2018年3月24日(土)

場所 飯田橋グランブルーム

概要

3月24日(土)に「まちのわ 桜まつり」が飯田橋グラン・ブルーム管理組合主催のもと開催されました。

本イベントは飯田橋で生活する、働く、学ぶ、様々な人々が飯田橋グラン・ブルームを舞台に展開されるイベントを通じ多目的に交流できる場づくりを目的に例年開催されており、「見て・感じて・楽しくふれあえる」イベントです。

市ヶ谷ボランティアセンターは、登録団体である児童文化研究会とIVUSAと連携し本イベントを盛り上げ、975名(法政大学のブースの参加者数)の方々に参加していただきました。

児童文化研究会は「東京・春・音楽祭」、「株式会社 KADOKAWA」と協力し、「東京春祭 for kids」と題し、株式会社 KADOKAWA が出版している「はなかっぱ」の絵本(巨大絵本)の読み語りを児童文化研究会が行いその読み語りに合わせて、東京・春・音楽祭の演奏者が音楽を奏でました。

また、児童文化研究会単独でも、自作絵本「大きな株」の読み聞かせを行いました。

IVUSAは風ぐるまの工作体験、バルーンアートと輪投げのコーナーを担当し、来場した子供たちを喜ばせました。本イベントを通して、法政大学学生の取り組みについての認知度向上にも寄与し、キャンパス周辺で生活する人々と本学の学生が交流することが出来ました。ボランティアセンターでこのような取り組みを今後も積極的に行っていきます。



参加者数 23名 (児童、保護者含む総参加者数 975名)



IVUSA のメンバー



自作した輪投げを子どもたちに体験してもらおう IVUSA



風ぐるまの工作体験 IVUSA



自作のバルーンアートを子どもたちにプレゼントする IVUSA



児童文化研究会のかたりにあわせて演奏する東京・春・音楽祭



児童文化研究会のメンバー

2017年度 学生スタッフ(VSP)活動カレンダー

月日	曜日	ミーティング・イベント・訪問	ミーティング・イベント・訪問内容
4月7日	金	第1回ミーティング	新歓企画について、富士山外来種植物駆除、ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング、多言語音声翻訳アプリから学ぶデジタルおもてなし、献血、滝行、ユニバーサルシアター、今後の予定など。
4月10日～14日	月～金	春のボランティアWEEK	ボランティアサークル合同新歓イベント。活動展示。相談ブース、4/12(水)一般学生、新入生に向けて活動報告、説明を行う。
4月14日	金	第2回ミーティング	春ボラ実施報告、エコキャップDEキャンパスツアー、富士山外来種植物駆除ツアー、聴導犬、ブラインドサッカー、多言語音声翻訳、献血、滝行、ユニバーサルシアター、今後の予定について。
4月18日	火	エコキャップDEキャンパスツアー	新入生とVSPメンバーでエコキャップを回収しながら、校内案内をする。
4月20日	木	キャンパス周辺清掃ボランティア	昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア。
4月21日	金	第3回ミーティング	春ボラ実施報告、エコキャップDEキャンパスツアー、富士山外来種植物駆除ツアー、聴導犬、ブラインドサッカー、多言語音声翻訳、献血、滝行、ユニバーサルシアター、今後の予定について。
4月28日	金	第4回ミーティング	富士山外来種植物駆除、聴導犬、ブラインドサッカー、インクルーシブデザイン、献血、滝行、ユニバーサルシアター、WWF(動物系)企画、ポッチャ体験会、フラワーセラピー講座企画など、今後の予定について。
4月～7月	—	えこびよん×くまもんコラボグッズプロジェクト	7月5日～7月7日に実施する「東北・熊本物産展」で販売する商品として、「えこびよん・くまもんコラボトートバック」と「えこびよん・くまもんコラボハンドタオル」の2点を作製。商品の売上金額は全て被災地に寄付。(協力:株式会社エイチ・ユー)
5月12日	金	第5回ミーティング	富士山外来種植物駆除、聴導犬、ブラインドサッカー、インクルーシブデザイン、献血、滝行、ユニバーサルシアター、WWF(動物系)企画、ポッチャ体験会、フラワーセラピー、保護ネコカフェ、子ども食堂企画、今後の予定について。
5月14日	日	富士山外来種駆除ボランティアツアー	富士山麓で外来植物の駆除活動を中心としたボランティア。(協力:NPO法人富士山クラブ)
5月16日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア。
5月19日	金	第6回ミーティング	富士山、聴導犬実施報告。ブラインドサッカー、インクルーシブデザイン、東京メトロ、ポッチャ体験、献血、新しい防災、滝行、ユニバーサルシアター、WWF企画、フラワーセラピー、保護ネコカフェ、今後の予定。
5月22日	月	[東京2020応援プログラム]ブラインドサッカーから学ぶチームビルディング	ブラインドサッカーを体験し、チームビルディングについて学ぶ。(協力:特定非営利活動法人日本ブラインドサッカー協会)
5月23日	火	エコキャップ回収ボランティア	学内のエコキャップの回収。(外濠・富士見坂校舎中心)
5月26日	金	第7回ミーティング	ブラインドサッカー実施報告、インクルーシブデザイン、東京メトロ、ポッチャ体験、献血、新しい防災、滝行、ユニバーサルシアター、WWF企画、フラワーセラピー、保護ネコカフェ、子ども食堂企画、今後の予定。
6月2日	金	第8回ミーティング	インクルーシブデザイン実施報告、東京メトロ、ポッチャ体験教室、献血、新しい防災、多言語音声翻訳アプリ、滝行、ユニバーサルシアター、WWF企画、保護ネコカフェ、子ども食堂企画、車いすフェンシング企画、今後の予定。
6月5日	月	[東京2020応援プログラム]ユニバーサルスポーツポッチャ体験教室	ユニバーサルスポーツ「ポッチャ」講座と体験(協力:一般社団法人日本ポッチャ協会職員) 富士見坂校舎体育館。
6月6日	火	献血×謎～謎解きは献血の間に～	KYOPRO×VSP合同企画 献血ルームにて謎解き、献血(協力:日本赤十字血液センター)。
6月9日	金	第9回ミーティング	東京メトロ、ポッチャ、献血 実施報告。新しい防災、多言語音声翻訳、滝行、ユニバーサルシアター、WWF企画、保護ネコカフェ、子ども食堂、車いすフェンシング、東洋大との打ち合わせなど(富士山清掃)、今後の予定。
6月13日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	雨天中止
6月16日	金	第10回ミーティング	新しい防災、多言語音声翻訳アプリ、滝行体験&森林保全ツアー、ユニバーサルシアター、保護ネコカフェ、子ども食堂、車いすフェンシング、富士見わんぱく広場、フードバンク企画、9月東洋大と交流会(富士山清掃について)、今後の予定。
6月17日・18日	土・日	第19回日本ポッチャ選手権大会運営ボランティア	ポッチャ選手権大会でのボランティア活動。体験教室での学びを活かし、実際のボランティア活動を行う。
6月20日	火	エコキャップ回収ボランティア	学内のエコキャップの回収。(外濠・富士見坂校舎中心)
6月23日	金	第11回ミーティング	新しい防災実施報告。多言語音声翻訳、滝行体験&森林保全ツアー、東北・熊本物産展、ユニバーサルシアター、保護ネコカフェ、子ども食堂、車いすフェンシング、富士見わんぱく広場、フードバンク、M4R、ボートで行く河川清掃。
6月26日	月	[東京2020応援プログラム]多言語音声アプリから学ぶ「デジタル」おもてなし	多言語翻訳の知識を深め外国人ボランティア活動の促進を図る講座とワークショップ(NICT 藤田智子氏)
6月30日	金	第12回ミーティング	多言語翻訳アプリ実施報告、滝行体験&森林保全ツアー、東北・熊本物産展、ユニバーサルシアター、保護ネコカフェ企画、子ども食堂、車いすフェンシング企画、富士見わんぱく広場、フードバンク企画、M4R(Meal for Refugees)、ボートで行く東京清掃、銀座のみつばち、学祭について、東北・熊本物産展、9月東洋大と交流会予定、ベルマーク回収について、今後の予定。
7月2日	日	KYOPRO合同企画 東京の自然を感じよう!滝行体験&森林保全スタディツアー	自然の中で環境保全に対する意識を向上させ、実際に滝行に挑戦してみる(協力:八王子観光案内協会高尾山観光案内所、高尾山薬王院)
7月4日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	雨天中止
7月7日	金	第13回ミーティング	滝行体験&森林保全ツアー実施報告、ユニバーサルシアター、保護ネコカフェ、子ども食堂、車いすフェンシング、富士見わんぱく広場、フードバンク、M4R、ボートで行く清掃、銀座の蜜蜂、学祭について。
7月11日	火	エコキャップ回収ボランティア	学内のエコキャップの回収。(外濠・富士見坂校舎中心)
7月14日	金	第14回ミーティング	ユニバーサルシアター、保護ネコカフェ、子ども食堂、車いすフェンシング、富士見わんぱく広場、フードバンク、M4R、ボートで行く清掃、銀座の蜜蜂から知る、富士山清掃(東洋大と交流会)、今後の予定。
7月21日	金	第15回ミーティング	保護ネコカフェ、子ども食堂、車いすフェンシング、富士見わんぱく広場、フードバンク、M4R、ボートで行く清掃、銀座の蜜蜂、富士山清掃、学祭について、9月2日「街の防災フェスタ」2,3人募集、今後の予定について。

9月19日	火	エコキャップ回収ボランティア	学内のエコキャップの回収。(外濠・富士見坂校舎中心)
9月22日	金	第16回ミーティング	子ども食堂、フードバンク、M4R、ボートでいく清掃、銀座の蜜蜂、富士山清掃(バスレクなど10/4にMTG、学祭について(ココア販売、富士見庭園)、ポッチャ体験会(正面広場)、今後の予定。
9月26日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア。
9月29日	金	[東京2020応援プログラム]日本初のユニバーサルシアターで学ぶバリアフリー映画入門講座	バリアフリー映画鑑賞を体験し、共生についての見識を深める講座。CINEMA Chupki TABATAにて(協力:シネマチュベキタバタ、バリアフリー映画推進団体シティーライツ)
9月29日	金	第17回ミーティング	10月キャンパス周辺清掃、エコキャップ回収について、子ども食堂、フードバンク、M4R、ボートでいく清掃、銀座の蜜蜂から知る、富士山清掃、学祭について(ココア販売、富士見庭園)、ポッチャ体験会(正面広場)、今後の予定。
10月4日	水	富士見わんぱくひろばでおこなう子供・音楽ボランティア	富士見わんぱく広場での楽器演奏や合唱を通じて、音楽の楽しさ、地域貢献ボランティアについて学ぶ。(協力:ふじみわんぱくひろば)
10月6日	金	第18回ミーティング	ユニバーサルシアター、富士見わんぱくひろばボラ実施報告、子ども食堂、フードバンク、M4R、銀座の蜜蜂から知る 富士山清掃、学祭について(ココアの試作、ピラ配りなど)、ツイッター広報開始、新年度のボランティアプログラム企画について、今後の予定。
10月13日	金	猫たちに会いに行こう!～保護ネコカフェで学ぶ動物愛護ツアー～	保護猫カフェでの保護活動について学び、動物愛護に対する意識を高める。講義、猫とのふれあい、お世話体験(協力:株式会社ネコリパブリック)
10月13日	金	第19回ミーティング	子ども食堂、フードバンク、M4R、銀座の蜜蜂から知る、富士山清掃、学祭、ポッチャ体験、活動報告会(12/2)、今後の予定。
10月17日	火	エコキャップ回収ボランティア	学内のエコキャップの回収。(外濠・富士見坂校舎中心)
10月17日・18日	火・水	保護ねこカフェで学ぶ動物愛護ツアー～(清掃ボランティア)	保護猫カフェでの清掃ボランティア
10月20日	金	第20回ミーティング	保護ネコカフェ実施報告 子ども食堂、フードバンク、銀座の蜜蜂から知る、学祭について、ポッチャ体験教室、12/2活動報告会、今後の予定。
10月23日	月	[東京2020応援プログラム]車いすフェンシングから考えるバラスポーツの世界	パラリンピック競技車いすフェンシング、講義と体験(NPO法人 日本車いすフェンシング協会)
10月25～27日	水～金	[東京2020応援プログラム]ポッチャ体験教室@正面広場	正門前広場にて、全校学生対象のポッチャ体験教室&大会、パラリンピック競技ポッチャの周知(東京2020 連携プロジェクトチーム)
10月27日	金	第21回ミーティング	車いすフェンシング実施報告、子ども食堂、フードバンク、銀座の蜜蜂から知る、ゴールボール(参加者募集)、学祭について、活動報告会、富士山延期(11/26)、今後の予定。
10月28日	土	富士見わんぱくひろば「わんぱくこどもまつり2017」	約600名もの参加者がある地域児童館最大のイベントに学生ボランティアとして協力、参加(協力:ふじみわんぱくひろば)
10月31日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア。
11月6～10日	月～金	Meal for Refugees(M4R) 学食企画～おいしい国際協力はじめませんか～	難民の方たちの郷土料理を学食で提供、寄付金を難民支援協会を通じ支援活動に送る学食企画。(協力:東京ケータリング株式会社)
11月10日	金	Meal for refugees 特別講義 難民のこと知っていますか?	難民の疑似体験をするワークショップなどや難民の現状についてなどの講義(NPO法人 難民支援協会)
11月10日	金	第22回ミーティング	学祭の報告、反省 子ども食堂、フードバンク、銀座の蜜蜂、ゴールボール、活動報告会
11月11日	土	<法政大学公開企画>保健体育部主催 競技活動やボランティア活動で成長する学生たち	スポーツやボランティアなどの課外活動と学業を両立させている学生の総長との対談
11月14日	火	エコキャップ回収ボランティア	学内のエコキャップの回収。(外濠・富士見坂校舎中心)
11月15日	水	[東京2020応援プログラム]サクラテラス調査隊～バリアフリーアプリで地域貢献ボランティア～	バリアフリー情報アプリで商業施設を調査、地域のバリアフリーに対する意識を高める講義と実施(株式会社ミライロ、三井不動産商業マネジメント株式会社)
11月17日	金	第23回ミーティング	12月のキャンパス周辺清掃ボラ、エコキャップ回収ボラ、M4R実施報告、子ども食堂、フードバンク、銀座の蜜蜂、ゴールボール、12/2活動報告会、次期代表(中野さん)、副代表(菅さん)について、今後の予定。
11月18日	土	[東京2020応援プログラム]みんなで遊ぼうこども食堂ボランティア ポッチャ編	様々な家庭事情の子どもたちとポッチャを通じて触れ合い、児童福祉について考える。(高円寺こども食堂)
11月21日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア。
11月24日	金	第24回ミーティング	子ども食堂(ポッチャ編)実施報告、子ども食堂(クリスマス編)企画進捗状況、フードバンク、銀座の蜜蜂から知る、ゴールボール、12/2活動報告会、次期代表、副代表について(再周知)、今後の予定。
11月26日	日	富士山清掃ボランティアツアー	富士山麓のトレッキングと清掃を通じ、環境保護やボランティア活動について考える。
12月1日	金	第25回ミーティング	富士山清掃実施報告、ポッチャ東京カップ2018大学選手権 実施報告、子ども食堂(クリスマス編)、フードバンク、銀座の蜜蜂から知る、ゴールボール、12/2活動報告会、春のボランティアWEEKについて、今後の予定。
12月3日	日	[東京2020応援プログラム]日本橋発!ボートで行く水の街 東京清掃ボランティア	船での清掃活動から、東京の自然や親水都市としての美しさを時間するプログラム。
12月8日	金	第26回ミーティング	ピアニット活動報告会、ボートで行く清掃 実施報告、子ども食堂、フードバンク、銀座の蜜蜂から知る、ゴールボール進捗状況、高円寺子供食堂学習ボランティアについて、春のボランティアウィークについて、今後の予定。
12月9日	土	[東京2020応援プログラム]食べ物の銀行「フードバンク」～家庭にある缶詰、貯金しませんか?～	食品ロスとフードバンクに関する講義と参加者持参による食材使用の調理。(セカンドハーベスト・ジャパン 講師)
12月10日	日	銀座の蜜蜂から知る大都会東京の自然	都市の自然環境との共生を理解し、全国の農家の支援を目的とした社会的貢献を学ぶ。(特別非営利活動法人 銀座ミツバチプロジェクト)

12月15日	金	第27回ミーティング	フードバンク、蜜蜂実施報告、子ども食堂(クリスマス編)、ゴールボール、エコびよんバッグづくり、難民支援プログラム、春のボランティアウィーク進捗状況
12月14日	木	エコキャップ回収ボランティア	学内のエコキャップの回収。(外濠・富士見坂校舎中心)
12月16日	土	[東京2020応援プログラム]こどもたちに素敵なクリスマス～子ども食堂ボランティア クリスマス編	様々な家庭事情の子どもたちにクリスマスソングの演奏や歌を提供する。児童福祉について考える。(高円寺こども食堂)
12月19日	火	キャンパス周辺清掃ボランティア	昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア
12月22日	金	第28回ミーティング	子ども食堂(クリスマス編)実施報告、新歓時期に向けて、役割にかんして、各プログラム広報に関して、ゴールボール、エコびよんバッグづくり、難民支援プログラム、春のボランティアウィークについて、VSPパーカーについて、VSP役職について、今後の予定。
1月11日	木	キャンパス周辺清掃ボランティア	昼休み時間内での外濠周辺の清掃ボランティア。
1月12日	金	第29回ミーティング	春の新歓時期に向けて、ヘルマークなどの回収について、ゴールボール企画、エコびよんバッグ作り、難民支援プログラム、春ボラについて、VSPパーカーについて、役割について、今後の予定。
1月19日	金	第30回ミーティング	ボランティア総合講座のカテゴリについて、役割について、企画の広報担当について、ゴールボール、エコびよんバッグ作り、難民支援プログラム、春ボラについて、VSPパーカー、役割について、今後の予定。

部分は、実際のイベントや講座等の日程

【付記】

- 2017年度は原則、金曜日の昼休みにミーティングを実施。
- ミーティングは原則、職員が同席した。

2017年度 チームオレンジ活動カレンダー

月日	曜日	ミーティング・イベント・訪問	ミーティング・イベント・訪問内容
4月10日～14日	月～金	春のボランティアWEEK	ボランティアサークル合同新歓イベント。活動展示、説明会も実施。
4月11日	月	第1回(前期)ランチミーティング	復興庁の「心の復興」事業説明(橋葉プロジェクト)、新入生向け各プロジェクトの説明、次回予定。
4月15日・16日	土・日	環境省連携事業橋葉町「春の花」写真撮影会	復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施される【休耕田を活用した花畑づくり】学生が創生した花畑での交流会&花畑での撮影会。
4月18日	火	第2回(前期)ランチミーティング	橋葉プロジェクト(撮影画像を写真展に)、防災班「そなエリア」での防災体験、物産展「販売商品」について、今後の予定。
4月25日	火	第3回(前期)ランチミーティング	橋葉プロジェクト(写真展報告)、物産展、防災班「そなエリアについて」、SNSについて、BBQについて、今後の予定。
4月26日	火	第1回(前期)放課後ミーティング	スタツア班 昼休みミーティング、橋葉プロジェクト(6月3日～4日花植え)自己紹介。
5月2日	火	第4回(前期)ランチミーティング	東北被災地ボランティア日程決定、今後の予定。
5月9日	火	第5回(前期)放課後ミーティング	災害救援ボランティア講座申し込みについて、新歓食事について。
5月13日・14日	土・日	橋葉町田植えボランティア	復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施される【ならば米づくり】橋葉町での「ならば米の田植え」ボランティア活動。
5月16日	火	第6回(前期)ランチミーティング	橋葉プロジェクト(5～10月予定)、防災班(避難所体験について)、今後の予定。
5月23日	火	第7回(前期)ランチミーティング	物産展班(プレ販売について)、お知らせ(ボランティア総合講座、放課後会議、新歓BBQ)。
5月26日	火	第2回(前期)放課後ミーティング	8月東北被災地ボランティアについて、橋葉写真展について、6/25避難所体験について、6/20ボランティア総合講座、学祭運営について、昨年の活動をプロジェクトで投影
5月26日～31日	金～水	橋葉町写真展@オリンパスプラザクリエイティブウォール(新宿)	復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施された橋葉町での【休耕田を活用した花畑づくり】「菜の花撮影会」の学生作品の写真展。
5月30日	火	第8回(前期)ランチミーティング	8月東北被災地ボランティア、6/25避難所体験、6/20ボランティア総合講座、学祭班、6/20災害救援ボランティア講座参加について。
6月3日・4日	土・日	福島橋葉町 クリーンアップ活動	復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施された橋葉町での【町の景観向上】花植え、クリーンアップ活動、花壇づくりなどの活動。
6月6日	火	第9回(前期)ランチミーティング	橋葉プロジェクト、7/6・7物産展、8/22～9/4東北被災地ボランティア、今後の予定(6/20ボランティア総合講座、6/22放課後会議、6/25避難所体験)について。
6月15日	水	第10回(前期)ランチミーティング	こども班(8/8～9子供支援について)、東北被災地ボランティア、物産展班(7/5プレ販売について)、今後の予定(ボランティア総合講座など)
6月20日	火	《東京2020応援プログラム》ボランティア総合講座「新しい防災」と「地域コミュニティの力を活かした復興まちづくり」	東日本大震災の復興の現状と今後、防災ガールの取り組み、スマホで学べる「新しい防災」についてなど。講師：田村隆雅氏、岡木愛美氏
6月22日	木	第3回(前期)放課後ミーティング	物産展班(販売商品についてなど)、学祭班(販売内容についてなど)、東北被災地ボランティア、今後の予定。
6月25日	日	《東京2020応援プログラム》避難所体験	避難所で役立つ知識を学び、避難所運営についての理解を深める。災害発生時の避難所で、補助的な役割や自発的な行動をしておくことも学ぶ。
6月27日	水	第11回(前期)ランチミーティング	8/22～9/4東北被災地ボランティア、7/6・7物産展について、今後の予定。
4月～7月	一	えこびよん扇子プロジェクト(後援会父母懇談会贈呈品)	後援会父母懇談会に参加されるご父方に配付する扇子(5000本)をデザイン、配布。
7月4日	火	第12回(前期)ランチミーティング	物産展(スタッフについて)、東北被災地ボランティア(参加定員について)、今後の予定。
7月5日	水	東北・熊本物産展～美味しく楽しく被災地を支援しよう～東北・熊本物産展プレ販売	物産展のプレ販売(物産展の告知も兼ねての事前販売)。
7月6日・7日	木・金	東北・熊本物産展	東北・熊本の物産を販売し、来場者354名来場、売上額311,320円、利益36,427円はすべて、熊本、岩手、宮城、福島の義援金口座に寄付した。
7月6日～14日	木～金	～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」 福島県橋葉町の休耕田を活用した花畑の写真展	4月に撮影した学生の作品をHUさんの協力により一口校舎で物産展期間中に展示。
7月10日	火	第4回(前期)放課後ミーティング	東北被災地ボランティア、物産展班(物産展について)、学祭(販売担当メンバーについて)、春学期振り返り、九州北部豪雨への支援、今後の予定
7月18日	火	第13回(前期)ランチミーティング	夏休みの予定(8/7～10子供支援、8/22～9/4東北被災地ボランティア、9/2まちのわ、9/5橋葉スタツア、他大イベント情報、学祭、法政フェア、一風堂×法政企画について)
8月3日～4日	木～金	《東京2020応援プログラム》～電通育英会助成事業～東北被災地ボランティアツアー ボランティア下見	8/22～9/4東北被災地ボランティアの事前検討。
8月10日	木	《東京2020応援プログラム》～電通育英会助成事業～東北被災地ボランティアツアー 事前説明会	8/22～9/4東北被災地ボランティアの事前説明会。
8月22日～9月4日	木～金	東北被災地ボランティアツアー(遠野)	チーム・オレンジの基幹ボランティア、3隊(各15名)で車中泊、現地2泊の行程。若手県遠野市周辺で活動。
9月2日	土	防災まちのわフェスタ@飯田橋サクラテラス	飯田橋グラン・ブルーム管理組合主催のイベント。理工学部知能ロボット研究室(伊藤研究室)、キャリアデザイン学部荒川ゼミ、チーム・オレンジ、IVUSAが参加。
9月17日	日	【一風堂×法政大学チーム・オレンジコラボ企画】東北熊本物産展@法政フェア	法政フェアで物産展で売れ筋だった商品の販売をした。
9月19日	火	第5回(後期)放課後ミーティング	スタディツアーについて、防災班(飯田橋サクラテラス防災フェスタ)、気仙沼子ども支援、物産展班(法政フェア)、東北被災地ボランティア、学祭、その他(福島フェス、新代表について、今後の予定)。
9月26日	火	第14回(前期)ランチミーティング	9/30～10/1橋葉町にて福列りボランティア、10/14、15福島フェス、10/10事前説明会についてなど。
9月30日・10月1日	土・日	～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」 橋葉町での福列り	復興庁の「心の復興」事業の交付金を用いて実施された橋葉町での【ならば米づくり】9月の福列り。
10月3日	火	第15回(前期)ランチミーティング	橋葉町福列りについての報告、学祭シフトについて、防災班(防災×一風堂企画)、10/11鳥野教授講話、今後の予定。
10月10日	火	第16回(前期)ランチミーティング	橋葉プロジェクト(福島フェス)、学祭(アンケートについてなど)、ミーティングの教室について、放課後会議について。
10月11日	水	鳥野教授&チーオレ活動報告会	東北被災地支援について鳥野教授と語る。今後の被災地支援について考える。
10月14日・15日	土・日	～環境省・株式会社電通連携事業～「若者と進める景観植物を活用した休耕田の活性化事業」 福島フェス2017	福島フェスのならばみらいのブースを手伝う。ならば米1000袋の配布など。
10月17日	火	第17回(前期)ランチミーティング	福島フェス報告、学祭シフトについて、11月の放課後会議。
10月24日	火	第18回(前期)ランチミーティング	11月放課後会議日程について、11/11、12高岡町えびす講市について、12/2ピアニスト合同研修会、学食についてなど。
10月31日	火	第19回(前期)ランチミーティング	スタディツアー(12/10)について、グループLINEについて、10/31学食企画試食会、11/1～昼休み学祭準備。
11月6日	月	第6回(後期)放課後ミーティング	防災班(児童館での防災企画、一風堂とコラボ)、スタツア班(福島12/10、岩手・宮城3/1～4)、子ども班(クリスマス会12/25～28)、3月に新ボランティア、広報班(チーオレ新聞)、学食班(11/10～学食企画)、ならば係(担当者募集)、卒業生からの話。
11月14日	火	第20回(前期)ランチミーティング	スタツア班(福島スタツア、岩手・宮城スタツア)、防災班(一風堂とのコラボ企画)、学食班(メニュー決定)、子ども班(昼会議予定、クリスマス会、年賀状、防災企画)、3/11募金について、放課後会議、ふくしまワークメソッドC A F E
11月20日～24日	月～金	お昼ごはん東北へ出かけませんか?～東北復興支援メニュー～(チーオレ学食企画)	チーム・オレンジ企画。学食(生協)で東北被災地復興支援メニューとして東北ゆかりのメニューを提供。
11月21日	火	第21回(前期)ランチミーティング	学食班(売れ行き好調、呼び込み募集)、スタツア班(一風堂コラボ企画検討中)、こども班(イベント仮決定)、3/11募金(他の方法を検討)、放課後会議、新歓係募集。
11月25日	土	福島ワークメソッドC A F E 千秋ヶ谷	首都圏の大学生と福島県の企業の若手社員が、座談会や食事などで交流できるイベント。
11月28日	火	第7回(後期)放課後ミーティング	学食班(461食売り上げ)、スタツア班(岩手・宮城スタツア、ふくしま浪江まち物語コンサート、福島スタディツアー)、募金について、忘年会、静岡県(1/20・21)県上訓練。
12月10日	日	《東京2020応援プログラム》《電通育英会助成事業》チームオレンジ企画・福島スタディツアー	福島県いわき市、双葉郡浪江町を中心に訪問。震災の被災地復興について現地でも学ぶ。チーム・オレンジ学生スタッフが企画。
12月17日	日	ワカモノ防災学校	防災についてのトークセッションに参加。登壇して防災に関する意見を発表。
2月17日	土	【一風堂×法政大学チーム・オレンジコラボ企画】楽しくまなぶ餃子づくりと防災	千代田区ふじみわんぱくひろばで、子どもと餃子を作り、チーム・オレンジスタッフ企画の防災啓発をするボランティア、一風堂協力。
3月1日～4日	木～日	《電通育英会助成事業》チーム・オレンジ企画『岩手・宮城被災地スタディツアー』	釜石、大船渡、宮古、陸前高田、気仙沼で現地でも震災について、復興について学ぶ。

部分は、実際のイベントや講座等の日程

【付記】

- 毎週火曜日の昼休みに実施。
- ミーティングは原則、職員が同席した。